

履修案内

2026年度

Syllabus



学校法人 のしろ文化学園

秋田しらかみ看護学院

目 次

教育理念・教育目的・教育目標

カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー	1
期待する卒業生像	2
カリキュラム構造図	3
評価単位	4
担当教員・講師一覧	7
カリキュラムマップ	11
基礎分野の目的・目標	12
専門基礎分野の目的・目標	27
専門分野の目的・目標	53
基礎看護学の目的・目標	54
基礎看護学の構成	55
地域・在宅看護論の目的・目標・構成	69
成人看護学の目的・目標・構成	78
老年看護学の目的・目標・構成	84
小児看護学の目的・目標・構成	88
母性看護学の目的・目標・構成	92
精神看護学の目的・目標・構成	97
看護の統合と実践の目的・目標・構成	101

教育理念

社会構造の急速な変化、殊にも激進する高齢化に伴う「医療・保健・福祉」の問題は、今日日本社会が直面する最大課題のひとつである。

本学院は、この時代的要請に応え、「いのちとその尊厳を護るはたらき」のフロントに気概をもって立ち、高度な医療・保健・福祉に対応できる確かな知識と実践力そして倫理観を備えた看護師の養成を教育の根本とする。

I. 教育目的

いのちの尊厳と人権を護り、看護専門職として必要な知識と実践力をもって変化する地域社会に貢献できる看護師の育成を目的とする

II. 教育目標

1. 看護の対象者である人間を統合的に捉え、生活者として理解する
2. 専門職業人として、看護倫理に基づいて看護を実践する基礎的能力を養う
3. 人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を実践する基礎的能力を養う
4. 社会を取り巻く情勢を理解し、地域で暮らす人々の健康の保持・増進、疾病予防、回復を目指した看護を実践する基礎的能力を養う
5. 他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働するための基礎的能力を養う
6. 看護専門職として、探究心を持って学び続ける力を養う

III. アドミッションポリシー

1. 本学への入学を強く志し、看護職として働きたいという明確な意志をもっている
2. 人に関心を持ち、人に向き合い、人の心を理解し、相手を尊重している
3. さまざまな価値観を受け入れ、人と関わるための努力ができる
4. 協調性があり、誠実に行動できる
5. 主体的に学んでいこうとする意欲と姿勢、創造力がある
6. さまざまな活動や人と交流する場に積極的に参加できる
7. 看護を学ぶ上での必要な基礎学力がある

IV. カリキュラムポリシー

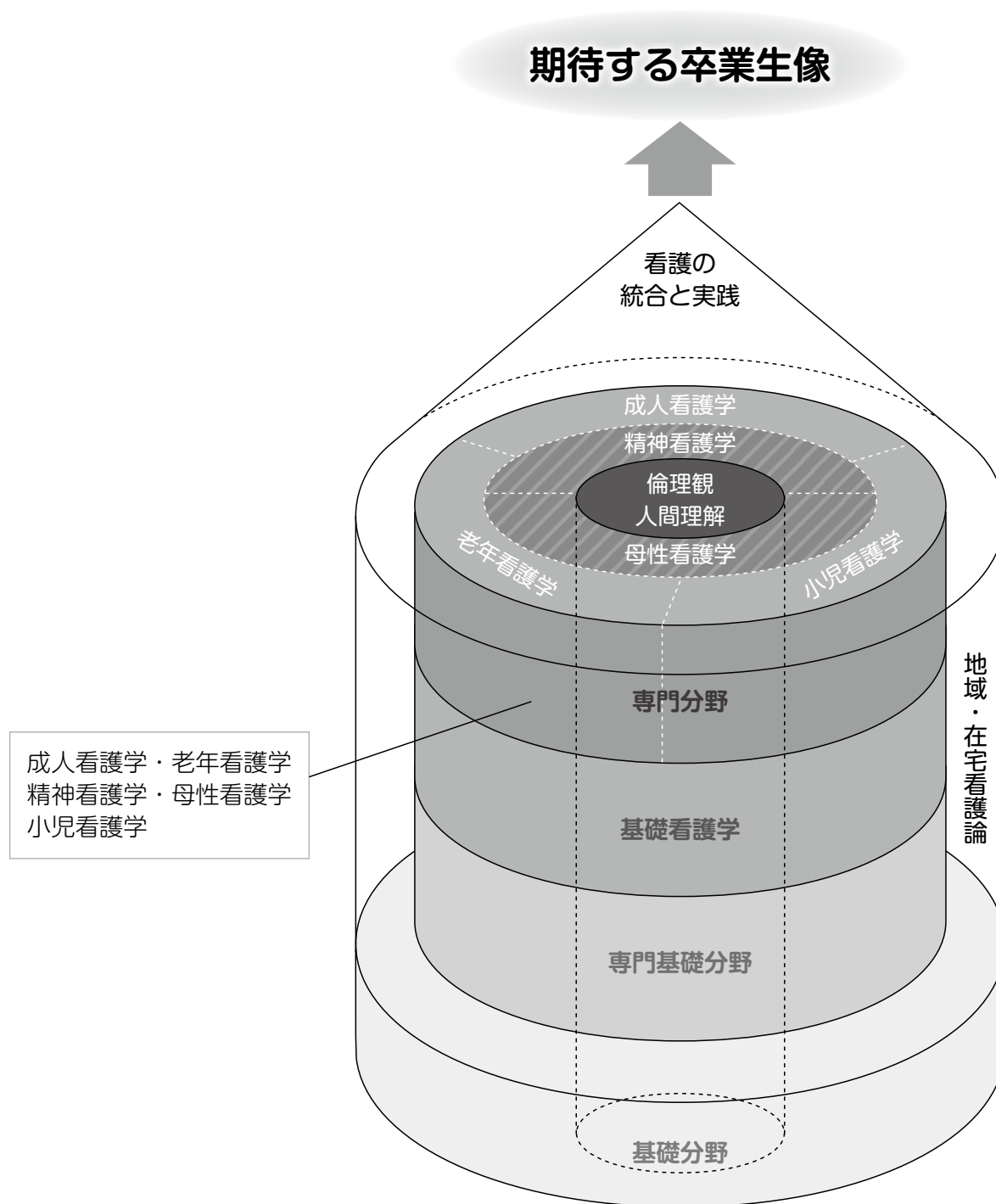
1. 本学院のカリキュラムは、人間理解と倫理観を軸に基礎分野、専門基礎分野、専門分野を1年次から系統的に学べる構造とする
2. 「基礎分野」では、看護の対象である「人間」について深く学び、社会人基礎力および看護者としての教養や倫理観を育成するための科目設定とする。
3. 「専門基礎分野」では、専門分野を学ぶ上で必要な解剖学や疾病論といった医学的知識と人間の生活を守るための法律や福祉について学ぶ。

4. 「専門分野」は、看護の統合と実践の場として、地域で生活する人々の健康の保持増進を援助するために「地域・在宅看護論」を配置、ライフサイクル別に「小児」、「成人」、「老年」を学ぶ。生涯にわたっての健康を支援する科目として「母性」「精神」を構成した。
5. 「講義」「演習」「実習」を通して、看護職として必要な人間性と倫理観を育成し、基礎的知識と技術を獲得できるカリキュラムとする

V. 期待する卒業生像

1. (人間)対象者を統合的(=身体的・心理的・社会的・文化的側面)からに理解している。
2. 看護職として人に対する尊厳を重んじた行動ができる基礎的能力を持っている
 - ①社会常識を身に着けて、他者に対して思いやりのある態度や行動がとれる。
 - ②信頼関係の形成に必要なコミュニケーションがとれる。
 - ③看護職としての倫理観をもち、法令を遵守した行動がとれる。
 - ④対象者の選択権および決定権を尊重した行動がとれる。
3. 科学的な根拠に基づき、健康問題を解決する能力を持っている。
 - ①対象の健康レベルに応じて、健康の保持・増進、回復過程を支援する方法を理解している。
 - ②対象の価値観を尊重し、科学的根拠に基づいた看護を実践している。
 - ③対象の状況に合わせ、安全・安楽・自立/自律に留意した看護を実践している。
4. 地域における健康課題と看護の機能や役割を理解している
 - ①地域活動への参加を通して地域の特性や健康課題を理解している。
 - ②保健・医療・福祉の動向に関心を持ち、制度を理解している。
 - ③地域包括ケアシステムの観点から、多様な場における看護の機能と役割について理解している。
 - ④生涯各期における健康の保持増進や疾病予防、自立/自律に向けた回復過程における看護の役割を理解している。
5. 保健・医療・福祉チームの一員として看護師の役割と責任、連携・協働の必要性について理解している。
 - ①医療・福祉チームにおける看護師および他職種の役割と機能を理解している。
 - ②看護チーム内における看護師の役割と責任を理解している。
 - ③看護チームの一員として他職種と協力し、連携・協働の必要性について理解している。
6. 看護職として成長していくために主体的に学習する姿勢がある。
 - ①看護専門職としての能力の維持・向上に努める必要性を理解している。
 - ②粘り強く、自らの課題に取り組むことができる。

VII カリキュラム構造図



評価単位(R8)

区分	教育 内容	授業科目	単位数	時間数	1 年 次				2 年 次				3 年 次			
					前 期		後 期		前 期		後 期		前 期		後 期	
					単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間
基 礎 分 野	科学的思考の基盤	文 章 表 現	1	30	1	30										
		情 報 科 学	1	30	1	30										
		倫 理 学	1	15			1	15								
		社 会 と 生 活	1	30	1	30										
		人 間 関 係 論	1	30	1	30										
		コミュニケーション論	1	30			1	30								
	人間と生活	心 理 学	1	30	1	30										
		教 育 学	1	30					1	30						
		環 境 科 学	1	30	1	30										
	社会の理解	人 間 発 達 学	1	30			1	30								
		英 語	1	30	1	30										
		クリティカルシンキング	1	30	1	30										
		運 動 と レクリエーション	1	30	1	30										
		ボ ラ ン テ ィ ア 論	1	15			1	15								
	基 礎 分 野 小 計		14	390	9	270	4	90	1	30						
専 門 基 礎 分 野	人体の構造と機能	解 剖 生 理 学 I	1	30	1	30										
		解 剖 生 理 学 II	1	30	1	30										
		解 剖 生 理 学 III	1	30	1	30										
		形 態 機 能 学	1	30					1	30						
		代 謝 栄 養 学	1	30			1	30								
	疾病の成り立ちと回復の促進	病 理 学	1	15			1	15								
		感 染 症 と 微 生 物 学	1	30	1	30										
		疾 病 論 I 呼 吸 器	1	15			1	15								
		疾 病 論 II 循 環 器	1	15			1	15								
		疾 病 論 III 内 分 泌 代 謝 消 化 器	1	30			1	30								
		疾 病 論 IV 腎 泌 尿 器	1	15					1	15						
		疾病論V血液造血器免疫アレルギー皮膚歯	1	30					1	30						
		疾病論VI運動器脳神経耳鼻咽喉眼	1	30							1	30				
		薬 理 学	1	30					1	30						
		治 療 論 I 検 査 麻 酔 手 術 放 射 線 ME	1	30					1	30						
		治 療 論 II 食 事 と 栄 養	1	15							1	15				
		治 療 論 III リ ハ ビ リ テーション	1	15							1	15				
		小 計	17	420	4	120	5	105	5	135	3	60				
	社会保健支援と	公 衆 衛 生 学	2	30					2	30						
		関 係 法 規	1	15							1	15				
		社 会 福 祉 論	2	30							2	30				
		保 健 医 療 福 祉 論	1	15			1	15								
		小 計	6	90			1	15	2	30	3	45				
	専 門 基 礎 分 野 小 計		23	510	4	120	6	120	7	165	6	105				

評価単位(R8)

区分	教育内容	授業科目	単位数	時間数	1 年 次				2 年 次				3 年 次			
					前 期		後 期		前 期		後 期		前 期		後 期	
					単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	1	30										
		看護倫理	1	15							1	15				
		共通基本技術Ⅰコミュニケーション・感染対策ほか	1	30	1	30										
		共通基本技術Ⅱヘルスアセスメント	1	30			1	30								
		共通基本看護技術Ⅲ環境調整活動・休息援助ほか	1	30	1	30										
		日常生活援助技術Ⅰ食事・排泄援助技術	1	30	1	30										
		日常生活援助技術Ⅱ清潔・衣生活援助	1	30	1	30										
		診療の補助技術 与薬・診察検査処置	1	30			1	30								
		臨床看護技術 呼吸・循環を整える技術・救命救急処置ほか	1	30					1	30						
		看護過程Ⅰ	1	30			1	30								
		看護過程Ⅱ演習	1	15			1	15								
		看護研究Ⅰ 看護研究の基礎	1	15							1	15				
		看護研究Ⅱ演習	1	15									1	15		
		小計	13	330	5	150	4	105	1	30	2	30	1	15		
		基礎看護学 小計	13	330	5	150	4	105	1	30	2	30	1	15		
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論概論Ⅰ	1	15	1	15										
		地域・在宅看護論概論Ⅱ	1	15			1	15								
		方法論Ⅰ	1	15					1	15						
		方法論Ⅱ	1	30					1	30						
		方法論Ⅲ	1	30							1	30				
		方法論Ⅳ	1	15									1	15		
		小計	6	120	1	15	1	15	2	45	1	30	1	15		
	成人看護学	成人看護学概論	1	15			1	15								
		方法論Ⅰ急性期周手術期 クリティカルケア	1	30					1	30						
		方法論Ⅱ回復期	1	30					1	30						
		方法論Ⅲ慢性期	1	30					1	30						
		方法論Ⅳ終末期	1	30							1	30				
		方法論Ⅴ看護過程	1	15							1	15				
		小計	6	150			1	15	3	90	2	45				
	老年看護学	老年看護学概論	1	15			1	15								
		方法論Ⅰ	1	30					1	30						
		方法論Ⅱ	1	15					1	15						
		方法論Ⅲ	1	30							1	30				
		小計	4	90			1	15	2	45	1	30				
	小児看護学	小児看護学概論	1	15			1	15								
		方法論Ⅰ	1	30					1	30						
		方法論Ⅱ	1	30					1	30						
		方法論Ⅲ	1	30							1	30				
		小計	4	105			1	15	2	60	1	30				

評価単位(R8)

区分	教育 内容	授業科目	単位数	時間数	1 年 次				2 年 次				3 年 次				
					前 期		後 期		前 期		後 期		前 期		後 期		
					単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位
専門分野	母性看護学	母 性 看 護 学 概 論	1	15			1	15									
		方 法 論 I	1	30					1	30							
		方 法 論 II	1	30					1	30							
		方 法 論 III	1	30							1	30					
		小 計	4	105			1	15	2	60	1	30					
	精神看護学	精 神 看 護 学 概 論	1	15			1	15									
		方 法 論 I	1	30					1	30							
		方 法 論 II	1	30					1	30							
		方 法 論 III	1	30							1	30					
		小 計	4	105			1	15	2	60	1	30					
	看護の統合と実践	医 療 安 全 と 看 護	1	30							1	30					
		国 際 協 力 と 災 害 看 護	1	15									1	15			
		看 護 管 理	1	15									1	15			
		看 護 技 術 総 合	1	30											1	30	
		小 計	4	90							1	30	2	30	1	30	
	小 計			45	1095	6	165	10	195	14	390	10	255	4	60	1	30
	臨地実習	基礎看護学実習 I	1	45			1	45									
		基礎看護学実習 II	2	90					2	90							
		地域・在宅看護論実習 I	1	45	1	45											
		地域・在宅看護論実習 II	2	90									2	90			
		成人・老年看護学実習 I (回復期・慢性期)	2	90							2	90					
		成人・老年看護学実習 II (周手術期)	2	90									2	90			
		成人・老年看護学実習 III (終末期)	2	90									2	90			
		老年看護学実習 I	1	45			1	45									
		老年看護学実習 II	2	90									2	90			
		小児看護学実習	2	90									2	90			
		母性看護学実習	2	90									2	90			
		精神看護学実習	2	90									2	90			
		統合実習	2	90											2	90	
	専 門 分 野 小 計			68	2130	7	210	12	285	16	480	12	345	18	690	3	120
総 計			105	3030	20	600	22	495	24	675	18	450	18	690	3	120	
学 年 別 合 計			単 位	42				42				21					
			時 間 数	1095				1125				810					

担当教員・講師一覧							
分野	科目	単位	時間	講師名	専・兼	実務経験	所 属
基礎分野	文章表現	1	30	菊池 一二三	兼		
	クリティカルシンキング	1	30	田子 多津子	兼		秋田大学
	倫理学	1	15	田子 多津子	兼		日本赤十字秋田看護大学
	社会と生活	1	30	石沢 真貴	兼		秋田大学教育文化学部
	人間関係論	1	30 試験 込	澤田 尚子 他	兼	○	能代厚生医療センター
	コミュニケーション論	1	26 4	齋藤 和樹 安藤 美紀	兼 兼	○ ○	地域医療機能推進機構秋田病院
	心理学	1	30	佐々木 久長	兼		
	教育学	1	30	武田 篤	兼		
	人間発達学	1	30	武田 篤	兼		
	情報科学	1	30	辻内 裕	兼		秋田大学大学院工学資源学部
	英語	1	30	佐々木 圭子	兼		
	環境科学	1	30	小川 敦史 他	兼		秋田県立大学生物資源科学部
	運動とレクリエーション	1	30	小笠原 光	兼		能代市体育協会
	ボランティア論	1	15	近藤 美喜 越後 康一 大谷 美帆子	専 兼 兼		秋田しらかみ看護学院 NPO 法人eナビステーションりあん 能代市民活動センター (おらほの産科小児科を守る会)
専門基礎分野	解剖生理学Ⅰ～Ⅲ	3	90	今井 克幸	兼	○	東京アカデミー看護医療予備校
	形態機能学	1	30	船越 広大	兼	○	
	代謝栄養学	1	30	船越 広大	兼	○	
	病理学	1	15	今井 克幸	兼	○	東京アカデミー看護医療予備校
	感染症と微生物学	1	30	志村 洋一郎	兼		秋田県立大学生物資源科学部
	疾病論Ⅰ 呼吸器	1	15 試験 込	松崎 郁夫	兼	○	能代厚生医療センター
	疾病論Ⅱ 循環器	1	15 試験 込	渡部 葉子 (4) 京 吉紀 (2) 淡路 利行 (4) 木村 俊介 (4)	兼	○	京内科クリニック 〃 淡路医院 木村医院
	疾病論Ⅲ 内分泌・代謝・消化器	1	30	今井 克幸 (10) 白坂 知之 (20)	兼	○ ○	東京アカデミー看護医療予備校 白坂内科胃腸科医院
	疾病論Ⅳ 腎泌尿器・男性生殖器	1	15 試験 込	高橋 誠 他	兼		能代厚生医療センター
	疾病論Ⅴ 血液造血器	1	30	藤島 直仁 (12) 船越 広大 (2)	兼	○	能代厚生医療センター
	〃 免疫アレルギー			今井 克幸 (10)	兼	○	東京アカデミー看護医療予備校
	〃 皮膚			小野塚 直也 (4)	兼	○	小玉医院
	〃 歯			田村 誠 (2)	兼	○	たむら歯科

担当教員・講師一覧							
分野	科目	単位	時間	講師名	専・兼	実務経験	所 属
専門基礎分野	疾病論Ⅵ 運動器	1	30	佐藤 毅 (12)	兼	○	能代厚生医療センター
	〃 脳神経			濱崎 亮 (12)	兼	○	能代厚生医療センター
	〃 耳鼻咽喉			三原 国昭 (4)	兼	○	能代厚生医療センター
	〃 眼			工藤 ゆかり (2)	兼	○	工藤眼科
	薬理学	1	30	斉藤 匡昭 他 船越 広大	兼	○	能代厚生医療センター
	治療論Ⅰ 手術・麻酔	1	18	岩崎 渉 (18)	兼	○	能代山本医師会病院
	〃 臨床検査		16	山田 利信 他	兼	○	能代厚生医療センター
	〃 放射線		14	落合 一登	兼	○	地域医療機能推進機構秋田病院
	〃 ME		12	千葉 秀平	兼	○	能代厚生医療センター
	治療論Ⅱ 食事と栄養	1	15 試験 込	石黒 祐香子 (2) 宮腰 和美 (12)	兼	○	地域医療機能推進機構秋田病院
	治療論Ⅲ リハビリテーション	1	15	滝田 大知 (4) 石川 周 (4) 齊藤 彩乃 (2) 齊藤 進 (2) 柴田 信行 (2)	兼	○	能代厚生医療センター 〃 森岳温泉病院 能代山本訪問看護ステーション 介護老人保健施設 やかた
	公衆衛生学	2	30	中田 克平 (24) 渡邊 正樹 (6)	兼 専	○	秋田しらかみ看護学院
	関係法規	1	15	中田 克平	兼	○	
	社会福祉論	2	30	土室 修	兼	○	日本赤十字東北看護大学介護福祉短期大学部
専門分野	保健医療福祉論	1	15	太田原 康成 櫻井 史子 松森 ゆか 渡邊 正樹	兼 兼 兼 専	○	能代厚生医療センター 地域医療機能推進機構秋田病院 〃 秋田しらかみ看護学院
	看護学概論	1	30	近藤 美喜 大塚 博徳	専 兼	○ ○	秋田しらかみ看護学院 地域医療機能推進機構秋田病院
	看護倫理	1	15	加藤 栄子 (8) 野呂田 新 (8)	兼	○	地域医療機能推進機構秋田病院
	共通基本技術Ⅰ	1	30	櫻田 有紀子	専	○	秋田しらかみ看護学院
	共通基本技術Ⅱ	1	30	袴田 圭真	専	○	秋田しらかみ看護学院
	共通基本技術Ⅲ	1	30	山平 良子 袴田 圭真 他	専	○	秋田しらかみ看護学院

担当教員・講師一覧							
分野	科目	単位	時間	講師名	専・兼	実務経験	所 属
専 門 分 野	日常生活援助技術Ⅰ	1	30	櫻田 有紀子 袴田 圭真	専	○	秋田しらかみ看護学院
	日常生活援助技術Ⅱ	1	30	櫻田 有紀子 小玉 美佳 他	専	○	秋田しらかみ看護学院
	診療の補助技術	1	30	櫻田 有紀子 山平 良子	専	○	秋田しらかみ看護学院
	臨床看護技術	1	30	袴田 圭真 山平 良子	専	○	秋田しらかみ看護学院
	看護過程Ⅰ	1	30	加藤 夏生	専	○	秋田しらかみ看護学院
	看護過程Ⅱ（演習）	1	15	加藤 夏生	専	○	秋田しらかみ看護学院
	看護研究Ⅰ	1	15	小野 麻由子	兼	○	日本赤十字秋田看護大学
	看護研究Ⅱ	1	15	中村 陽子	専	○	秋田しらかみ看護学院
	成人看護学概論	1	15	中村 陽子	専	○	秋田しらかみ看護学院
	成人看護学方法論Ⅰ	1	30	加藤 夏生 (8)	専	○	秋田しらかみ看護学院
				佐藤 博昭 (8)	兼	○	秋田大学医学部附属病院
				五十嵐 元子 (4)	兼	○	JCHO 仙台南病院
				菊地 弦 (4)	兼	○	秋田県立循環器脳脊髄センター
				金田 悦子 (6)			
	成人看護学方法論Ⅱ	1	30	加藤 夏生	専		秋田しらかみ看護学院
	成人看護学方法論Ⅲ	1	30	中村 陽子 (20)	専	○	秋田しらかみ看護学院
				田中 多喜子 (8)	兼	○	
				岩庭 遥香 (6)	兼	○	地域医療機能推進機構秋田病院
				松山 まき子 (4)	兼	○	地域医療機能推進機構秋田病院
	成人看護学方法論Ⅳ	1	30	中村 陽子 (24)	専	○	秋田しらかみ看護学院
				袴田 俊英 (2)	兼	○	月宗寺
				伊藤 希海 (4)	兼	○	能代厚生医療センター
	成人看護学方法論Ⅴ	1	15	加藤 夏生	専	○	秋田しらかみ看護学院
	老年看護学概論	1	15	鍋谷 久美子	兼	○	
	老年看護学方法論Ⅰ	1	30	鍋谷 久美子(26)	兼	○	秋田しらかみ看護学院
				五十嵐 元子 (4)		○	JCHO 仙台南病院
	老年看護学方法論Ⅱ	1	15	渡邊 正樹	専	○	秋田しらかみ看護学院
				船越 広大	兼		
	老年看護学方法論Ⅲ	1	30	渡邊 正樹	専		秋田しらかみ看護学院
	小児看護学概論	1	15	小玉 美佳	専	○	秋田しらかみ看護学院

担当教員・講師一覧							
分野	科目	単位	時間	講師名	専・兼	実務経験	所 属
専 門 分 野	小児看護学方法論Ⅰ	1	30	石川 孝成 (14) 近野 勇樹 (16)	兼 兼	○ ○	能代厚生医療センター 石川こどもクリニック
	小児看護学方法論Ⅱ	1	30	小玉 美佳 八代 美千子	専 兼	○ ○	秋田しらかみ看護学院 多機能型ケアベース にのに
	小児看護学方法論Ⅲ	1	30	小玉 美佳	専	○	秋田しらかみ看護学院
	母性看護学概論	1	15	小林 かおり	兼	○	助産院 こころ
	母性看護学方法論Ⅰ	1	30	小林 かおり	兼	○	助産院 こころ
	母性看護学方法論Ⅱ	1	30	椿 洋光	兼	○	能代厚生医療センター
	母性看護学方法論Ⅲ	1	30	小林 かおり 他	兼	○	助産院 こころ
	精神看護学概論	1	15	柴田 守	専	○	秋田しらかみ看護学院
	精神看護学方法論Ⅰ	1	30	柴田 守 (14) 郡司 啓文 (16)	専 兼	○ ○	秋田しらかみ看護学院 島田病院
	精神看護学方法論Ⅱ	1	30	柴田 守 (20) 内藤 建介 (6) 館岡 賢太 (4)	専 兼 兼	○	秋田しらかみ看護学院 能代厚生医療センター 能代厚生医療センター
	精神看護学方法論Ⅲ	1	30	柴田 守	専	○	秋田しらかみ看護学院
	地域・在宅看護論概論Ⅰ	1	15	杉本 史	専	○	秋田しらかみ看護学院
	地域・在宅看護論概論Ⅱ	1	15	渡邊 正樹	専	○	秋田しらかみ看護学院
	地域・在宅看護論方法論Ⅰ	1	15	渡邊 正樹	専	○	秋田しらかみ看護学院
	地域・在宅看護論方法論Ⅱ	1	30	杉本 史 (28) 村越 正道 (2)	専 兼	○	秋田しらかみ看護学院
	地域・在宅看護論方法論Ⅲ	1	30	杉本 史 (24) 高松 絵里子 (6)	専	○	秋田しらかみ看護学院 地域医療機能推進機構秋田病院
	地域・在宅看護論方法論Ⅳ	1	15	杉本 史	専	○	秋田しらかみ看護学院
	医療安全と看護	1	30	山平 良子 中嶋 麻衣子	専 兼	○ ○	秋田しらかみ看護学院 地域医療機能推進機構秋田病院
	国際協力と災害看護	1	15	齋藤 和樹 (4) 山平 大介 (6) 金田 悦子 (4) J I C A (2)	兼 兼 兼 兼	○	秋田大学医学部附属病院
	看護管理	1	15 試験 込	京谷 直美 (14) 櫻井 史子 他 (2)	兼	○	地域医療機能推進機構秋田病院
	看護技術総合	1	30	山平 良子	専	○	秋田しらかみ看護学院

カリキュラムマップ

領域	分野	1年次		2年次		3年次	
専門分野	看護の統合				医療安全と看護 1単位:30h	看護管理 1単位:15h	統合実習 2単位:90h
						国際協力と災害看護 1単位:15h	
						看護技術総合 1単位:30h	
	看護援助の実践	地域・在宅看護論実習Ⅰ 1単位:45h	老年看護学実習Ⅰ(施設実習) 1単位:45h	基礎看護学実習Ⅱ 2単位:90h	成人・老年看護学実習Ⅰ(回復期・慢性期)2単位:90h	地域・在宅看護論実習Ⅱ 2単位:90h	
			基礎看護学実習Ⅰ 1単位:45h			成人・老年看護学実習Ⅱ(周手術期) 2単位:90h	
						成人・老年看護学実習Ⅲ(終末期) 2単位:90h	
						老年看護学実習Ⅱ(施設実習) 2単位:90h	
						小児看護学実習 2単位:90h	
						母性看護学実習 2単位:90h	
						精神看護学実習 2単位:90h	
	看護援助の方法	地域・在宅看護論概論Ⅰ 1単位:15h	地域・在宅看護論概論Ⅱ 1単位:15h	地域・在宅看護論方法論Ⅰ 1単位:15h	地域・在宅看護論方法論Ⅲ 1単位:30h	地域・在宅看護論方法論Ⅳ 1単位:15h	
			成人看護学概論 1単位:15h	地域・在宅看護論方法論Ⅱ 1単位:30h	成人看護学方法論Ⅳ1単位:30h(終末期)		
			老年看護学概論 1単位:15h	成人看護学方法論Ⅰ(急性期・周手術期・クリティカルケア) 1単位:30h	成人看護学方法論Ⅴ1単位:15h(看護過程)		
			小児看護学概論 1単位:15h	成人看護学方法論Ⅱ(回復期) 1単位:30h	老年看護学方法論Ⅲ1単位:30h		
			母性看護学概論 1単位:15h	成人看護学方法論Ⅲ(慢性期) 1単位:30h	小児看護学方法論Ⅲ1単位:30h		
			精神看護学概論 1単位:15h	老年看護学方法論Ⅰ1単位:30h	母性看護学方法論Ⅲ1単位:30h		
				老年看護学方法論Ⅱ1単位:15h	精神看護学方法論Ⅲ1単位:30h		
				小児看護学方法論Ⅰ1単位:30h			
				小児看護学方法論Ⅱ1単位:30h			
				母性看護学方法論Ⅰ1単位:30h			
				母性看護学方法論Ⅱ1単位:30h			
				精神看護学方法論Ⅰ1単位:30h			
				精神看護学方法論Ⅱ1単位:30h			
	看護の基礎	看護学概論 1単位:30h	共通基本技術Ⅱ 1単位:30h	臨床看護技術 1単位:30h	看護研究Ⅰ 1単位:15h	看護研究Ⅱ 1単位:15h	
		共通基本技術Ⅰ 1単位:30h	看護過程Ⅰ 1単位:30h	看護倫理 1単位:15h			
		共通基本技術Ⅲ 1単位:30h	看護過程Ⅱ 1単位:15h				
		日常生活援助技術Ⅰ 1単位:30h	診療の補助技術 1単位:30h				
		日常生活援助技術Ⅱ 1単位:30h					
専門基礎分野	連携と協働		保健医療福祉論 1単位:15h	公衆衛生学 2単位:30h	関係法規 1単位:15h		
					社会福祉論 2単位:30h		
	疾病と治療の理解	感染症と微生物学 1単位:30h	病理学 1単位:15h	疾病論Ⅳ(腎泌尿器 生殖器) 1単位:15h	治療論Ⅱ(食事と栄養) 1単位:15h		
			疾病論Ⅰ(呼吸器) 1単位:15h	治療論Ⅰ(検査 手術・麻酔 放射線 ME) 1単位:30h	治療論Ⅲ(リハビリテーション) 1単位:15h		
			疾病論Ⅱ(循環器) 1単位:15h	薬理学 1単位:30h	疾病論Ⅵ(運動器 脳神経 耳鼻咽喉 眼) 1単位:30h		
	人体の構造	解剖生理学Ⅲ 1単位:30h	代謝栄養学 1単位:30h	形態機能学 1単位:30h			
		解剖生理学Ⅱ 1単位:30h					
		解剖生理学Ⅰ 1単位:30h					
	基礎分野	看護と情報	情報科学 1単位:30h				
		人間理解	文章表現 1単位:30h	倫理学 1単位:15h	教育学 1単位:30h		
			クリティカルシンキング 1単位:30h	コミュニケーション論 1単位:30h			
			社会と生活 1単位:30h	ボランティア論 1単位:15h			
			人間関係論 1単位:30h				
			心理学 1単位:30h				
			人間発達学:1単位:30h				
			英語 1単位:30h				
			環境科学:1単位:30h				
			運動とレクリエーション 1単位:30h				

秋田しらかみ看護学院

基礎分野

基 礎 分 野

目 的

人間を社会の中で生きるかけがえのない存在として理解し、看護専門職として必要な倫理観、社会人基礎力と看護実践能力を養う上で土台となる基礎を学ぶ。

目 標

- 1 科学的思考能力を高めるための基礎を身につける。
- 2 人間とその生活が理解できる。
- 3 個人を尊重し、他者との人間関係のあり方が理解できる。
- 4 国際化、情報化社会に対応できる能力を身につける。

科目	文章表現	履修	1 年次	単位数	1	時間	30	
		学年	前 期	講師名	菊池 一二三			
目 標	1 文章の内容を的確に読み取ることができる 2 自分の考えを論理的に書くことができる 3 「読む」こと「書く」ことの基本を身につけ実践に活かすことができる。							
回 数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式	
1	看護学生にとって「読む」ことと「書く」ことは	・「読む」こと「書く」ことの段階 ・「ことば（単語）」の意味 ・「主語・述語」に対する意識 ・「文脈」に対する意識 ・看護師－看護師 ・看護師－他の医療専門職 ・看護師－患者・家族 ・看護記録の読み取り ・看護学生が書く実習記録 ・看護記録をもとに行われる看護行為					講義・演習を含む	
2								
3								
4	看護学生が「読む」ということ	・「読む」ことと「読み取る」こと ・自分のものさしと共通のものさし ・読み応えのある文章への挑戦						
5		・「読む力」の獲得 ・視点1：読む目的をもつ ・視点2：読む方を工夫する						
6		・視点3：読んだ内容について考える ・読むときの3つのステップ ・語彙を増やす必要性						
7	看護学生が「書く」ということ	・文章をもとに調べることの意味 ・チェックしてみよう ・読書経験の少ない読書初心者に ・ほかの人の意見を聞いてみたいときに ・看護にかかわる先達のメッセージ						
8		・生命について考えを深めるには ・近代文学を味わってみよう ・主題（テーマ）と要点（ポイント） ・看護師は何を書くのか？						
9		・読み手に伝わる文章とは ・「書く力」の獲得 ・視点1：読み手を意識する ・視点2：書き方を工夫する						
10	看護学生が「読んで書く」ということ	・視点3：文章を読み直す ・書くときの3つのステップ ・感想の書き方 ・課題レポートや看護記録とメモの違い ・ことばを使いこなす必要性 ・書いてみよう						
11		・チェックしてみよう ・看護師のとしての「読む」こと「書く」ことの循環の意味 ・要約してみよう ・チェックしてみよう						
12		・本科目の学習の成果と課題をまとめる						
13	学習課題	授業には必ず指定にテキストとそれまでの授業記録等を持参すること						
14	評価方法	授業記録の集積と内容（15 回分）						
15	テキスト参考書等	テキスト『看護学生のための「読む力」「書く力」レッスン』（日本看護協会出版会）						

科目	情報科学	履修 学年	1 年次 前 期	単位数 講師名	1 辻内 裕	時間	30
目 標	1. 情報科学の基礎的知識と、人と情報社会との関係を理解する 2. 看護実践に必要なパソコンの基本的操作を習得し、活用能力を身につける 3. 情報の整理と活用の基礎を理解する 4. 一般的な統計の理論、疫学と統計の方法について理解する						
回 数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1	情報とは	情報の概念、位置づけに関する演習問題に取り組む。					講義・演習・を含む
2	デジタル情報と社会	健康、医療に関する様々なデータベースを紹介し、情報リテラシーの導入を行う。					
3	医療情報、標準化と電子化	データ、情報の量と質、知識、知恵、システムの安全、グローバリゼーション、クラウドの概念、データベース、について学び、演習問題に取り組む。					
4	看護と情報、既存の情報の収集	情報処理の基本要素、医療情報のエビデンス、標準化と電子化、看護情報、について学び、演習問題に取り組む。					
5	情報倫理と医療、コンピューターリテラシー	情報社会と看護、ヘルスリテラシー、看護における情報、既存の情報の収集方法、について学び、演習問題に取り組む。					
6	統計データ、基本的な統計関数	情報倫理と医療、患者の権利と情報、個人情報の保護、コンピューターリテラシーとセキュリティ、文献検索、について学び、演習問題に取り組む。					
7	確率、事象、条件付き確率	統計学関数の取扱い、について演習問題で取り組む。ソフトウェアによるデータ入力方法について、演習問題に取り組む。					
8	基本的統計関数	確率、事象、正規分布、条件付き確率、について学び、演習問題に取り組む。					
9	二項分布、重みづけ平均	正規分布、について学び、正規分布曲線描画の演習問題に取り組む。					
10	度数分布、正規分布	基本的な統計関数に関する演習問題の計算をコンピューターで実習する。					
11	t 検定、相関係数、回帰と関連、	二項分布、重みづけ平均、について学び、演習問題に取り組む。					
12	疫学と統計学	度数分布、ヒストグラム、正規分布、について学び、正規分布曲線と、度数分布、ヒストグラムとの比較を行う演習問題に取り組む。					
13	原因論（ロスマンのモデル）	t 検定、相関係数、回帰と関連、について学び、演習問題に取り組む。					
14	非慢性疾患	疫学と統計学、原因論（ロスマンのモデル）について学び、ロスマンのモデル考え方に相関解析の方法を組み合わせる応用について学ぶ。					
15	統計解析と情報科学	非慢性疾患の原因と予防法について、全国のデータベースで調査する。					
	総合演習とまとめ	回帰と関連の手法で非慢性疾患の原因と対策でグラフ化し word で文書化する。学習の総合力の成果物としてのレポート作成上の問題点を全て整理して、解決し、本科目の学修成果を総括する。					
学習課題	講義中に課すレポート課題について取り組み、実践的な力を涵養する。						
評価方法	レポート、筆記試験						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 別巻 看護情報学 (医学書院)、補助プリント教材						

科目	倫理学	履修	1 年次	単位数	1	時間	15
		学年	後 期	講師名	田子 多津子		
目標	1. 生と死に関する多様な観点を知る。 2. 生命倫理の基本的問題に関する知識を身につける。 3. 生命倫理に関する問題について知識をもとに議論できる。						
回数	単 元 名	授業内容					授業形式
1	終末期をめぐる問題（教科書第 1 章）	・ 自己決定権 ・ QOL と SOL ・ 「ヒポクラテスの誓い」の意味 ・ 延命治療と安楽死					講義・演習を含む
2	子どもの自己決定をめぐる問題（第 2 章）	・ 子どもの判断力について考える ・ 子どもの QOL					
3	判断能力をめぐる問題（第 3 章）	・ 生命倫理の基本原則 ・ 基本原則間の衝突 ・ パターナリズム ・ 自己決定権 ・ コンピテンスという考え方 ・ インフォームド・コンセント					
4	命の「質」にかかわる問題（第 4 章）	・ 生殖補助医療の進展 ・ 家族関係の変化 ・ 優生思想					
5	いのちの優先順位をめぐる問題（1）、（2）（第 5 章、6 章）	・ 「人間とは何か」を考える ・ 種差別といのちの優先順位 ・ 動物実験の問題					
7	いのちの始まりをめぐる問題（第 7 章）	・ 「いのち」の始まりはいつ？ ・ 「プロ・チョイス」と「プロ・ライフ」 ・ パーソン論					
8	いのちの終わりをめぐる問題（配付資料）	・ 「脳死」概念の登場 ・ 脳死と臓器移植との関連 ・ 提供臓器の不足をめぐる問題					
学習課題	毎回、授業準備として教科書の該当箇所を読んでおくこと。						
評価方法	試験 60%、授業中に提示する課題 30%、振り返りカード 10%						
テキスト 参考書等	テキスト：小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理』ちくまプリマー新書 167、2011 年 高谷清『重い障害を生きるということ』岩波新書、2011						

科目	社会と生活	履修 学年	1 年次 前 期	単位数	1	時間	30
				講師名	石沢 真貴		
目 標	1. 現代社会における社会事象について学び、社会的存在としての人間への理解を深める。 2. 暮らしに結びついた社会的課題について学び、生活者としての基礎知識を身につける。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	社会変動と現代社会	1 社会変動と現代社会				講義・演習を含む	
2	地域社会の現状	2 地域社会の現状					
3	少子高齢化少	3 高齢社会と高齢者					
4	人口減少	4 人口減少					
5	家族の変容と家族問題	5 家族の変容と家族問題					
6	家族とジェンダー	6 性別役割分業と女性の労働					
7	社会保障政策の現在	7 家族福祉の諸課題					
8	変容するコミュニティ (1)	8 少子高齢化と「限界集落」問題					
9	変容するコミュニティ (2)	9 中心市街地の衰退					
10	変容するコミュニティ (3)	10 住民自治問題					
11	変容するコミュニティ (4)	11 地域再生の課題					
12	グローバル化する社会の諸相 (1)	12 グローバル化と外国人					
13	グローバル化する社会の諸相 (2)	13 社会・経済的格差と現代の貧困					
14	労働と人権問題	14 労働と人権問題					
15	まとめ	15 これからの社会へ向けて					
学習 課題	社会現象や社会的課題に関心をもち、医療・看護現場における課題やクライアントのおかれた状況と関連させて理解する。						
評価 方法	・ 記述試験による評価。 ・ 講義内での小テスト・レポート等を評価の参考とする場合がある。						
テキスト 参考書等	テキストはなし。 参考書等は必要に応じ講義内で紹介する。						

科目	人間関係論	履修 学年	1 年次 前 期	単位数 講師名	1 澤田 尚子 中村 陽子	時間	30		
目標	1. 人間関係全般に関する基礎的な知識を説明できる。 2. 看護における人間関係の初歩的諸問題を説明できる。 3. 基礎的な人間関係スキルを説明できる。								
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式			
1	第 1 章	人間関係論とは				講義・演習を含む			
2	第 1 章	自己認知 対人認知							
3	第 2 章	対人関係の成立 人間関係の維持と崩壊 対人葛藤と対処 社会的役割							
4	第 3 章	態度と態度変化 説得的コミュニケーション 攻撃 援助							
5	第 4 章	集団の特性 集団での課題遂行 集団での問題解決と意志決定 リーダーシップ							
6	第 5 章	コミュニケーションとは 対人コミュニケーション ICT の発達とコミュニケーション							
7	第 5 章	<u>課題(ICT の発達とコミュニケーション)</u>				レポート			
8	第 6 章	カウンセリング・心理療法の理論とスキル				レポート			
9	第 7 章	コーチングの理論とスキル							
10	第 9 章	医療における看護師の役割、チームワークとチームエラー チームにおけるコミュニケーションエラーの予防 多職種連携に向けて							
11		<u>課題(多職種連携に向けて)</u>							
12	第 10 章	患者・医療者関係 患者・看護師間の相互作用の評価 さまざまな看護場面における人間関係 死に向かう患者を支える人間関係 人間関係構築がむずかしい患者との関係構築							
13		家族関係論 家族看護の展開 さまざまな状況・患者と家族の看護							
14	第 11 章	個人を取り巻く人間関係 ピアサポートを通じた人間関係 人間関係の集合としての地域							
	第 12 章	人間関係に力が最大になる社会							
15		テスト							
学習課題	第 7 回、第 11 回ではレポートを課す。自宅学習の参考資料として、定期的にチェックリストを配布する。最終日のテストはレポート課題およびチェックリストから出題する。								
評価方法	筆記試験 (100 点満点)								
テキスト 参考書等	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論第 3 版 (医学書院)								

科目	コミュニケーション論	履修	1 年次	単位数	1	時間	30
		学年	後 期	講師名	齋藤 和樹 安藤 美紀		
目標	1. コミュニケーションに関する基礎的理解ができる。 2. 看護における効果的なコミュニケーションスキルが理解できる。 3. 基本的コミュニケーションスキルを使うことができる。						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	アイスブレイキング	さまざまなアイスブレイキングを体験する				講義・演習を含む 実習室／PC	
2	コミュニケーションの基本概念	マスコミュニケーションとパーソナルコミュニケーション／一 方通行のコミュニケーションと双方向のコミュニケーション				PC／A4 の紙	
3	非言語的コミュニケーション	非言語を読む				PC	
4	言語的コミュニケーション	言語化された感情と言語化されない感情／ゲーム「私の気持ちを 当ててください」「あなたが言いたいのは」				PC	
5	支援するコミュニケーション①	話を「きく」ということ、共感度のセルチェック 支援と援助、ネガティブサポート				PC	
6	支援するコミュニケーション②	「よいところ探し」				PC/A4 の紙	
7	支援するコミュニケーション③	心理的距離と物理的距離、FELOR 支援的コミュニケーションで の向き合い方				実習室／PC	
8	支援するコミュニケーション④	質問技法「閉じられた質問と開かれた質問」 ゲーム「後ろの正 面」 「スケーリングクエスチョン」				PC	
9	アサーション①					安藤	
10	アサーション②					安藤	
11	支援するコミュニケーション④	コンプリメントとリフレーミング 田村家の食卓				PC	
12	交渉のコミュニケーション	「ドア・イン・ザ・フェイス」「フット・イン・ザ・ドア」「ロー ボール」				PC	
13	ロールプレイ①	傾聴と相づち 傾聴のロールプレイ				実習室 PC	
14	ロールプレイ②	問題解決編				実習室 PC	
15	ロールプレイ③	アルバイト編 看護師患者編				実習室 PC	
学習 課題	適宜指示する						
評価 方法	筆記試験（100 点満点うち齋藤担当分は 90 点）						
テキスト 参考書等	テキスト：なし 参考書：適宜紹介する						

科目	心理学	履修 学年	1 年次 前 期	単位数 講師名	1 佐々木 久長	時間	30
目 標	1. 人間の心の構造（仕組み）や機能（働き）を知り、子どもからお年寄りまで発達段階に応じた相手の理解が出来るようになる。 2. 健康における心と身体を理解し、心の危機状態とその対処について理解できる。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	心理学とは	心理学とは何か・心の構造と機能 精神分析学・行動主義・人間性心理学について				講義・演習を含む	
2	感覚と知覚	認知とは何か・感覚と知覚について					
3	記憶の心理	記憶の過程・効果的な記憶方法について					
4	思考・言語・知能	思考と言語の関連と発達について 知能の理解と知能検査について					
5	学習の心理	学習理論について					
6	感情と動機づけ	感情・情緒・情操と動機づけについて					
7	人格とパーソナリティ	人格理論と人格検査について					
8	社会と集団（1）	集団の働きと影響、社会的認知について					
9	社会と集団（2）	対人魅力と対人関係について					
10	発達（1）	発達の原理、乳幼児期から児童期					
11	発達（2）	青年期から老年期					
12	心理臨床（1）	ストレスの理解と対応					
13	心理臨床（2）	心理療法について					
14	医療・看護と心理（1）	医療職の心理的理解					
15	医療・看護と心理（2）	患者の心理的理解					
学習課題							
評価方法	定期試験						
テキスト 参考書等	系統看護学講座基礎分野 心理学（医学書院）						

科目	教育学	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	1	時間	30
				講師名	武田 篤		
目標	教育というものがどのような考え方に基づいているのかを学ぶとともに、「生涯にわたり学び続ける」ことの必要 性と意義を理解する。						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	教育学とはどんな学問か	人と人が互いに学び/教え合う、現実の場がある。教育学 は実践を解明し、よりよい実践にしていける手立てを提供。 患者は支援されるだけの存在なのか？ 「レナードの朝」(前半) 最も人間的な成長をとげたのは誰か？ 「レナードの朝」(後半) 教師とは何か、その役割について考える ・「数学教師・井本陽久の仕事」 知的障害者の「生涯学習」を例に考える 命の大切さをどう教えるか ・「命の授業」 死を自覚することで「生きることの真の意味」を知る ・「モリー先生との火曜日」(前半) 生きることの意味の探究には「自己との対話」が必要 ・「モリー先生との火曜日」(後半) ボランティア活動の本質を教育的側面から考察する ・「難病児の“魔法の国”」 世界の動向からインクルーシブ教育を理解する 障害児教育は、特別支援学校を中心としたものから通 常の学校や学級に在籍する児童生徒へと裾野を拡大 人は働くことを通して学び、成長し、生きる力を獲得する ことを理解する 聴覚障害者にとり「人工内耳」は福音か？ 手話、ろう文化、アイデンティティ ・「それはホロコーストの“リハーサル”だった ～障害者 虐殺 70 年目の真実～」 優生学 なぜ、私たちは共生社会をめざすのか ・「1/4 の奇跡」 進化論、利他心				講義（演習 を含む）	
2	「教える」ことと「学ぶ」こと						
3	「学び」の基本原理 (1)						
4	「学び」の基本原理 (2)						
5	教師の役割とは						
6	SDGs における教育						
7	「命」の教育						
8	「答えを教えない」教育 自己との対話 (1)						
9	「答えを教えない」教育 自己との対話 (2)						
10	ボランティア活動が持つ教育的 意義						
11	インクルーシブ教育とは						
12	特別支援教育とは						
13	働くことが持つ教育的意義						
14	多様性やマイノリティを尊重 した教育						
15	歴史教育が持つ本当の意義とは						
16	共に生きる社会の実現に向けた 教育						
学習 課題	毎回、ショートレポートを作成し、提出する。						
評価 方法	毎回のショートレポート（評価 40%）及び最終課題レポート（評価 60%）により、評価する。						
テキスト 参考書等	テキストは使用しない。毎回、授業資料を配付する。						

科目	環境科学	履修 学年	1 年次 前 期	単位数	1	時間	30
				講師名	村口 元 岩下 淳	小川 敦史 上田 健治	
目標	1. 動物・植物・微生物の基本的な構造・働きを学び、生命現象を分子レベルで理解する。また、その共通性や特異性を学ぶことにより、ヒトとは何かについて理解する。 2. ヒトと環境の関係および影響を理解する。						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	生命体のつくりの基本	1 生命を構成する物質				講義・演習を含む	
2	細胞の構造と増殖	2 細胞の構造					
3		3 体細胞分裂と減数分裂					
4		4 細菌とウイルス					
5	動植物のつくりと成長	5 動物の発生と形作り					
6		6 植物の発生と形作り					
7	遺伝情報の伝達と発現のしくみ	7 遺伝の法則と染色体					
8		8 遺伝子の発現とタンパク質の合成					
9		9 ヒトの遺伝					
10		10 バイオテクノロジー					
11		11 遺伝子組換えとゲノム編集					
12	ヒトと環境のかかわり	12 生物と環境のかかわり					
13		13 地球環境とヒト					
14	生物の進化と多様性	14 生物の多様性					
15		15 生命の起源と進化					
学習課題							
評価方法	筆記試験						
テキスト 参考書等	テキスト：系統看護学講座基礎分野 生物学（医学書院）						

科目 目 標	人間発達学	履修 学年	1 年次 前 期	単位数	1	時間	30
				講師名	武田 篤		
目 標	1) 人間の生涯にわたる心身の発達について理解する。 2) 発達に関する代表的な理論、発達段階について理解する。 3) 発達支援の在り方を理解する。						
回 数	単 元 名	授業内容				授業形式	
1	人間発達学とは	発達とは/遺伝と環境/遠城寺式・乳幼児分析的発達検査				講義（演習を含む）	
2	乳児期の発達（1）	赤ちゃんのヒミツ ～驚くべき生命力～					
3	乳児期の発達（2）	赤ちゃん ～成長の不思議な道のり～					
4	乳児期の発達（3）	赤ちゃん ～運動発達の神秘～					
5	人間の成長と発達のメカニズム	学習/動機づけ/パーソナリティの形成/神経の成長と成熟/神経回路網の成熟					
6	幼児期の発達（1）	4 歳児のヒミツ ～驚きがいっぱい～					
7	幼児期の発達（2）	5 歳児のヒミツ ～大人への第一歩～					
8	児童期の発達（1）	6 歳児のヒミツ ～“ぼく・わたし”って何者？					
9	児童期の発達（2）	学校への適応/不登校					
10	青年期の発達	自己概念の発達/アイデンティティの確立					
11	成人期の発達	結婚/出産/家族					
12	高齢期の発達	健康寿命/ウエルビーイング（Well-being）					
13	発達障害	発達障害とは/LD/ADHD/ASD					
14	成長と発達に大切な養育環境	マターナルデプリベーション/児童養護施設					
15	病気を患った子どもたちの成長と発達	子どもたちが教えてくれたこと					
学習 課題	毎回、ショートレポートを作成し、提出する。						
評価 方法	毎回のショートレポート（評価 40%）及び最終課題レポート（評価 60%）により、評価する。						
テキスト 参考書等	テキストは使用しない。毎回、授業資料を配付する。 参考書：渡辺弥生（2021）「よくわかる発達心理学」ナツメ社 渡辺弥生（2019）「まんがでわかる発達心理学」講談社 竹下研三（2012）「人間発達学 - ヒトはどう育つのか」中央法規						

科目	英 語	履修 学年	1 年次 前 期	単位数	1	時間	30
				講師名	佐々木 圭子		
目標	医療現場で使用する英語を理解できるようになる。						
回 数	単 元 名	授業内容					授業形式
1		英語で自己紹介 授業の進め方					講義・演習 を含む
2		Unit (1)					
3							
4							
5		Unit (3)					
6							
7							
8		試験					
9		Unit (6)					
10							
11							
12		Unit (9)					
13							
14							
15		試験					
学習課題							
評価方法							
テキスト	Live Well ! Topics About Health for University Students (金星堂)						

科目	クリティカルシンキング	履修 学年	1 年次 前 期	単位数 講師名	1 田子 多津子	時間	30
目標	1. 情報に能動的に接し、批判的に検討して取捨選択することができる。 2. 固定観念や偏見にとらわれず、事態を批判的・論理的に分析できる。 3. 問題を明確化し、解決策を考えることができる。						
回数	単 元 名	授業内容				授業形式	
1	クリティカルシンキングとは(1)	「クリティカル」の意味、クリティカルでない思考態度とは？				講義・演習を含む 教科書序章	
2	〃 (2)	クリティカルシンキングの定義					
3	推論の仕方は妥当か (1)	クリティカルに推論するやり方ー反証例、共変関係、				教科書第 1 章	
4	〃 (2)	4 分割表、一致と差異、実験の発想、誰のせいかを考える					
5	〃 (3)	因果関係を検討する上での留意点					
6	〃 (4)	前後論法のもつ罣					
7	〃 (5)	間違った議論のいろいろー理由になっているか？					
8	〃 (6)	人身攻撃法、不適切なアナロジー、 雪だるま式論法、二分法論法等					
9	根拠としての事実は正しいか(1)	事実検討の基本的スタンスークリティカルに事実を検討するとは？ 自分の「常識」を疑う、体験談の意味、				教科書第 2 章	
10	〃 (2)	記憶と事実、情報の歪み、専門家の意見や数字の受け取り方					
11	〃 (3)	スキーマによる事実の歪みースキーマとは？					
12	〃 (4)	スキーマの性質とその働き					
13	〃 (5)	偏った事実を「事実」とする過ちーサンプルと一般化、誤った関連づけ、情報に関するバイアス					
14	〃 (6)	「事実そういう人か」の検討ー固定観念、偏見、ステレオタイプ					
15	クリティカルに思考するために	クリティカルに思考する人の特性				教科書第 3 章	
学習課題	毎回、授業準備として教科書の該当箇所を読んでおくこと。						
評価方法	試験 60%、授業中に提示する課題 30%、振り返りカード 10%						
テキスト 参考書等	テキスト：道田泰司&宮本博章『クリティカル進化論 『OL進化論』で学ぶ思考の技法』北大路書房、2021 参考書：山下正男『論理的に考えること』、岩波ジュニア新書、1985、その他授業中に適宜紹介する。						

科目	運動とレクリエーション	履修 学年	1 年次 前 期	単位数 講師名	1 小笠原 光	時間	30
目 標	1. 各種のスポーツを通じ、人間の心の強さを養う 2. レクリエーションを通して、健全な心身の発達を学ぶ 3. 集団においてのレクリエーションの指導能力の基礎と協調性を学ぶ						
回 数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1		1 オリエンテーション・講義 運動の重要性とその効果、指導者の心得				講義・演習を含む 1 回目 学院	
2	高齢者向け運動 プログラム	2 ストレッチと軽運動（脳トレ）				2～6 回目	
3		3 軽運動（歩き方、体の使い方）				アリナス使用 ※動きやすい服装	
4		4 種目選択（バレー、バスケ、卓球、バドミントン）				※汗拭きタオル、	
5		5 種目選択（バレー、バスケ、卓球、バドミントン）				内ズック	
6		6 種目選択（バレー、バスケ、卓球、バドミントン）					
7	指導学習	7 コミュニケーションと集団指導（講義）				7 回目 学院	
8	ニューススポーツ実技	8 ペタンク、ディスゲッターナイン				8～14 回目	
9		9 高齢者向けニューススポーツ				アリナス使用 ※動きやすい服装	
10	運動実技	10 フリー種目				※汗拭きタオル、 内ズック	
11	子ども向け運動 プログラム	11 遊びプログラム 1					
12		12 遊びプログラム 2					
13	運動実技	13 フリー種目					
14	指導実践	14 グループで遊びを 3 つ考え他グループへ指導					
15	まとめ学習	15 レポートの記入、まとめ				15 回目学院	
学習 課題	苦手な運動やスポーツでも最後まで楽しむこと。 スポーツ・運動の重要性を理解し看護に役立てること。						
評価 方法	授業参加態度・実技・レポート（原稿用紙 1 枚程度）						
テキスト 参考書等	テキスト等はこちらで配布する。						

科目	ボランティア論	履修 学年	1 年次 後 期	単位数	1	時間	15
				講師名	近藤美喜 大谷美帆子	越後康一 他	
目標	1. ボランティア活動の意義、役割、課題等について理解できる。 2. 市民社会のひとりとしてボランティア活動に参加できるようにする。						
回数	単 元 名	授業内容				授業形式	
1		ボランティア論導入 ボランティア活動のイメージ				講義・演習・ グループワ ークを含む	
2		地域社会のボランティア活動の実際					
3		1) 社会福祉協議会の役割・活動の実際 2 回				外部講師 2～5 回	
4		2) 地域で実践活動の実際					
5		(能代市市民活動支援センター 登録団体) e ナビステーション りあん おらほの産科小児科を守る会					
6		災害とボランティア					
7		地域社会に出かけよう ボランティア学習 (調べ学習) 個人ワーク・グループワーク					
8		ボランティア活動 ～ 地域の課題を発見する 調べ学習の発表 (グループワーク)					
学習 課題	講義前に関連する章を読んてくること。 講義時にワークシート課題に取り組むこと。						
評価 方法	出席状況・ワークシート課題 3 回・グループワーク発表						
テキスト 参考書等	テキスト：柴田謙治・原田正樹・名賀 亨 編著 「ボランティア論」 出版社 みらい						

專門基礎分野

専 門 基 礎 分 野

目 的

看護の実践に活かす人間の身体の構造・機能、病態生理と治療や人間を護る法律、社会情勢や保健・医療・福祉の動向を学ぶ。

目 標

- 1 人体を系統立てて理解し、健康・疾病に関する観察力、判断力をより強固にするための学習を深める。
- 2 人体の正当な構造と機能を学び、健康障害と回復への過程を理解できる。
- 3 健康・医療・福祉に関係する法規を基に、医療従事者としての業務と責任について理解できる。
- 4 保健・医療・福祉の連携の必要性和社会資源の活用法について理解できる。

科目	解剖生理学　Ⅰ		履修 学年	1 年次 前　期	単位数	1	時間	30
	【人体の基礎知識（細胞）、消化器 呼吸器、血液の働き（血液・造血）】				講師名	今井　克幸		
目 標	1. 看護の基礎である人体の構造・機能を修得する。 2. 消化器系、呼吸器系の構造と機能を理解する。 3. 血液の成分とそれらの機能を理解する。（血漿・赤血球・白血球・血小板）							
回　数	単　元　名	授　業　内　容						授業形式
1	Ⅰ－1) 序論	人体各部の名称（解剖用語：教科書巻末） 人体の階層性（人体、器官、組織、細胞、分子）、 長さの単位（μm、nm）、分子（糖、脂質、蛋白質）、 ホメオスタシス（体液の平衡）、						講義・演習 を含む DVD
2	Ⅰ－2) 細胞・組織	核（染色体、DNA、ヌクレオチド、遺伝子）、リボソーム （翻訳、蛋白質合成）、ミトコンドリア（ATP 合成）、 受容体、チャネル、ポンプ、トランスポーター、 上皮組織、接着装置、基底膜、結合組織、細胞外マトリックス(コラーゲン)、						DVD
3・4 5・6 7・8	Ⅰ－3) 消化器	栄養の消化・吸収・輸送・貯蔵のメカニズム、口腔、咀嚼、 咽頭、嚥下、食道、唾液腺、胃、小腸、大腸、消化酵素、 肝臓の機能、膵臓の機能、消化管ホルモン、糖尿病、 誤嚥性肺炎、						DVD
9 10 11 12	Ⅰ－4) 呼吸器系	喉頭、気管、気管支、肺の肉眼的構造と微細構造 スパイログラム、呼吸筋、酸素と二酸化炭素の運搬のしくみ、 呼吸中枢、化学受容器、血液の酸塩基平衡、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、クスマウル呼吸、						
13 14 15	Ⅰ－5) 血液学	赤血球・白血球・血小板（ヘモグロビン・免疫系・血液凝固） 血漿の成分、血液検査の基準値とその意義、 血液凝固のしくみ、血栓形成、線溶、 血液型、						
学習 課題		適宜、レポートを家庭学習課題として課す。						
評価 方法		単元終了後に筆記試験を行う。						
テキスト 参考書等		教科書：系統看護学講座-専門基礎分野-人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院） 自習書：解剖学トレーニングノート、　生理学トレーニングノート（医学教育出版社） 参考書：人体の正常構造と機能（縮刷版）（日本医事新報社） 病気がみえるシリーズ（No. 1）：消化管・肝・胆・膵（MEDIC MEDIA 社） はじめの一步、生化学・分子生物学（第3版）（羊土社） 病気がみえるシリーズ（No. 2, 4, 5）：呼吸器・循環器・血液（MEDIC MEDIA 社） 胸部の地図帳（講談社）						

科目	解剖生理学Ⅱ 【循環器とその調節、体液の調節と尿の生成、自律神経系と内分泌系による調節】	履修 学年	1 年次 前 期	単位数	1	時間	30
				講師名	今井 克幸		
目 標	1. 心臓、循環器系の 構造を理解する。 2. 腎機能で重要な糸球体の微細構造を理解する。 3. 尿細管における尿の再吸収と関連するホルモンを理解する。 4. 自律神経系と内分泌系のはたらきを分子レベルで理解する。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1・2 3・4 5・6	Ⅱ - 1) 循環器系	心臓の構造、弁のしくみ、冠動脈、刺激伝導系、心電図、心周期、動脈・静脈、門脈、肺循環、ガスの運搬、レニン系、血圧受容器、心不全、うっ血、浮腫、リンパ管、胸管、リンパ節					講義・演習を含む DVD 心臓標本
7・8 9・10 11	Ⅱ - 2) 泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱、尿道、腎臓の糸球体の微細構造と機能、尿細管、ネフロン、腎臓と血圧（レニン・アンギオテンシン系）アシドーシス、タンパク尿、浮腫、血液透析、					DVD
12 13 14 15	Ⅱ - 3) ホメオスタシス	視床下部、交感・副交感神経系、ホルモンの種類、受容体、細胞内情報伝達系、脳下垂体、甲状腺、PTH（骨粗鬆症）、膵臓、インシュリン（糖尿病）副腎、アルドステロン、コルチゾル、					DVD
学習課題	適宜、レポートを家庭学習課題として課す。						
評価方法	単元終了後に筆記試験を行う。						
テキスト 参考書等	教科書：系統看護学講座専門礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院） 自習書：解剖学トレーニングノート、生理学トレーニングノート（医学教育出版社） 参考書：病気がみえるシリーズ(No. 2, 4, 5):呼吸器・循環器・血液（MEDIC MEDIA 社） 胸部の地図帳（講談社） 病気がみえるシリーズ(No. 3・8・9・10): 泌尿器・内分泌						

科目	解剖生理学Ⅲ【骨格と筋・神経系と感覚器・皮膚体温調節他、免疫、生殖・発生と老化の仕組み	履修学年	1 年次 後 期	単位数	1	時間	30
				講師名	今井 克幸		
目標	1. 骨の肉眼的な構造とその名称、および骨の役割を理解する（カルシウム貯蔵、造血）。 2. 筋肉と関節の運動を関連させて理解する。 3. 脳・神経系、感覚器系の構造とそれらの機能を理解する。 4. 免疫系のしくみを理解する。免疫細胞・サイトカイン分子・アレルギー疾患を理解する。 5. 生殖を支える卵巣・子宮・胎盤の構造とホルモン支配を理解する。						
回数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1・2 3・4	Ⅲ - 1) 運動器系	骨組織、骨芽細胞、破骨細胞、全身の骨格、関節の種類、靱帯、頭部・体幹の筋、起始と停止、上肢と下肢の筋群、筋収縮の分子メカニズム					講義・演習を含む DVD
5・6 7・8 9・10	Ⅲ-2) 神経系と感覚器	神経細胞、シナプス、グリア細胞、脊髄の構造、ベルマジェンディーの法則、麻痺、脳の構造、大脳皮質の機能、辺縁系運動性の錐体路、知覚性伝導路、脳の血管、脳室、視床下部、延髄、脳波、睡眠、眼球の構造、網膜、眼球の血管系、内耳、蝸牛、皮膚、痛覚、					DVD
11 12 13	Ⅲ - 3) 免疫系	自然免疫、獲得性免疫、好中球、NK 細胞、液性免疫、細胞性免疫、形質細胞、B 細胞、T 細胞、抗体、抗原提示、樹状細胞、マクロファージ、アレルギー、サイトカイン、					DVD
14 15	Ⅲ - 4) 生殖器官系	卵巣周期、子宮内膜変化のホルモン支配、精巣、受精、胎盤、胎児血液循環、胚の発生、(外胚葉、内胚葉、間葉系)					DVD
学習課題	適宜、レポートを家庭学習課題として課す。						
評価方法	単元終了後に筆記試験を行う。						
テキスト 参考書等	教科書：系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院) 自習書：解剖学トレーニングノート・生理学トレーニングノート (医学教育出版社) 参考書： ネット解剖学図譜 (丸善出版)、 感覚器の地図帳 (講談社) 病気がみえるシリーズ (No. 6, 7) : 脳・神経・免疫 (MEDIC MEDIA 社) 休み時間の免疫学：(講談社)						

科目	形態機能学	履修 学年	2 年次 後 期	単位数 講師名	1	時間	30
目 標	解剖生理学の知識をもとに、生活行動から人間をとらえ「からだ」を理解し、看護実践の基礎知識とする。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1	イントロダクション	本科目の概要と進め方 自己学習の進め方 からだの白地図に臓器を書いてみよう					講義・演習・グループワークを含む
2	恒常性維持のための調節機構	神経性調節と液性調節					
3	恒常性維持のための物質の流通	流通の原動力 - 心臓・血圧					
4		流通路 - 血管・リンパ管					
5		流通の媒体 - 血液					
6	息をする	呼吸運動					
7	息をする	ガス交換（内呼吸と外呼吸）					
8	食べる	食欲、食行動、咀嚼、嚥下					
9	消化、吸収	機能的消化と科学的消化 吸収後の栄養の流れ					
10	人体の構造	からだの白地図に「食べる」に関連した臓器を書いてみよう					
11	排泄	尿意を感じ排尿するしくみ、尿の生成、体液量調節の機構					
12	排泄	便意を感じ排便するしくみ					
13	お風呂に入る	皮膚の構造と機能					
14, 15	まとめ	まとめ					
学習 課題							
評価 方法	出席、授業態度、課題、筆記試験などを参考に評価します。 演習では、事前準備、参加姿勢、各回のミニテストなどを参考に評価します。						
テキスト 参考書等	看護形態機能学—生活行動からみるからだ—菱沼典子（日本看護協会出版会） “看護につなげる” 形態機能学 菱沼典子（メヂカルフレンド社） 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学（医学書院） 看護が見える Vol. ③ フィジカルアセスメント（メディカ出版）						

科目	代謝栄養学	履修	1 年次	単位数	1	時間	30
		学年	後 期	講師名	船越 広大		
目標	人体はどのような物質で構成されているのか、また、健康に生きるためには、どのような物質を取り入れなければならないか、或いは病気となったときには、何処が変わっているのか、どのような治療が必要なのかを知るために、基礎となる生化学、栄養学を学ぶことが大きな目標となる。						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	人体と栄養生化学 遺伝子	細胞、組織の構造、役割を説明し、それを維持する栄養との関連を概説する。 遺伝子の構造、役割を概説する。 遺伝子疾患の例をあげ、説明する。				講義・演習を含む	
2	食物と栄養	食物の栄養成分の例を挙げ、説明する。					
3	糖質	糖質の種類と役割とその化学を説明。					
4	脂質	脂質の種類と役割とその化学を説明。					
5	タンパク質	タンパク質の種類とその化学を説明。					
	エネルギー	エネルギー代謝を説明する。					
	酵素	酵素の働きと関連する病態を概説する。					
6	ビタミン	ビタミンの働きと欠乏症を概説する。					
	無機質	無機質の働きと欠乏症を概説する。					
7	食事摂取基準	日本人の食事摂取基準（2025 年度版）の概説、各指標を説明、また、基					
8		礎代謝、推定エネルギー必要量などを概説する。 ライフステージにおける栄養の摂取量、質の違いを概説する。					
9	成長と生活	治療食の種類、経管栄養と輸液の適応と実施方法を説明する。 NST 栄養サポートチームの役割と栄養療法の実施方法を概説する。					
10	栄養療法	主観的包括的評価 SGA，客観的栄養評価 ODA の実際を概説する。 栄養必要量を算出する。					
11	NST 栄養サポートチーム	代謝栄養学のテーマに沿ったグループワークの成果を発表する。					
12	TNT						
13							
14	グループワー						
15	ク・発表						
学習課題	生命維持に関する化学物質（栄養素など）がどのように取り込まれ、生体内で変化し、どのように働いているかを知る（生命現象）。また、健康とは如何なる状態かを知ること。栄養と病態の関連などを知ること。						
評価方法	出席、授業態度、課題、筆記試験などを参考に評価します。						
テキスト 参考書等	新体系看護学全書 人体の構造と機能②栄養生化学（メヂカルフレンド社） ハーパー生化学（丸善株式会社）、その他						

科目	病理学	履修 学年	1 年次 後 期	単位数	1	時間	15
				講師名	今井 克幸		
目 標	1. 疾患の原因・病態を学ぶ。 2. 病理学全般に共通した疾病の基礎的知識を学ぶ 3. 細胞・組織の障害と修復、循環障害、炎症、代謝障害、免疫疾患、腫瘍の発生と転移、 (ア) 遺伝子異常と疾患などの各疾患について、その原因・病態・病変の特徴を学ぶ。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1		1) 病因論、壊死とは？				講義・演習を含む	
2		2) 創傷治癒過程の理解					
3		3) 循環障害、浮腫、出血、梗塞、ショック					
4		4) 代謝障害とそれが原因となる疾患					
5		5) 高血圧と動脈硬化					
6		6) 炎症性細胞、サイトカインとは？					
7		7) 免疫病理学、アレルギー疾患					
8		8) 腫瘍・先天異常、老化と死					
学習 課題	解剖・生理学で学んだことが病理学の基礎知識となります、その復習をして授業に臨むこと。 適宜、レポートを提出して貰います。						
評価 方法	講義終了後の筆記試験および、レポート提出で、成績を評価します。						
テキスト 参考書等	教科書：系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 (医学書院) 参考書：パワーアップ問題演習 「病理学」 (サイオ出版)						

科目	感染症と微生物学	履修 学年	1 年次 前 期	単位数	1	時間	30
				講師名	志村 洋一郎		
目 標	感染症の原因となる微生物およびそれに対する生体防衛反応である「免疫」の知識を修得し、微生物が人体に及ぼす影響と感染防御の基礎を理解する。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	微生物学総論 1	講義の概要説明，微生物と微生物学				講義・演習を含む	
2	微生物学総論 2	細菌の性質（1）					
3	微生物学総論 3	細菌の性質（2）					
4	微生物学総論 4	ウイルスの性質，真菌の性質					
5	免疫学 1	感染と感染症（1）					
6	免疫学 2	感染と感染症（2）					
7	免疫学 3	感染に対する生体防御機構					
8	免疫学 4	感染防御の基本、滅菌と消毒，実習 1（手指衛生）					
9	免疫学 5	感染症の検査と診断，感染症の治療、感染症の現状と対策					
10	細菌学 1	病原細菌と細菌感染症1					
11	細菌学2	病原細菌と細菌感染症2					
12	細菌学 3	病原細菌と細菌感染症3					
13	ウイルス学1	病原ウイルスとウイルス感染症					
14	ウイルス学 2	ウイルス感染症の伝播と予防					
15	真菌学・寄生 虫学	病原真菌と真菌感染症，寄生虫と衛生動物					
学習 課題							
評価 方法	筆記試験（小テストを含む）						
テキスト 参考書等	系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学（医学書院） その他：講義資料を随時配布する						

科目	疾病論Ⅰ 呼吸器	履修	1 年次	単位数	1	時間	15
		学年	後 期	講師名	松崎 郁夫		
目標	呼吸器系・循環器系の機能障害の発生過程と症状、診断、治療について理解できる。						
回数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1	呼吸器系	1. 呼吸器系機能障害					講義・演習 を含む
2		1) 呼吸器系機能障害の主な症状					
3		(1) 咳嗽 (2) 喀痰と喀痰による疾患の鑑別					
4		(3) 血痰・吐血 (4) 胸痛 (5) チアノーゼ					
5		(6) 呼吸困難 (7) 嚔声 (8) ばち状指					
6		(9) ホルネル症候群					
7		2) 主な呼吸器系機能障害の診断					
		(1) 問診、視診、打診、聴診、触診 (2) 喀痰検査					
		(3) 画像検査 (4) 超音波検査 (5) 内視鏡検査					
		(6) 呼吸機能検査 (7) 動脈血ガス分析					
		(8) 胸腔穿刺検査 (9) 生検					
		(10) 気管支肺胞洗浄					
		3) 原因と発生過程					
		(1) かぜ症候群、インフルエンザ、肺炎、肺結核症					
		(2) 慢性閉塞性肺疾患 (3) 気管支喘息					
		(4) 特発性間質性肺炎 (5) 肺癌					
		(6) 肺血栓性塞栓症、肺高血圧症、肺水腫					
		(7) 胸膜炎、気胸 (8) 睡眠時無呼吸症候群					
		(9) じん肺					
		4) 治療					
		(1) 薬物療法（化学療法含む） (2) 吸入					
		(3) 酸素療法 (4) 人工呼吸療法 (5) 手術療法					
		(6) 放射線療法					
		呼吸器に対する放射線療法の副作用					
8		試験					
学習 課題							
評価 方法	筆記試験、授業態度						
テキスト 参考書等	新体系看護学全書 成人看護学② 呼吸器（メヂカルフレンド社）						

科目 目 目 標	疾病論Ⅱ 循環器	履修 学年	1 年次 後 期	単位数	1	時間	15
				講師名	淡路 利行 木村 俊介 京 吉紀 渡部 葉子		
目 標	循環器系の機能障害の発生過程と症状、診断、治療について理解できる。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	循環器系	・総論 ・循環器の疾患にかかわる診察（問診・視診・触診・打診・聴診・血圧測定） ・症状と病態生理 （胸痛、呼吸困難、動悸、意識障害・失神、ショック、浮腫、チアノーゼ他） ・メタボリックシンドロームとの関連性				講 義 ・ 演 習 ・ を含む	
2		・血圧異常 ・脈管の疾患 ・循環器疾患にかかわる検査（画像検査：胸部X線検査、CT スキャン・MRI） ・治療：薬物療法・手術療法：人工血管置換術、ステントグラフト治療				1・2回 渡部先生	
3		心不全 心筋疾患 検査：心エコー、胸部X線検査、血液ガス分析 核医学検査 治療：薬物療法				3回 京先生	
4・5		虚血性心疾患 ①狭心症 ②心筋梗塞 検査：胸部X線検査（心臓カテーテル法、核医学検査） 治療：心臓カテーテル治療、薬物療法 手術療法：心臓バイパス手術 心臓リハビリテーション				4・5回 淡路先生	
6		不整脈 ※各不正脈の「概念・定義」、「原因・病態生理」「症状」「検査」、「治療」について A：頻脈性不正脈（心室期外収縮、心房期外収縮、洞性頻脈、上室頻拍、心室頻拍、心房粗動、心室細動、心房細動、心房細動、WPW 症候群） B：徐脈性不正脈（洞不全症候群、房室ブロック他）				6・7回 木村先生	
7		先天性心疾患 弁膜症、検査：心エコー、胸部X線検査 治療：薬物療法 手術療法 弁置換					
8		試験					
学習 課題							
評価 方法	筆記試験、授業態度						
テキスト 参考書等	新体系看護学全書 成人看護学③ 循環器（メヂカルフレンド社）						

科目	疾病論Ⅲ 内分泌 代謝 消化器	履修 学年	1 年次 後 期	単位数	1	時間	30
				講師名	白坂 知之 今井 克幸		
目標	消化器系・内分泌代謝系の機能障害の発生過程と症状、診断、治療について理解できる。						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	食道・消化管 の疾患	1. 消化器系の機能障害				講義・演習を 含む	
2		1) 消化器系の機能障害の主な症状					
3		(1) 吐血・下血 (2) 黄疸					
4		(3) 浮腫・腹水 (4) 門脈圧亢進					
5	肝臓・胆のう・ 膵臓の疾患	2) 消化管の疾患の検査・診断・治療					
6		(1) 食道疾患 (2) 胃疾患					
7		(3) 腸疾患 (4) 胆・肝・膵疾患					
		3) 内視鏡治療					
8	内分泌系の疾 患	内分泌系の疾患の症状・診断・治療					
9		1) 下垂体機能障害					
10		成長ホルモン産生腫瘍					
11		抗利尿ホルモン不適合分泌症候群					
12		2) 甲状腺機能障害					
		3) 副腎皮質機能障害					
13	代謝系の疾患	4) 糖尿病の症状・診断・治療					
14		・病型分類 ・三大合併症					
15		1. 栄養療法について					
	栄養療法						
学習 課題							
評価 方法	筆記試験						
テキスト 参考書等	新体系看護学全書 成人看護学⑤ 消化器 (メヂカルフレンド社) 新体系看護学全書 成人看護学⑧ 内分泌／栄養・代謝 (メヂカルフレンド社)						

科目	疾病論Ⅳ 腎泌尿器 生殖器	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	1	時間	15
				講師名	高橋 誠 他		
目 標	腎泌尿器系・生殖器系の発生過程と症状. 診断. 治療について理解できる。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1 2 3 4 5 6 7	1. 腎泌尿器系の機能障害	1. 腎泌尿器機能障害の主な症状 1) 尿量の異常 2) 浮腫 3) 水・電解質異常 4) 尿の性状の異常 5) 高血圧 2. 主な腎泌尿器障害の診断 1) 糸球体ろ過値 2) 血液生化学 3) 尿検査 4) 免疫化学検査 5) 画像検査 6) 腎生検 3. 原因と発生過程 1) 形態と機能 4. 治療 1) 透析療法					講義・演習を含む
8	2. 生殖器の機能障害	1. 生殖器障害における主な症状 1) 尿路腫瘍 2) 尿路通過障害 3) 神経因性膀胱 4) 尿失禁 5) 高齢者の腎機能・腎疾患 2. 主な生殖器障害の診断 3. 原因と発生過程 1) 形態と機能 2) 疾患 (1) 前立腺肥大 (2) 前立腺がん (3) 男性不妊症 4. 主な生殖器障害の診断・治療 4) ホルモン療法 試験					
学習 課題							
評価 方法	筆記試験						
テキスト 参考書等	新体系 看護学全書 成人看護学⑦ 腎泌尿器 (メジカルフレンド社)						

科目 目	疾病論Ⅴ 血液・造血器 免疫アレルギー 皮膚 歯 （血液・造血器）	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	1	時間	14／30
	講師名			藤島 直仁 船越 広大			
目 標	1. 血液の成分を知り、生命維持に欠かせない血液の機能を理解する。 2. 貧血、感染、疼痛など血液疾患の主要な症状について学ぶ。 3. 赤血球疾患（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球貧血）・白血球疾患（白血病）・出血性疾患の概要と臨床的特徴を理解する。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1	血液造血器系の機能障害	1. 血液・造血器のしくみと働き 1) 血液の組成 2) 赤血球の形態と機能 3) 白血球の形態と機能 4) 血小板の形態と機能 5) 血球産生の機能 6) 血漿成分の働き					講義・演習を含む
2	血液造血器疾患の主な症状	1. 血液造血器疾患の主な症状 1) 貧血 2) 赤血球増加 3) 白血球減少 4) 白血球増加 5) 出血傾向 6) リンパ節腫大 7) 脾腫					
3	血液・造血器疾患の診断	1. 血液・造血器疾患の診断 1) 検査の方法 ①末梢血液検査 ②血清学的検査 ③免疫学的検査 ④出血・血栓傾向の検査 ⑤組織学的検査					
4	主な血液・造血器疾患とその治療	1. 赤血球疾患 1) 鉄欠乏性貧血 2) 巨赤芽球性貧血 3) 溶血性貧血 4) 再生不良性貧血					
5		2. 白血球系疾患とその他の骨髄疾患 1) 急性白血病 2) 慢性骨髄性白血病 慢性リンパ球性白血病					
6		3. リンパ増殖性疾患と類縁疾患 1) 悪性リンパ腫 2) 多発性骨髄腫					
7		4. 血液・造血器疾患における化学療法について					
学習 課題							
評価 方法	筆 記 試 験						
テキスト 参考書等	新体系看護学全書 成人看護学④ 血液・造血器（メヂカルフレンド社）						

科目	疾病論Ⅴ		履修 学年	2 年次 前 期	単位数	1	時間	16／30
	血液・造血器 免疫アレルギー 皮膚 歯 （免疫アレルギー 皮膚 歯 ）				講師名	今井 克幸 小野塚 直也 田村 誠		
目標	1. 免疫システムを理解し、獲得免疫で中心的役割を担っているリンパ球の働きを中心に理解する。 2. 主要なアレルギー疾患、免疫不全による疾患の、原因、症状、診断、治療について理解する。 3. 膠原病とその類縁疾患について理解する。							
回数	単 元 名	授 業 内 容						授業形式
1 2 3 4 5	免疫疾患の原因 とアレルギー	1. 免疫反応 2. アレルギー疾患の原因と区分 3. アレルギー疾患の症状・治療、 ステロイド、 サイトカイン、 免疫抑制薬、 生物学的製剤、分子標的薬、 減感作療法						講義・演習を含む
6 7	膠原病	1. 膠原病のおこる分子メカニズム・症状 2. 膠原病と類縁疾患の病態、 関節リウマチ 全身性エリテマトーデス シェーグレン症候群						
8	皮膚の構造と 機能	1. 皮膚の構造と皮膚の担う役割						
	皮膚疾患で生じ る主な症状と診 断方法	1. 皮膚疾患で生じる主な症状 1) 原発疹 2) 発疹						
	皮膚疾患の主な 治療法	2. 皮膚疾患の診断 3. 炎症性皮膚疾患の治療法 4. 感染性皮膚疾患の治療法 5. その他の皮膚疾患の治療法						
	皮膚疾患の診療	1. 炎症性皮膚疾患 2. 感染性皮膚疾患 3. その他の皮膚疾患						
	歯・口腔の疾患	1. 口腔の機能障害 2. 主な疾患の診断・治療 う歯、歯周病						
学習 課題	免疫学・アレルギー疾患の研究は、現在でも盛んに研究されていて、日々進歩しています。 最新の医学知識と教科書の記述の間に、ずれがある事を踏まえつつ、学習に臨んで下さい。							
評価 方法	筆記試験							
テキスト 参考書等	教科書：新体系看護学全書成人看護学⑨ 感染症／アレルギー・免疫／膠原病（メヂカルフレンド社） ：「病理学」疾病のなりたちと回復の促進（医学芸術社）、 新体系看護学全書：成人看護学⑫ 皮膚／眼（メヂカルフレンド社） 成人看護学⑬耳鼻咽喉／歯・口腔 参考書：病気がみえるシリーズ（No. 6）免疫・膠原病（Medic Media 社）、 パワーアップ問題演習 病理学（サイオ出版）							

科目	疾病論Ⅵ	履修	2 年次	単位数	1	時間	12／30
	運動器 脳神経 耳鼻咽喉 眼（運動器）	学年	後 期	講師名	佐藤 毅		
目標	運動機能の病態生理を理解できる						
	運動機能障害の症状、検査、診断、治療を理解できる						
回数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1 2 3 4 5 6	骨格・筋肉系の疾患	1) 骨折総論 (1) 骨折の分類 (2) 転位 (3) 骨折治療の病態生理 (4) 骨折の症状 (5) 骨折の治療 2) 骨折の各論 3) その他の外傷 (脱臼・捻挫など) 4) 骨・関節の炎症性疾患 (1) 骨髄炎 (2) 化膿性関節炎 (3) 変形性関節症 (4) 関節リウマチ (5) 痛風 (6) その他 5) 脊椎疾患など (1) 椎間板ヘルニア (2) 分離症 (3) 腰部脊柱管狭窄症 (4) 骨粗鬆症など 運動器の構造と検査 1) 骨・関節・腱・靱帯などの構造 2) 姿勢機能障害、歩行移動機能障害 各種計測法 3) 関節可動域や徒手筋力テスト					講義・演習を含む
学習課題							
評価方法	筆記試験						
テキスト 参考書等	新体系看護学全書 成人看護学⑪ 運動器（メヂカルフレンド社）						

科目	疾病論Ⅵ 運動器 脳神経 耳鼻咽喉 眼 (脳神経 耳鼻咽喉 眼)		履修 学年	2 年次 後 期	単位数	1	時間	18／30
					講師名	濱崎 亮 三原 国昭 工藤 ゆかり		
目標	脳神経・感覚器系の機能障害の発生過程と症状、診断、治療について理解できる。 感覚機能障害の病態生理を理解できる 感覚器障害の症状、検査、診断、治療を理解できる。							
回数	単 元 名	授 業 内 容						授業形式
1	脳神経系	脳神経の機能障害						講義・演習を含む
2		1. 脳神経機能障害の主な症状						
3		1) 形態と機能						
4		2) 主要症状と病態生理						
5		3) 検査						
6		2. 原因と発生過程 3. 主な脳神経障害の診断・治療 1) 脳血管障害 2) 脳腫瘍 3) 脳感染症 4) 頭部外傷 5) 神経変性、脱髄性の疾患 6) 神経・筋疾患						
7	耳鼻咽喉	1. 形態と機能						講義・演習を含む
8		2. 主な耳鼻咽喉疾患：診断と治療 1) 中耳炎 2) 老人性難聴 3) メニエール病 4) 突発性難聴 5) アレルギー性鼻炎 6) 慢性副鼻腔炎 7) 扁桃炎 8) 喉頭がん						
9		眼 1. 形態と機能 2. 主な眼の疾患：診断と治療 1) 近視・遠視・弱視 2) 糖尿病網膜症 3) 未熟児網膜症 4) 緑内障 5) 白内障 6) 加齢性黄斑変性症 7) 網膜剥離 8) 角膜移植						
学習 課題								
評価 方法	筆記試験							
テキスト 参考書等	新体系看護学全書 成人看護学⑥ 脳・神経（メヂカルフレンド社） 新体系看護学全書 成人看護学⑫ 皮膚／眼（メヂカルフレンド社） 新体系看護学全書 成人看護学⑬ 耳鼻咽喉／歯・口腔（メヂカルフレンド社）							

科目	薬理学	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	1	時間	30
				講師名	斉藤 匡昭・船越 広大 他		
目 標	薬物の作用を病気の治療薬という観点から学ぶ。個体レベル、組織レベル、細胞レベル、分子レベルでの作用機序を理解して薬の作用の本質や基本原理を学ぶ。また、看護師として薬物治療に参加するための基礎となる事項を学ぶ。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	総論 (薬理学とは)	人類が化学物質を薬物として使用した経緯とその危険性を概説する。有用性、毒性、厚生労働省による許可を概説。				講義・演習を含む	
2	薬物の効く仕組み	生体の機能を変化させること、薬物受容体、酵素に働くことなどを説明する。					
3	薬物の移動	吸収、分布、代謝、排泄を概説する。血液中の薬物濃度などを例示する。					
4	薬効に影響を与える因子	ライフサイクル、薬物・食品相互作用、配合変化、疾病による影響、を概説する。					
5	薬物が生体に及ぼす影響と薬物の保管・管理	薬物の使用で臨床検査値が変化したり、副作用を生じることを例示し、適正使用を理解する。薬物の分類、保管法、管理法など、医薬品医療機器法を概説する。					
	各論	※各疾患に対する治療薬とそのメカニズムを、疾患の例を挙げて説明する。					
6	循環器の疾患						
7	腎臓・泌尿器の疾患						
8	呼吸器の疾患						
9	感覚器の疾患						
10	炎症						
11	腫瘍						
12	代謝・内分泌の異常による疾患						
13	脳・神経の疾患						
14	精神の疾患						
15	血液、消化器の疾患						
学習 課題	看護師として治療薬のメカニズムやその使用法を学ぶことは、薬物の適正使用を行うためには、大切なことです。薬理学は比較的難解であるが、楽しく勉強ができることを期待します。予習を前提として授業が進むと考えてください。 基本は生理学 です。インターネットなどの使用は大いに結構。						
評価 方法	出席、授業中の態度、課題、試験を参考に評価する。						
テキスト 参考書等	疾病のなりたちと回復の促進 薬理学（医歯薬出版） NEW 薬理学（南江堂）						

科目	治療論Ⅰ 検査 手術・麻酔 放射線 ME (検査 手術・麻酔)	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	1	時間	24／30
				講師名	岩崎 渉 山田 利信 他		
目標	手術、麻酔、検査など、疾病の回復促進に関する知識について理解する。						
回数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1	手術療法	1・外科治療（手術）の意義 ・外科患者の病態の基礎 手術侵襲と生体反応 炎症／感染症／腫瘍 ・医療・看護に関する法的・倫理的問題 ・危険防止／感染対策					講義・演習を含む
2	麻酔	2 麻酔 全身麻酔・局所麻酔／手術室の看護					
3	外科的管理	3・呼吸管理 ・体液・栄養管理／輸血／緩和医療／ ペインクリニック					
4	外科治療の実際	4・外科治療の実際 外科的基本手技・低侵襲治療					
5	救急医療	5・救急医療 外傷とショック／BLS／ACLS・ ICLS／JPTEC・APTEC／ ISLS・PSLS／災害医療					
6	呼吸器系・循環器系の外科	6・呼吸器系・循環器系の外科					
7	消化器系及び腹部の外科	7・消化器系及び腹部の外科 1					
8	消化器系及び腹部の外科	8・消化器系及び腹部の外科 2					
9	乳腺・内分泌の外科 高齢者・小児の手術、他	9・乳腺・内分泌の外科 10・高齢者の手術、小児の手術、臓器移植 鼠径ヘルニア／先天性心疾患					
10	臨床検査	1. 生化学・免疫・一般検査					
11		2. 血液・輸血検査					
12		3. 生理検査					
学習課題	解剖生理学で学んだことが基礎知識となるため、復習して授業に臨む						
評価方法	筆記試験						
テキスト 参考書等	系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論（医学書院） 系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論（医学書院） 新体系看護学全書別巻 臨床検査（メヂカルフレンド）						

科目	治療論Ⅰ 検査 手術・麻酔 放射線 ME (放射線 ME)	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	1	時間	6／30
				講師名	落合 一登 千葉 秀平		
目標	放射線治療について理解できる。 ME機器を安全、効果的に取り扱うための基礎知識を習得する。						
回数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1 2 3	放射線 ME ME機器使用時の基礎知識 を理解できる	1. 主な画像診断と各種検査 X線診断、血管造影、MRⅠ、超音波、 核医学診断ⅠVR 2. 放射線治療 1) 人体に対する放射線の影響 2) 放射線治療総論 3) 放射線治療の方法 3. 放射線防護と健康管理 1) 放射線障害 2) 放射線防護の基本と健康管理 1. ME機器使用時の基礎知識 1) 電気の基礎知識 2) 安全対策としてのアースの役割 3) 電気ショックと人体の反応 4) ME機器の感電対策 2. 人工呼吸器のしくみ 1) 人工呼吸器の原理と基本構造 2) 人工呼吸器の分類と換気モード 3) アラーム点灯 4) 人工呼吸器の保守管理 2. 酸素供給 1) 中央配管方式 2) 医療ガス					講義・演 習を含む
学習 課題	解剖生理学で学んだことが基礎知識となるため、復習して授業に臨む						
評価 方法	筆記試験						
テキスト 参考書等	・新体系看護学全書別巻 放射線診療と看護（メヂカルフレンド社） ・系統看護学講座基礎分野Ⅰ 基礎看護学 ④ 臨床看護総論（医学書院）						

科目	治療論Ⅱ（食事と栄養）	履修 学年	2 年次 後 期	単位数	1	時間	15
				講師名	石黒 祐香子 宮腰 和美		
目標	疾病回復を促進する栄養の知識について理解する。						
回数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1	・ 栄養食事療法とは ・ 栄養・食事療法の実際 ・ 症状を持つ患者の栄養食事療法 ・ 医療保険制度・介護保険制度と食事	第1章 [A] 栄養食事療法の概要 [B] 医療・福祉の場における栄養食事療法 第2章 [A] 病人食の分類と特徴 [B] 栄養補給法 [C] 栄養アセスメントの基本 [A] ショック [B] 発熱・低体温 [C] 脱水・浮腫 [D] 接触・嚥下障害 第3章 [A]ショック [B]発熱・低栄養 [C]脱水・浮腫 [D]摂食・嚥下障害 第18章 [A]医療保険と食事 [B]介護保険と食事					講義・演習を含む
2		第4章 呼吸器疾患 第5章 循環器疾患					
3		第6章 消化器疾患 第7章 腎・泌尿器疾患					
4		第8章 栄養代謝性疾患 第9章血液疾患					
5		第10章 アレルギー疾患					
6		第11章 精神・神経疾患患者					
7		第12章 熱傷・褥瘡 第13章 術前術後の栄養管理 第14章 がん患者の栄養食事療法 第15章 妊産婦・更年期女性の栄養と食事 第16章 小児の栄養管理 第17章 高齢者の栄養と食事					
8		試験					
学習 課題							
評価 方法	筆記試験						
テキスト 参考書等	系統看護学講座別巻 栄養食事療法（医学書院） 糖尿病食事療法のための食品交換表（日本糖尿病協会・文光堂）						

科目	治療論Ⅲ　リハビリテーション	履修 学年	2 年次 後 期	単位数	1	時間	15
				講師名	齊藤 進 柴田 信行 齊藤 彩乃 滝田 大知 石川 周		
目標	疾病回復を促進するリハビリテーションの知識について理解する。						
回数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1	リハビリテーション概論	・リハビリテーションの定義 ・障害の考え方（ICIDH、ICF など） ・ユニバーサルデザインとバリアフリー ・リハビリテーションの実際					講義・演習を含む講堂
2	基本的な評価各論（運動器）	・ROM や MMT などの主な評価 ・大腿骨骨折のリハビリテーション ・変形性関節症のリハビリテーションおよびリスク管理や ADL 指導など					実習室
3	作業療法士	・急性期病院での作業療法士 ・精神科デイケア ・日常生活での関わり方					講堂
4	各論（脳血管）	・脳血管疾患のリハビリテーションおよびリスク管理や ADL 指導など					実習室
5	言語聴覚療法	・言語聴覚について ・摂食嚥下障害について					
6	訪問リハビリテーション	・訪問リハビリテーションについて					実習室
7	生活期の理学療法	・病気や痛みのない快適な生活を取り戻すために最初にやるべきこと ・手術をしても治らない腰痛で退職を覚悟した黒歴史から奇跡の復活を遂げたある理学療法士の物語					
学習課題							
評価方法	筆記試験						
テキスト 参考書等	新体系看護学全書別巻　リハビリテーション看護（メヂカルフレンド社）						

科目	公衆衛生学	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	2	時間	24／30
				講師名	中田 克平		
目 標	環境が人間の健康に及ぼす影響と健康を維持増進し、望ましい健康生活を送るための保健活動を理解する。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1	第 1 編 公衆衛生の理解	1. 公衆衛生と健康の概念					講義・演習 を含む
2	第 1 章	2. 公衆衛生の歴史 3. 公衆衛生の方法					
3	公衆衛生と公衆衛生学	1. 環境を考える 2. 人間の健康問題と自然環境					
4	第 2 章	3. 人間の健康と生活環境 4. 人間の健康と環境問題					
5	公衆衛生からみる人間の	5. 居住環境の生活衛生 6. 食品保健と栄養					
6	健康と環境	7. 薬物と公衆衛生 8. 環境行政					
7		1. 人口の動向					
8	第 3 章	2. 人口の動向把握に必要な指標					
9	人口統計と公衆衛生	3. 少子高齢化の問題と公衆衛生					
10		1. 保健統計の基本的な考え方					
11	第 4 章	2. 健康指標 3. 傷病統計					
12	健康と保健統計	4. 保健医療資源統計 5. 保健医療統計情報システムの発展					
	第 5 章 疫学	1. 疫学の概念 2. 疫学調査 3. 疫学指標					
	第 6 章	1. 予防と健康増進					
	予防と健康保持増進	2. 健康診断・診査と健康管理 3. 健康教育への取り組み 4. 感染性疾患への対策 5. 非感染性疾患の対策 6. 事故予防					
	第 2 編 6 章	1. 難病への支援					
	難病、障害児・者保健福祉	2. 障害児・者への支援 3. 難病、障害児・者への支援体制					
	第 7 章 歯科保健	1. 歯科保健の意義 2. 歯科保健の現状 3. う蝕予防 4. 歯周疾患予防					
	第 8 章 学校保健	1. 子どもの現状 2. 学校保健					
	第 9 章 産業保健	1. 産業保健の理念と定義 2. 産業保健活動における制度とシステム 3. 産業保健の動向 4. 職場における保健活動の実際					
	第 11 章 国際保健	1. 国際保健とは、国際保健活動とは 2. 国際協力のしくみ 3. WHO の役割・活動 4. 国際保健における日本の役割					
学習 課題							
評価 方法	筆記試験						
テキスト 参考書等	新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生学（メヂカルフレンド社）						

科目	公衆衛生学	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	2	時間	6／30
				講師名	渡邊 正樹		
目 標	健康な地域社会の創造と、地域で生活しているあらゆる人々の健康生活を支援する公衆衛生活動の内容と方法を理解する。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1 2 3	第 2 編 保健活動 第 1 章 地域保健 第 2 章 母子保健 第 3 章 成人保健 第 4 章 高齢者保健福祉 第 5 章 精神保健福祉 第 10 章 健康危機管理・災害保健	1. 地域保健活動 2. 地域保健活動の基盤となる法律・制度 3. 地域保健法の理念と指針 4. 健康日本 21（第 3 次） 5. 健康増進法 1. 母子保健のあゆみ 2. 母子保健活動 3. 児童虐待防止 1. 成人期の生活と健康 2. こころとからだの健康づくりの概要 3. 健康増進活動と健康日本 21 4. 生活習慣病予防活動 5. 生活習慣病予防活動の展開 6. がん対策 1. 高齢者の健康と生活 2. 高齢者の保健医療福祉政策の推移 3. 高齢者の保健福祉にかかわる施策 4. 高齢者虐待防止 5. 介護保険制度 6. 地域包括ケアシステム 1. 精神保健福祉対策活動の基本 2. 精神保健福祉制度の変遷 3. 家庭・学校・地域の精神保健 4. 精神保健と自殺予防 1. 健康危機管理とは 2. 健康危機管理と平常時の活動 3. 健康危機管理の実際					講義・演 習を含む
学習 課題	新聞や報道などに関心を持ち、健康の側面から考える。						
評価 方法	筆記試験						
テキスト 参考書等	新体系看護学全書 7 巻 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生学（メヂカルフレンド社） 国民衛生の動向（厚生統計協会）地域看護概説（ヌーヴェルヒロカワ）保健師業務要覧（日本看護協会）						

科目 目 目 標	関係法規	履修 学年	2 年次 後 期	単位数	1	時間	15
				講師名	中田 克平		
目 標	健康と環境に関連した法令の概念を理解し、看護に必要な法規について学ぶ。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1	法の概念	1) 法とは 2) 法の種類 3) 衛生法の分類					講義・演習を含む
2	看護法	1) 保健師助産師看護師法 2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律					
3	医事法	1) 医療法 2) 医師法 3) 歯科医師法					
4	医療関係資格法	1) 薬剤師法 2) 診療放射線技師法 ほか 3) 移植医療に関する法律					
5	緊急時の看護や 医療に関する法 保健衛生法 I	1) 救急医療用ヘリコプターを用いた救急医療の確保に関する特別 措置法 2) 地域保健法 ほか					
6	保健衛生法 II 薬務法 環境衛生法	1) 食品安全基本法 2) 食品衛生法 3) 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 4) 水道法 5) 下水道法 6) その他の関係法					
7	社会保険法 福祉法	1) 健康保険法 2) 介護保険法 3) 社会福祉法 4) 児童福祉法 5) その他の関係法					
8	労働法 環境法	1) 労働基準法 2) 労働安全衛生法 3) 環境基本法 4) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 5) その他の関係法					
学習 課題							
評価 方法	筆記試験						
テキスト 参考書等	系統看護学講座専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 (医学書院)						

科目	社会福祉論	履修 学年	2 年次 後 期	単位数	2	時間	3 0
				講師名	土室 修		
目 標	社会福祉、社会保障に関する基本的な知識を習得する。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1	オリエンテーション 現代社会の理解	シラバス、出題基準 戦後日本社会の変化と私たちの未来、つながりの変化と私たちの生き方					講義・演習を含む
2	社会保障・社会福祉と私たちの暮らし・歴史	社会福祉とは何か、社会保障とは何か、現代社会と社会保障 社会保障の歴史					
3	社会保障の成り立ち	社会保障の歩み					
4	社会保障の財政と実施体制	社会保障の財政、実施体制と実施機関、社会福祉事業、 社会福祉施設					
5	医療保障制度と所得保障制度	医療保障制度、所得保障制度					
6	生活保護制度	生活保護制度の概要、保護の内容、動向、課題、生活困窮者 自立支援制度					
7	障害者福祉	障害者福祉の理念、国際的動向、状況、法制度					
8	障害者福祉と社会資源	障害者福祉制度の概要、障害者福祉と社会資源					
9	子ども家庭福祉	子どもの権利の確立と変遷、実施機関と施設、少子化対策と 次世代育成、施策					
10	高齢者福祉	高齢者を取り巻く状況、法律と施策、生きがいと社会参加					
11	介護保険制度	介護保険制度の背景、仕組みと手続き、サービス、財源と費 用負担					
12	介護保険と社会資源	介護保険制度のサービス、介護保険と社会資源					
13	地域福祉の理解	地域福祉の理念、推進する主な団体、組織、活動者、推進策、					
14	ソーシャルワーク	ソーシャルワークとは、発展、基礎理論、実践過程					
15	社会福祉専門職	担い手、価値と倫理、地域包括ケアシステム、チームケア					
学習 課題	事前・事後学習に取り組んでください。						
評価 方法	試験 100%						
テキスト 参考書等	看護職をめざす人の社会福祉、みらい出版社						

科目	保健医療福祉論	履修 学年	1 年次 後 期	単位数	1	時間	15
				講師名	太田原 康成 櫻井 史子 松森 ゆか 渡邊 正樹		
目標	1. 医学、保健医療福祉システムを学び、医療者としての基本的知識が理解できる。 2. 保健医療福祉の連携・協働について理解できる。 3. 保健医療福祉チームにおける看護師の役割が理解できる。						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1		1. 近代医学・医療の歴史と発展				講義・演習を含む	
2		2. 健康・疾病・障害の概念					
3		3. 医学の進歩と医の倫理				ヒポクラテスの誓い	
4		4. わが国の医療提供システムと動向				ジュネーブ宣言	
5		5. これからの医療・看護サービスのあり方				ヘルシンキ宣言	
6		6. 保健医療福祉システムの概念				リスボン宣言	
7		7. 保健医療福祉のあり方とチームの活動				患者の権利章典	
8		8. 保健医療福祉チームの連携と協働				バイオエシックス	
		9. 保健医療福祉チームの協働における看護師の役割、リーダーシップとメンバーシップ					
		10. 保健医療における国際協力					
学習 課題							
評価 方法	筆記試験 または 課題提出						
テキスト 参考書等	学生のための医療概論（医学書院）						

専門分野

専 門 分 野

目 的

あらゆるライフサイクル、あらゆる健康レベルにある対象の生活の場に応じた畏敬の念を基盤とした看護の実践ができる基礎的知識技術態度を養う。また、自らの看護観を構築し、さらなる看護を展望できる能力を養う。

目 標

- 1 対象のライフサイクルや生活レベルや生活の場に応じた看護を修得する。
- 2 畏敬の念を基盤とした、看護の学びから、自己の看護観を構築する。
- 3 看護の展望を視野に入れ、探究心を持ち、自己教育力の向上を図る。

基 礎 看 護 学

目 的

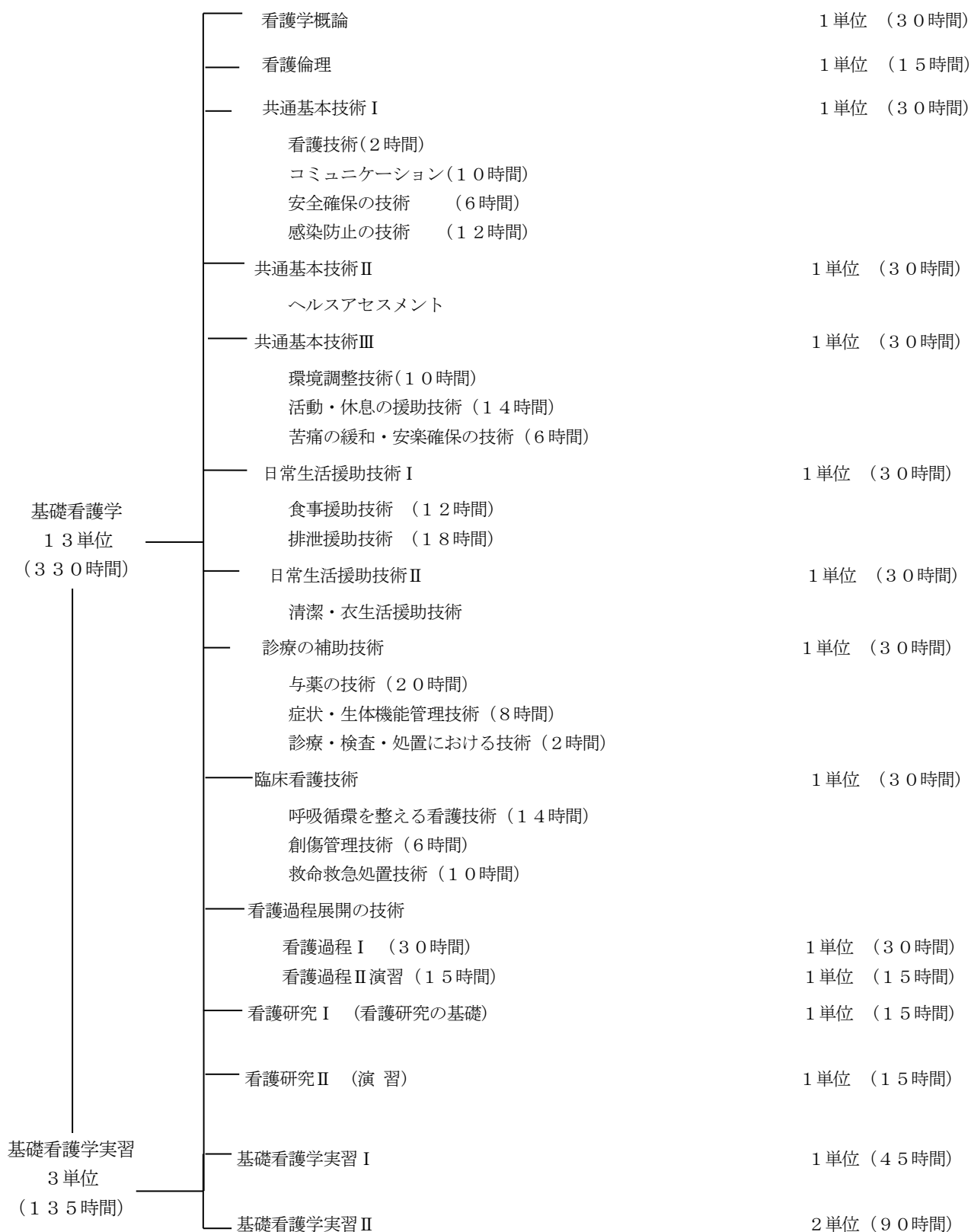
人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を理解し、看護の基礎となる知識・技術・態度を養う。

目 標

- 1 看護全般の概念を学び、看護の本質と位置づけを理解する。
- 2 看護を実践する上での基礎となる知識・技術・態度を習得する。
- 3 看護の対象を理解し、状態に応じた看護の役割と方法を習得する。

専門分野

基礎看護学の構成



科目	看護学概論	履修 学年	1 年次 前 期	単位数	1	時間	30
				講師名	近藤 美喜 大塚 博徳		
目標	1. 看護の本質とは何かを考え、看護の概念について理解する。 2. 看護の対象について理解する。 3. 看護実践における倫理観、自己の看護観を養う。						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1 2 3	看護の本質	1. 看護の変遷 2. 歴史にみる看護の誕生と発展 1) ナイチンゲール 2) ヘンダーソン 3. 看護の定義				講義・演習・グループワークを含む	
4 5	看護の役割と機能	1. 看護の役割と機能 1) 看護ケアについて 2) 看護実践とその質保証に必要な要件 3) 看護の役割・機能の拡大					
6 7	看護の継続性と連携	1. 看護の情報伝達と共有について 1) 入院時・入院中・転院時の情報伝達と共有 2) 多職種チームの連携と継続的なかわり 2. 「チーム医療・医療安全の考え方、ノンテクニカルスキルを磨く」				大塚先生 講義	
8 9	看護の対象の理解	1. 人間のこころとからだを知ることの意味 2. 生涯発達し続ける存在としての人間の理解 3. 人間の暮らしの理解					
10 11	国民の健康状態と生活	1. 健康のとらえ方、健康の定義 2. 国民の健康状態 1) 全体像 2) 子供の成長と健康 3) 高齢者と介護 3. 国民のライフサイクル 1) 平均寿命と出生 2) 結婚と出産 3) 家族					
12 13	看護の提供者	1. 職業としての看護 2. 看護職の資格・養成制度・就業状況 保健師助産師看護師法 保健師・助産師・看護師・准看護師の定義と業務 3. 看護職者の継続教育とキャリア開発 認定看護師・専門看護師・認定看護管理者					
14	看護における倫理	1. 現代社会と倫理 2. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯 3. 看護者の倫理綱領、事例を通しての意見交換					
15	看護の専門性の展望	看護の場に応じた活動やキャリア開発について調べ、発表し、将来を展望する まとめ					
学習課題							
評価方法	筆記試験 80 点 レポート課題 10 点 (グループワーク学習の振り返り) 10 点						
テキスト参考書等	系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学① 看護学概論 (医学書院) よくわかる看護者の倫理綱領 (照林社) 看護覚え書き (日本看護協会出版会) 看護の基本となるもの (日本看護協会出版会)						

科目	看護倫理	履修 学年	2 年次 後 期	単位数	1	時間	15
				講師名	加藤 栄子 野呂田 新		
目標	看護の在り様の原点であり、看護者として「正しい行い」「やってはいけない看護や行い」を学ぶ						
回数	単 元 名	授業内容					授業形式
1		1. 看護の倫理の基礎知識					講義・演習・ グループワ ークを含む
2		2. 看護倫理のアプローチ					
3		3. 看護実践における倫理					
4		4. 看護実践とアドボカシー					
5		5. 生命倫理					
6		6. インフォームドコンセント					
7		7. 専門職と倫理綱領					
8		8. 看護倫理と看護研究					
学習 課題	専門職者として「倫理的行動と何か、命を守る医療専門者と何か」を明確にする。						
評価 方法	筆記試験						
テキスト 参考書等	看護テキスト NICE 看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ 【改訂第3版】 南江堂						

科目 目	共通基本技術Ⅰ	履修 学年	1 年次 前 期	単位数	1	時間	30
	【看護技術 コミュニケーション 感染防止の技術 安全確保の技術】			講師名	櫻田 有紀子		
目 標	1. 看護技術の特徴、適切に実践するための要素について理解できる 2. 看護場面におけるコミュニケーションの基本を理解し効果的なコミュニケーション技術が理解できる。 3. 感染予防の意義を理解し、基本的な技術を習得する。 4. 対象にとっての安全確保について理解できる						
回 数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1	看護技術とは	1. 看護技術の特徴 2. 看護技術の範囲 3. 看護技術を適切にするための要素					講義
2 3 4 5 6	コミュニケーション	1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 4. 効果的なコミュニケーションの実際 5. コミュニケーション障害への対応					講義 講義・演習
7 8 9	安全確保の技術	1. 安全確保の基礎知識 2. 誤薬防止 3. 患者誤認防止 4. チューブ類の予定外抜去防止 5. 転倒・転落防止 6. 薬剤・放射線暴露防止					講義
10 11 12 13 14・15	感染防止の技術	1. 感染防止の基礎知識 2. 標準予防策（スタンダードプリコーション） 3. 感染経路別対策（感染経路の遮断） 4. 感染源対策（洗浄・消毒・滅菌） 5. 無菌操作の基礎知識と実際 6. 感染性廃棄物の取り扱い 7. 針刺し防止対策 8. 医療施設における感染管理 9. 感染予防の実際（演習）					講義 演習
学習 課題	事前にテキストで予習をすること						
評価 方法	筆記試験 授業態度 提出物 など						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（医学書院） 看護が見える Vol.1 基礎看護技術（メディックメディア）						

科目	共通基本技術Ⅱ 【ヘルスアセスメント】	履修 学年	1 年次 後 期	単位数	1	時間	30
				講師名	袴田 圭真		
目 標	1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術がわかる。 2. 全体の概観、バイタルサインの観察、計測、系統別アセスメント、心理・社会状態のアセスメントといったヘルスアセスメントの実際について習得する。 3. ヘルスアセスメントによって得られた結果を、実際のケアに結びつけていく態度を養う。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1	総論Ⅰ ヘルスアセスメントの意義	1. ヘルスアセスメントとは 2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント ①問診 ②聴取 ③情報の整理					講義
2	総論Ⅱ フィジカルアセスメントの方法	1. 全体の概観 2. 必要な技術 ①視診 ②触診 ③聴診 ④打診 3. 全身状態・全体印象の把握 ①概観 ②全体とは					講義・演習
3 4 5	総論Ⅲ 身体計測	4. 計測(1)身体測定の意義・目的・方法 (2)身長 (3)体重 (4)皮下脂肪厚 (5)腹囲 (6)バイタルサインの観察とアセスメント ①体温②脈拍③呼吸※経費的酸素飽和度含む④血圧⑤意識					講義
6		バイタルサイン測定の実際					演習
7	系統別フィジカルアセスメント	1. ケアにつなげるフィジカルアセスメント 2. 頭頸部の症状・徴候・アセスメント 頭頸部／甲状腺／リンパ節					講義
8 9 10		3. 脳・神経系の症状・徴候・フィジカルアセスメント 意識／脳神経／感覚機能／自律神経系／運動機能／反射					講義
		4. 筋・骨格系のアセスメント					講義・演習
11		5. 腹部の症状・徴候・フィジカルアセスメント 腹部全体／肝臓／脾臓／腎臓					講義・演習
12		6. 呼吸器系の症状・徴候・フィジカルアセスメント 呼吸運動／胸郭と肺／呼吸音					講義・演習
13		7. 循環器系の症状・徴候・フィジカルアセスメント 頸部／胸部／末梢循環器系					講義・演習
14		8. 乳房・腋窩の症状・徴候・フィジカルアセスメント 9. 直腸・肛門・生殖器の症状・徴候・フィジカルアセスメント					講義
15	心理・社会状態のアセスメント	心理・社会状態のアセスメント					講義
学習 課題	受講前に解剖生理学の復習を行い講義にのぞむこと 予習を行い演習にのぞむこと						
評価 方法	筆記試験						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体と構造と機能1 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② (医学書院) 看護が見える Vol.3 フィジカルアセスメント (メディックメディア)						

科目	共通基本技術Ⅲ 【環境調整 休息睡眠援助 苦痛緩和の技術】	履修 学年	1 年次 後 期	単位数	1	時間	30
				講師名	山平 良子 袴田 圭真 小玉 美佳		
目標	1. 環境の意義を理解し、快適・安全な環境を調整するための技術を習得する。 2. 安楽の意義を理解し、苦痛緩和や精神的安寧を目的とする技術を習得する。 3. 休息・睡眠の意義を理解し、休息・睡眠を促す技術を習得する。 4. ボディメカニクスに基づいた移動行動の支援や体位変換・体位保持の技術を習得する。						
回数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1～3	環境調整技術	1. 療養生活環境 1) 環境の意義 2) 療養環境における物理的・人的・社会的環境の特徴 2. 病室環境のアセスメントと調整 1) 病室と病床の環境整備 2) ベッドメイキング、リネン交換					講義 3 回
4・5		3. ベッドメイキングの実際（演習）					演習 2 回
6～12	活動・休息 援助技術	1. 基本的活動の基礎的知識 1) 姿勢・ボディメカニクス・体位 2. 移動の援助 1) 体位変換・歩行援助の知識 2) 体位変換・歩行援助の実際 3) 移乗・移送 ・車いす・ストレッチャー・スライディングシートを用いた移送の知識と実際 3. 睡眠・休息の援助 1) 睡眠の種類とメカニズム 2) 睡眠障害のアセスメント 3) 睡眠・休息の援助					講義 講義 演習 講義 演習 講義 2 回
13	苦痛の緩和・安楽 確保のケア	1. 安楽とは、苦痛とは					講義 2 回
14		2. 身体ケアを通じてもたらされる安楽					
15		3. 苦痛の緩和・安楽のケア 1) 体位保持・電法の基礎的知識 2) 体位保持・電法の実際（演習）					
学習 課題	適宜提示する。						
評価 方法	筆記試験 100 点 （山平 35 点 袴田 45 点 小玉 20 点）						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学 ② （医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学 ③ （医学書院） 看護が見える Vol.1 基礎看護技術（メディックメディア）						

科目	日常生活援助技術Ⅰ 【食事援助技術 排泄援助技術】	履修 学年	1 年次 前 期	単位数	1	時間	30
目 標	1. 健康生活における食事の意義を理解し、食事制限や食事を摂取する機能の障害が対象に及ぼす影響を理解するとともにそれぞれの対象に適した食事援助の方法について理解する。 2. 人間にとっての排泄の意義を理解し、排泄障害が人間に及ぼす影響を学習するとともに、排泄障害のある患者に対する援助方法を理解する。						
回 数	単元名	授 業 内 容					授業形式
1	食 事 の 援 助 技 術	1. 食事援助の基礎知識 1) 栄養の意義（身体的・社会的・精神的） 2) 食事と栄養に影響する要因 3) 看護師の役割 4) 食事と栄養のアセスメント					講義
2		2. 食事摂取の援助の基礎知識 1) 嚥下障害のある人への援助 2) 食事摂取の自立困難な人への援助					
3		3. 食事摂取の援助の実際（演習）					
4		4. 医療施設で提供される食事の種類と形態					
5		5. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管・経腸栄養法 2) 経静脈栄養法					
6		6. 経管栄養法の実際（演習）					
7～9	排 泄 の 援 助 技 術	1. 自然排尿・自然排便の基礎知識 1) 排泄の意義（身体的、精神的、社会的） 2) 排泄における看護師の役割 3) 排泄のメカニズム 4) 排泄に影響する要因 5) 排泄のアセスメント 2. 自然な排泄を促す援助の方法 1) トイレ歩行・ポータブルトイレでの排泄方法 2) 床上排泄の援助の方法 ①便器・尿器の種類と当て方 ②おむつの当て方					演習（1 回） 講義
10		3. 排泄援助の実際（演習）					
11		4. 排尿障害のある患者への援助					
12		1) 頻尿と尿失禁 2) 排尿困難と尿閉					
13		6. 排尿障害に対する処置の方法 1) 一時的導尿 2) 持続的導尿					
14		7. 一時的導尿の実際（演習）					
15		8. 排便障害のアセスメントと処置の方法 1) 浣腸 2) 敵便					
		9. グリセリン浣腸の実際（演習）					
学習 課題	適宜提示する						
評価 方法	筆記試験 提出物 など						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院） 看護が見える Vol.1 基礎看護技術（メディックメディア）						

科目	日常生活援助技術Ⅱ 【清潔・衣生活援助技術】	履修 学年	1 年次 前 期	単位数	1	時間	30	
				講師名	櫻田 有紀子 小玉 美佳 杉本 史			
目標	衣生活・清潔の意義を理解し、対象者の状況に合わせた更衣援助・清潔援助を安全かつ尊厳を守って実践できる基礎的能力を養う。							
回数	単元名	授業内容				授業形式		
1	清潔・衣生活の援助	1. 清潔・衣生活援助の意義、整容の意義と尊厳保持 2. 皮膚、口腔粘膜の構造・機能				講義		
2		3. 入浴・シャワー浴の目的・効果・禁忌、安全管理、手順				講義		
3・4		4. 口腔ケアと整容の援助方法と実際				講義 1 回 演習 1 回		
5・6		5. 衣服の意義・病衣の選び方 6. 寝衣交換の実際 (和式、パジャマ式、輸液ラインが入っている場合、麻痺がある場合)				講義 1 回 演習 1 回		
7		7. 清潔援助の種類と対象者アセスメント (学習する清潔援助の種類と対象者、演習までの取り組み方、援助計画書の作成方法)				講義		
8		8. 手浴と足浴の基礎知識の援助の実際				演習 1 回		
9・10		9. 洗髪の基礎知識と援助の実際				演習 2 回		
11・12		10. 全身清拭の基礎知識と援助の実際				講義 1 回 演習 1 回		
13		11. 陰部洗浄の基礎知識と援助の実際				演習 1 回		
14・15		12. 事例に基づく援助計画の立案と実践				演習 2 回		
学習課題		適宜提示する。						
評価方法		・筆記試験 100 点 ・14・15 回目の技術確認						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学 ③ (医学書院) 看護が見える Vol.1 基礎看護技術 (メディックメディア)							

科目 目	臨床看護技術 【呼吸・循環を整える技術 創傷管理技術 救命救急処置技術】	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	1	時間	30
				講師名	袴田 圭真 山平 良子		
目 標	1. 呼吸循環を整える看護技術の基礎知識、技術を習得する。 2. 創傷発生の機序を知り、創傷管理や包帯法援助について学ぶ。 3. 緊急時の治療処置について学習し、看護師の役割を理解する。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	呼吸循環を 整える技術	1. 酸素療法 1) 援助の基礎知識 ・メカニズム・目的・適応・合併症 2) 中央配管からの方法 3) 酸素ボンベによる方法				講義	
2		2. 排痰ケア 1) 排痰ケアの基礎知識、目的、方法 2) 援助の実際 (1) 体位ドレナージ ・援助の基礎知識 ・援助の実際 (2) 咳嗽介助、ハフティング・援助の基礎知識 ・援助の実際 (3) 吸引 ・援助の基礎知識 ・援助の実際 ①口腔・鼻腔内吸引 ②気管内吸引（開放式・閉鎖式）				講義・演習	
3							
4		3. 酸素療法・吸引法の実際					
5		4. 胸腔ドレナージ 1) 援助の基礎知識 2) 援助について 5. 吸入 1) 援助の基礎知識、 2) 援助について ・ジェッドネブライザー・超音波ネブライザー				演習	
6		6. 人工呼吸療法 1) 援助の基礎知識 2) 援助について				講義	
7		7. 体温管理の技術 1) 援助の基礎知識 2) 発熱時・うつ熱（熱中症）時・低体温時の援助 8. 末梢循環促進ケア 1) 援助の基礎知識 2) 援助について ・弾性ストッキング・下肢マッサージ・用手的リンパドレナージ				講義	
8	創傷管理 技術	1. 創傷管理の基礎知識				講義	
9		2. 創傷処置 ・術後一次縫合創とドレーンの管理と創処置 ・創処置と創保護 ・テープによる皮膚障害 ・包帯法					
10							
11	救命救急 処置技術	1. 救命救急処置の基礎知識 1) 救急処置の考え方 2) 救急・急変時における初期反応 3) トリアージ				講義	
12		2. 心肺蘇生法				演習	
13		1) 心肺蘇生法の基礎知識 2) 一次救命処置（BLS）の実際 3) 二次救命処置（ACLS）について					
14		3. 院内急変時の対応				講義	
15		4. 止血法 5. 胃洗浄					
学習課題	BLS 講習 事前学習						
評価方法	筆記試験 提出物						
テキスト 参考書等	・系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体と構造と機能1 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院） ・看護が見える Vol.1 基礎看護技術（メディックメディア） ・看護が見える Vol.2 臨床看護技術（メディックメディア）						

科目	看護過程Ⅰ	履修 学年	1 年次 後 期	単位数	1	時間	30
				講師名	加藤 夏生		
目 標	1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解する。 2. 事例をもとに、問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方を学ぶ。 3. 看護過程の各段階・アセスメント・看護問題の明確化・計画立案・実施・評価を理解する。 4. 看護記録の目的・留意点について理解する。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	看護過程概論	1. 看護過程の概論 1) 看護過程とは 2) 看護過程の構成要素 3) 基盤となる思考過程 （1）問題解決過程 （2）クリティカルシンキング （3）倫理的配慮と価値判断 （4）リフレクション 2. 看護過程の各段階 1) アセスメント （1）情報収集 （2）アセスメントと枠組み ヘンダーソン：14 の基本的ニーズに基づく枠組み （3）情報収集の方法 （4）情報の分析 5) 全体像の把握 2) 看護問題の明確化 （1）実在型の看護問題 （2）リスク型の看護問題 （3）ヘルスプロモーション型看護問題 （4）共同問題と協働問題 （5）看護問題の表記方法 （6）優先順位の考え方 3) 看護計画 （1）期待される成果の明確化（看護目標） （2）看護介入計画の立案（具体的な計画） （3）クリティカルパス 4) 実施 （1）看護計画の実施と記録 5) 評価 3. 看護記録					講義・演習・ グループワーク ・個人ワーク を含む
学習 課題	夏休みの課題として「看護過程とはなにか」「ヘンダーソンが考える看護」についてレポートを提出する YouTube 看護がみえる編集部【メディックメディア】看護過程に関連する動画を視聴する						
評価 方法	課題レポート（5%程度）、課題提出・グループワークの取り組み（10%程度）、振り返りカードの提出 （5%程度）、筆記試験（80%）						
テキスト	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践（ヌーベルヒロカワ） 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント第5版（学研） 系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学①・② 看護学概論・基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 看護の基本となるもの（日本看護協会出版会） 看護がみえる Vol.4 看護過程の展開 第1版（メディックメディア）						

科目	看護過程Ⅱ	履修 学年	1 年次 後 期	単位数	1	時間	15
				講師名	加藤 夏生		
目標	事例を用いて学生ひとりひとりで看護過程が計画立案まで展開できる。						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1～8		紙上事例に対して看護理論に沿った看護過程を展開する 1. アセスメント (1) ヘンダーソン：14 の基本的ニーズに基づく枠組みを活用し 情報収集、情報の分析 個人ワークとグループワークでアセスメントを行う (2) 全体像の把握 個人ワークとグループワークで全体像をまとめる 2. 看護問題の明確化 (1) 看護問題を明らかにし、表記する (2) 優先順位の考え方 個人ワークとグループワークで看護問題を抽出する 3. 看護計画の立案 (1) 期待される成果の明確化（看護目標） (2) 看護介入計画の立案（具体的な計画） 個人ワークとグループワークで看護計画をまとめる				個人ワーク グループワーク	
学習 課題	看護過程Ⅰで学んだ考え方を活用し、事例に関連する事前学習を十分に行うこと YouTube 看護がみえる編集部【メディックメディア】看護過程に関連する動画を視聴する						
評価 方法	紙上患者の看護展開内容評価（90%）、振り返りカードの提出（10%）						
テキスト	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践（ヌーベルヒロカワ） 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント第5版（学研） 系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学①・② 看護学概論・基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 看護の基本となるもの（日本看護協会出版会） 看護がみえる Vol.4 看護過程の展開 第1版（メディックメディア）						

科目	看護研究Ⅰ 看護研究の基礎	履修	2 年次	単位数	1	時間	15
		学年	後 期	講師名	小野 麻由子		
目標	1. 看護における研究の基礎を学び、看護研究の進め方が理解できる。 2. 文献検索の意義を理解し、文献検索ができる。 3. 看護研究論文の批判的読み方ができる。						
回 数	単元	授業内容					授業形式
1	看護研究の意義	1. 研究とは 2. 看護研究の役割					講義
2	リサーチクエス ション	1. より良いリサーチクエスション 2. リサーチクエスションの実際					講義・グループワ ーク・プレゼンテ ーション10%
3	研究デザイン 倫理	1. 研究方法 2. 看護研究における倫理 3. 研究倫理の流れ					講義
4	文献検索	1. 文献検索とは 2. 文献検索の方法 3. 文献検索の実際					講義・グループワ ーク・プレゼンテ ーション10%
5	ケースレポート の書き方	1. ケースレポートとは 2. レポートの構成 3. 評価の視点 4. クリティカルシンキング					講義
6	ケースレポート の評価	1. ケースレポートの評価の実際 2. 評価の発表					グループワー ク
7	ケースレポート 評価の発表	1. プレゼンテーションの実際 2. 講評					プレゼンテー ション 20%
8	まとめ	1. 知識の確認と振り返り					試験
学習 課題	レポートの書き方を復習しておく						
評価 方法	グループワーク後のプレゼンテーション 40% 筆記試験 60%						
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究（医学書院）						

科目	看護研究Ⅱ	履修 学年	3 年次 後 期	単位数 講師名	1 中村 陽子	時間	15	
目標	1. 文献検索を通し、自己の研究テーマを導き出すことができる。 2. 研究テーマに基づいた研究計画書を作成することができる。							
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式		
1	リサーチクエス ション	1) これまでの看護体験を通し、個々の研究課題について考える。				講義		
2	文献検索	1) 文献検索の方法について				個人ワーク		
3		2) 自己の研究課題に関連した論文を検索する。(2 文献)						
4	文献カードの 作成	1) 書式に基づき、論文の要旨をカードにまとめる。				講義 個人ワーク		
5		①目的 ②方法 ③結果 ④結論 他						
6	研究テーマの 決定 研究計画書の 作成	1) 研究のテーマを決定する。						
7		2) 書式に基づき、研究計画書を作成する。						
8		3) 研究計画書について ①研究テーマ ②研究の動機 ③研究の目的・意義 ④研究の背景 ⑤研究の概要 ⑥引用・参考文献						
学習 課題	・ 検索した論文を文献カードにまとめる ・ 研究テーマに基づき、研究計画書を作成する							
評価 方法	評価の視点に基づき文献カードと研究計画書を評価する。(研究テーマとの関連性を重視する)							
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究 (医学書院)							

地 域 ・ 在 宅 看 護 論

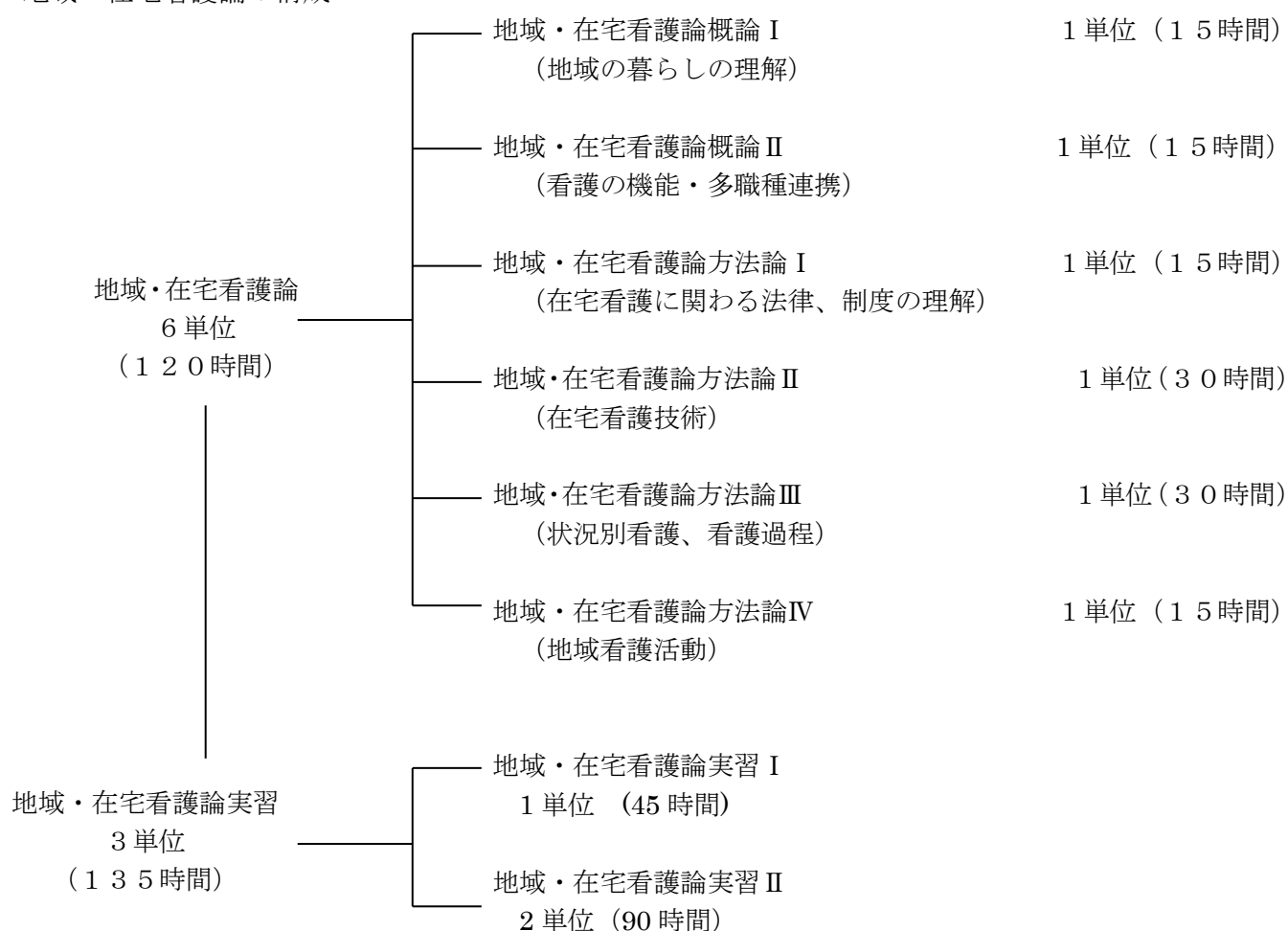
目 的

地域で暮らす人々と、多様な場で療養する対象者や家族、あるいは障害をもちながら生活する人々とその家族を理解し、看護の役割と専門性、多職種連携及び協働のあり方の基礎的な能力を養う。

目 標

- 1 個人・家族を対象とした健康な暮らしを支援するために、生活の基盤である地域を理解する。
- 2 人々の「健康な暮らし」を支えるために地域に存在する社会資源「公助・共助」や「自助・互助」を理解する。
- 3 地域・在宅看護論が必要とされる背景を理解する。
- 4 看護の役割と専門性、多職種連携及び協働について理解する。
- 5 在宅看護活動の場を知り、場による看護内容や特徴を理解する。
- 6 訪問時の基本技術を学ぶ。
- 7 在宅看護における日常生活援助技術を理解する。
- 8 医療依存度の高い療養者と家族への援助を理解する。
- 9 在宅療養者の症状・状態別の状況を理解した看護を学ぶ。
- 10 地域のヘルスニーズに応じた看護活動を理解する。

地域・在宅看護論の構成



科目 目	地域・在宅看護論概論Ⅰ 【地域の暮らしの理解】	履修 学年	1 年次 前 期	単位数	1	時間	15
				講師名	杉本 史 他		
目 標	個人・家族を対象とした健康な暮らしを支援するために、生活の基盤である地域を理解する						
回 数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	人々の暮らしの 理解	1. 地域・在宅看護論の捉え方 2. 人々の暮らしを理解する 1) 働くこと、学ぶことと暮らし				講義・演習・ グループワー クを含む	
2		2) 高齢者のいる暮らし 3) 出産・育児と暮らし 4) 暮らしからみえてくること					
3	暮らしを理解す る	1. 暮らしとは 2. 暮らしの健康の関係					
4		1. 自分の暮らしを見つめよう					
5	地域の理解	1. 暮らしと地域 2. 暮らしと地域を理解するために 1) システム理論 2) システム思考					
6	地域包括ケアシ ステム	1. 地域に存在する社会資源とその役割について 1) 地域包括ケアシステム 2) 地域包括ケアシステム構成要素 3) 自助・互助・共助・公助の意義と役割					
7	地域・在宅看護 の対象	1. 地域・在宅看護の対象 1) 地域による多様性 2) ライフステージによる多様性 3) 健康レベルの多様性					
8		認知症サポーター養成講座					
学習 課題							
評価 方法	筆記試験 100 点						
テキスト 参考書等	系統看護学講座専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤（医学書院）						

科目 目	地域・在宅看護論概論Ⅱ 【在宅看護の機能・多職種連携】	履修 学年	1 年次 後 期	単位数	1	時間	15
				講師名	渡邊 正樹		
目 標	地域・在宅看護論が必要とされる背景の理解を深める 看護の機能・多職種連携及び協働について理解する						
回 数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1	地域・在宅看護 に関わる現状	1. 社会の変化と在宅看護の変遷 1) 我が国の現状と在宅看護の必要性 2) 在宅看護の機能と役割					講義・演習・ グループワー クを含む
2	地域・在宅看護 の特徴	1. 在宅療養の利点と限界 2. 在宅看護の利点と限界 3. 医療施設内看護と在宅看護の機能の相違					
3	看護の継続性	1. 退院支援における看護者の役割					
4	看護倫理	1) 退院計画（退院支援・退院調整） 2) 継続看護 3) 多職種連携及び協働 4) 地域連携クリティカルパス 5) 在宅における看護倫理					グループワー ク・発表
5	病気を抱える在	1. 家族の機能と理論					
6	宅療養者	2. 安全な療養環境と生活支援（食・排泄・清潔・移動）					
7		1) 事例によるグループワーク					
8		2) 事例にとるグループワークの発表とまとめ					
学習 課題	在宅看護の特徴および在宅の場における多職種連携について考えることができる。						
評価 方法	筆記試験 100 点						
テキスト 参考書等	系統看護学講座専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤（医学書院）						

科目	地域・在宅看護論 方法論Ⅰ	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	1	時間	15
	【在宅看護に関わる法律、制度の理解】			講師名	渡邊 正樹		
目標	1. 在宅看護に関わる法律を理解する。 2. 訪問看護制度を理解できる。 3. 社会資源の活用方法と看護職の役割を理解できる。						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1 2 3 4 5 6 7 8	介護保険法 在宅看護に関わる法規 難病対策 ケアマネジメント 住環境のアセスメント方法と援助方法 訪問看護システム	1. 介護保険制度の成立 1) 介護保険制度創設に至る経緯 2) 介護保険制度創設の基本理念 3) 介護保険法の概要 4) 給付の種類と内容 2. 施行後の評価と改定内容 1) これまでの制度改正 2) 地域包括ケアシステム 1. 在宅看護に関わる法規 1) 在宅看護に関連する法律 2) 地域包括支援センターの機能 3) 成年後見制度と地域福祉権利擁護事業 （日常生活自立支援事業） 1. 難病のある療養者 1) 難病とは 2) 難病対策 1. ケアマネジメントと看護職の役割 2. チームアプローチの意義と方法、ケアプラン作成 1. 住環境のアセスメントと援助 1) 在宅療養生活を継続させるために… 2) 福祉用具の選択と活用、住宅改修 1. 訪問看護活動の形態 1) 行政（市町村や保健所） 2) 医療機関（病院や診療所） 3) 訪問看護ステーション 2. 介護保険による訪問と医療保険による訪問				講義・演習・グループワークを含む	
学習課題		在宅看護論に関する法制度について考えることができる。					
評価方法		筆記試験 100 点					
テキスト 参考書等		系統看護学講座専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤（医学書院） 系統看護学講座専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の実践（医学書院）					

科目	地域・在宅看護論 方法論Ⅱ 【在宅看護技術】	履修	2 年次	単位数	1	時間	30
		学年	前 期	講師名	杉本 史	村越 正道	
目標	1. 在宅看護における日常生活援助技術を理解できる。 2. 医療依存度の高い療養者と家族への援助を理解できる。						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	療養者の日常生活援助	1. 栄養状態のアセスメントと援助 1) 療養者への食事の援助 2) 家族への援助				講義・演習・グループワークを含む	
2		1. 清潔のアセスメントと援助方法 1) 身体の清潔の工夫 2) 頭髮、その他の清潔の工夫					
3		3) 清潔援助の実際				家庭にある物	
4		(1) 日常生活介助 (2) 手作りのケリーパッドを使用した洗髪				品を使用した清潔方法演習	
5	医療依存度高い療養者と家族への援助	1. 在宅経管栄養法（経鼻・胃瘻） 1) 在宅経管栄養とは 2) 経管栄養の種類と適応 3) 経管栄養の管理と留意点 4) 経管栄養の合併症とその対応 5) 必要となる援助と指導内容、生活の工夫				講義	
6		1. 在宅中心静脈栄養法				講義	
7		1) 在宅中心静脈栄養の種類と適応 2) 在宅中心静脈栄養に用いられる機材と管理方法 3) 在宅中心静脈栄養の合併症とその対応 4) 必要となる援助と指導内容					
8		1. 在宅膀胱留置カテーテルと導尿 1) 膀胱留置カテーテルと導尿の適応条件 2) 管理方法とケア 3) 起こりやすい合併症とその対応 4) 生活の工夫				講義	

科目	地域・在宅看護論 方法論Ⅲ 【状況別看護、看護過程】	履修 学年	2 年次 後 期	単位数	1	時間	30
				講師名	杉本 史 高松 絵里子		
目標	在宅療養者の症状・状態別の状況を理解した看護を学ぶ。 在宅の看護過程の特徴、必要な書類について学ぶ						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1 2	在宅疼痛管理	1. 在宅疼痛管理を必要とする療養者 1) 痛みのコントロール目標 2) WHO がん疼痛治療法の基本原則 3) 疼痛管理の実際 4) 療養者への援助 5) 介護者への援助				講義・演習・ グループワー クを含む	
3	ターミナルケア	1. ターミナルケア期の療養者 1) 在宅ターミナルケアの条件 2) 在宅ターミナルケアの流れと各期における看護者の役割 3) 予期的悲嘆への援助 4) グリーフケア					
4	小児看護	1. 小児訪問看護の特徴 1) 医療的ケア児を取り巻く状況 2) 小児在宅医療の対象者と訪問看護の役割 3) 小児在宅看護の今後の課題					
5	感染予防	1. 感染に対するアセスメント方法と援助 1) 療養者へのアセスメント 2) 医療依存度の高い療養者の感染予防対策					
6	リスクマネジメント	1. リスクマネジメント～生活の中で必要となる安全管理～ 1) 医療事故 2) 情報に関わる事故 3) 移動に関わる事故 4) 盗難・紛失・破損 5) 事故発生の防止と発生した際の対応					

7	災害時の看護	1. 災害時の対応 1) 災害サイクルに応じた対策の実際と在宅看護の役割 2) 疾患別災害対策マニュアル 3) 緊急時申し送りカード	
8	訪問時の基本技術	1. 訪問の基本と実際 1) 訪問の準備 2) 訪問時 3) 訪問後	
9	在宅看護過程	1. 在宅での看護過程の特徴 1) 情報収集とアセスメント 2) 看護問題の明確化 3) 目標設定のポイント 4) 計画立案 5) 実施と評価	講義、個人ワーク
10		2. グループ毎に計画立案、発表	グループワーク
11		1) ロールプレイの実施に向けてプラン、シナリオ作成	
12		2) グループ毎に発表	
13		3) 発表後の修正、追加	
14		1. 訪問看護に関わる書類内容、記入方法	
15		2. 記録の実践（ロールプレイで使った場面を記録に反映させる）	
学習課題	WHO 除痛ラダー、		
評価方法	筆記試験 個人ワーク、グループワークの課題評価点 15 点分含む		
テキスト 参考書等	系統看護学講座専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤（医学書院） 系統看護学講座専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の実践（医学書院）		

科目	地域・在宅看護論 【地域看護活動】	方法論Ⅳ	履修 学年	3 年次 前 期	単位数	1	時間	15
					講師名	杉本 史		
目 標	地域のヘルスニーズに応じた看護活動を理解し、プラン作成・実施する							
回 数	単 元 名	授 業 内 容						授業形式
1	健康の保持増進・疾病予防の理解	1. 地域の保持増進・疾病予防の概念 1) 保健指導、予防プラン 2) 計画書作成						講義 ・演習・グループワークを含む
2	ヘルスニーズに応じた看護活動	1. 実習グループ毎に各ライフステージに応じたヘルスニーズに応じた看護活動						
3		1) プラン、シナリオ、資料作成						
4		2) 指導の実施						
5		3) 発表に向け、準備、練習						
6	発表	1. 発表						
7		1) グループ毎に保健指導、予防プランを発表 2) 意見交換 3) 指導後の評価						
8		1. 指導後の評価表の作成						
学習課題								
評価方法	演習の参加状況、計画書・評価表の提出で評価する							
テキスト 参考書等	系統看護学講座専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 (医学書院) 系統看護学講座専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の実践 (医学書院)							

成人看護学

目的

成人期にある人の健康保持増進および健康障害における健康上の諸問題を総合的に把握し、看護実践できる基礎的能力を養う。

目標

- 1 成人期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。
- 2 成人期の健康上の課題を明らかにし、セルフケア能力を高めるための援助方法が理解できる。
- 3 成人期の生活過程を理解し、疾病予防のための援助方法が理解できる。
- 4 健康上の諸問題をもつ患者および家族に対して、疾病の経過に応じた援助方法が理解できる。
- 5 各健康段階にある対象の健康上の問題を把握し、対象に合わせた基本的な看護が実践できる。
- 6 看護をととして、保健・医療チームメンバーの連携の必要性和役割が理解できる。
- 7 成人期にある対象との関わりをととして、看護に対する考えを深めることができる。

成人看護学の構成



科目	成人看護学概論	履修 学年	1 年次 後 期	単位数	1	時間	15
				講師名	中村 陽子		
目標	1. 成人期の特徴と発達課題について理解できる。 2. 成人を取り巻く環境とチーム医療、保健・医療・福祉政策について理解できる 3. 成人期における健康問題と看護の役割について理解できる						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1 回	成人期にある 人の理解	1. 成人の定義 2. ライフサイクルから見た成人期の位置づけ 3. 発達課題				講義・演習 グループ ワークを含む	
2 回 3 回	成人各期の特 徴と健康問題	1. 成人各期の特徴と健康問題 G・W 1) 青年期 2) 壮年期 3) 向老期 〃 G 発表					
4 回	成人の健康の 動向	1. 成人保健の動向（保健・医療・福祉政策） 1) 人口構成の変化 2) 生産年齢人口 労働力人口 3) 平均余命（平均寿命） 4) 死亡の動向 5) 有訴者率／通院者率／受療率					
5 回	労働者の健康 対策	1. 労働災害と業務状疾病 2. 労働基準法 3. メンタルヘルス対策					
6 回	患者・家族の 意思決定支援	1. 患者の権利（アドボカシー） 2. インフォームド・コンセント 3. 意思決定支援 4. 看護に求められる倫理（看護者の倫理綱領）					
7 回	健康の危機 状況への適応	1. ストレスコーピング 1) ストレッサーとストレス反応 2) ストレスとコーピング 2. 危機理論 1) 危機とは何か 2) 危機モデル					
8 回	成人に対する 健康学習支援 （健康行動へ の行動変容）	1. 自己効力感 2. アンドラゴジー 3. エンパワメント（エンパワメントアプローチ）					
学習 課題	全講義を通して、成人の生活と健康問題について考えることができる。						
評価 方法	グループワークへの参加や発表の参加態度も評価対象とする						
テキスト 参考書	テキスト：新体系 看護学全書 成人看護学① 成人看護学概論／成人保健 メヂカルフレンド社 参考文献：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会						

科目	成人看護学方法論Ⅰ 【急性期・周手術期・クリティカルケア】	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	1	時間	30
				講師名	加藤 夏生 佐藤 博昭 五十嵐 元子 金田 悦子 菊池 弦		
目標	1. 急性期・周手術期にある人の身体的・心理的・社会的反応を理解し学ぶことができる。 2. 急性期・周手術期にある人の回復に向けた看護実践の基本を学ぶことができる。						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1 回 2 回	急性期看護 概論	1. 急性期にある患者の看護 1) 急性期にある患者の特徴と看護 (1) 急性期とは (2) 心身の特徴 (3) 治療の特徴と患者への影響 (4) 急性期にある患者の看護とその根拠				講義・演習・グループワークを含む	
3 回 4 回	クリティカル ケア	2. クリティカルケアを必要とする患者の看護 1) クリティカルケアの概念と看護の概要 2) 看護の実際 ・救急時の看護 ・ショックとその対応 ・心理的危機への対応 ・家族への看護 ・集中治療室の看護				<クリティカルケア> 佐藤：2 回	
5 回 6 回 7 回 8 回	周手術期看護	3. 周手術期の看護 1) 周手術期看護の特徴 2) 麻酔の基礎知識と身体への影響 3) 手術侵襲による生体反応と回復過程 4) 周手術期の看護の実際 (1) 手術前の看護 ・最善の状態です手術に臨むための援助 (2) 手術中の看護 ・手術室看護師の役割と看護の特徴 (3) 手術後の看護 ・術後合併症の予防・対処 ・回復への援助				<周手術期> ・術前／術後 金田：2 回 ・手術室看護 菊池：2 回	
9 回 10 回 11 回 12 回 13 回 14 回 15 回	手術を受ける 患者の看護	4. 手術を受ける患者の看護 1) 開腹術 (1) 胃切除術を受ける患者の看護 (2) ストーマ造設・大腸切除術を受ける患者の看護 (3) ストーマ（人工肛門）を造設した患者のケア 2) 開胸術 (1) 肺切除術を受ける患者の看護 (2) 呼吸理学療法 (3) 心臓手術を受ける患者の看護 3) 乳房切除術を受ける患者の看護				<胃がん・大腸がん> 加藤：2 回 <ストーマ> 五十嵐：2 回 <開胸術> 佐藤：2 回 <乳がん> 金田：1 回	
学習 課題	夏休みの課題として胃がん・大腸がん・乳がんについての解剖生理・病態生理・検査・治療・看護を事前学習として調べる。						
評価 方法	筆記試験 ※夏休みの課題内容を評価の一部とする。						
テキスト	新体系 看護学全書 成人看護学① 成人看護学概論／成人保健 メディカルフレンド社 系統看護学 別巻 臨床外科看護学総論 臨床外科看護学各論（医学書院） 成人看護実習ガイドⅠ（照林社）						

科目 目	成人看護学方法論Ⅱ【回復期】	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	1	時間	30	
				講師名	加藤 夏生			
目 標	1. 回復期にある人の身体的・心理的・社会的反応を理解し、回復に向けた看護実践の基本を学ぶことができる。 2. 回復期の看護技術としてセルフケア能力を高め、その人らしく生活を送るための基礎知識や技術・援助を学ぶことができる。							
回 数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式	
1 回 2 回	回復期看護 概論	1. 回復期にある患者の看護 1) 回復期にある患者の特徴と看護 (1) 回復期とは (2) リハビリテーションの理解 (3) 治療の特徴と患者への影響 (4) 将来の生活修正の特徴					講義・演習・ グループワー クを含む	
3 回 4 回 5 回 6 回 7 回 8 回	回復期看護	2) 回復期看護の実践 (1) 患者の ADL 評価とセルフケア確立への援助 (2) 障がいによる身体喪失感、心理的反応へのアプローチ (3) 退院後の生活に向けた援助 ・学習支援の技術 ・学習支援の対象者と看護の役割						
9 回 10 回 11 回 12 回		3) 患者の回復を促す看護 (1) 術後合併症の予防と対処						
13 回 14 回 15 回		2. 機能障害に応じた看護 (1) 紙面上の事例を用いて看護を検討する						
学習 課題								
評価 方法		課題提出・グループワークの取り組み（10％程度）、筆記試験（90％程度）						
テキスト	新体系 看護学全書 成人看護学① 成人看護学概論／成人保健 メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 別巻 リハビリテーション看護 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学総論 臨床外科看護学各論（医学書院） 成人看護実習ガイドⅠ（照林社）							

科目	成人看護学方法論Ⅲ【慢性期】	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	1	時間	30
				講師名	中村 陽子 岩庭 遥香 田中 多喜子 松山 まき子		
目標	1. 慢性期の概念について理解する 2. 慢性的な経過をたどる健康障害をもたらす疾患およびその特徴を理解する 3. 慢性疾患を有する人の特徴を学び看護支援の方法を理解する						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1 回	慢性期にある 人と家族の 理解	1. 病いのクロニシティ（慢性性）とは何か 2. 慢性期にある人の特徴 セルフケア／セルフマネジメント				講義・演習・グループワークを含む	
2 回	慢性疾患を有 する人・家族 への看護	1. 呼吸機能障害（慢性閉塞性肺疾患）の病態・治療・看護				教員 1 回	
3 回		2. 栄養・代謝障害の看護					
4 回		1) 2 型糖尿病の ①病態・治療・看護・フットケア				外部講師 4 回	
5 回		2) インスリン自己注射と自己血糖測定				（講義・演習）	
6・7 回		3) 肝硬変の病態・治療・看護				教員 2 回	
8・9 10 回	がん治療の 特徴と看護	1. 内部環境調節障害をもつ人への看護				外部講師 3 回	
		1) 慢性腎不全の病態・治療・看護					
		2) 血液透析を受ける人への看護					
11 回		1. がんの特徴とその治療				教員 2 回	
12 回		2. 肝臓がんの病態・治療・看護					
13 回	がんの治療を 受ける対象者 への看護	1. 化学療法				外部講師 2 回	
14 回		1) 化学療法の目的と特徴					
		2) 化学療法副作用(有害反応)					
		3) 化学療法を受ける対象者への看護援助					
		・治療前の看護援助 ・薬剤投与中の看護援助 ・薬剤投与後の看護援助					
15 回		2. 放射線治療と看護				教員 2 回	
		1) 放射線療法の目的と特徴					
		2) 放射線被爆からの防護					
		3) 放射線照射時の看護援助					
		4) 放射線照射後の看護援助					
		・急性有害反応と予防と対処 ・晩期有害反応への援助					
学習 課題							
評価 方法	筆記試験						
テキスト 参考書	新体系看護学全書 経過別成人看護③ 慢性期看護（メヂカルフレンド社） 新体系看護学全書 成人看護学② 呼吸器（メヂカルフレンド社） 新体系看護学全書 成人看護学⑤ 消化器（メヂカルフレンド社） 新体系看護学全書 成人看護学⑦ 腎・泌尿器（メヂカルフレンド社） 新体系看護学全書 成人看護学⑧ 内分泌／栄養／代謝（メヂカルフレンド社） 系統看護学講座 専門分野分野 臨床看護総論 基礎看護学 4（医学書院）						

科目	成人看護学方法論Ⅳ【終末期】	履修 学年	2 年次 後 期	単位数	1	時間	30
				講師名	中村 陽子 袴田 俊英	伊藤 希海	
目標	1. 全人的苦痛について理解し、終末期にある患者の特徴を学ぶことができる。 2. 終末期における緩和ケアの方法について理解・実践できる。						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1 回	終末期の理解	1. 緩和ケアとは 2. 終末期にある患者・家族の理解 3. 終末期医療に関連する法律・制度				講義・演習・ グループワー クを含む	
2・3 回	全人的苦痛の 緩和	1. 身体的苦痛の緩和 1) 疼痛コントロール 2) 症状コントロール (呼吸困難・倦怠感・食欲不振・イレウス・浮腫)					
4・5 回	終末期にある 人の日常生活 援助	1. 終末期にある人の日常生活援助の方法 2. 清潔ケア／睡眠・休息／排泄／ 活動・移動					
6 回	患者の権利 意思決定支援	1. 悪い知らせを伝える際のコミュニケーション 2. インフォームドコンセント 3. アドバンスケアプランニング／代理意思決定支援				4 回： 個人ワーク 5 回： グループワーク	
7 回	終末期におけ る倫理的課題	1. 終末期医療における倫理的課題 2. 安楽死・脳死について				課題レポート	
8・9 回	臨死期および 死亡時の看護	1. 臨死期の看護 2. 鎮静 2. 死亡直前期（臨終前後の看護） 3. ビリーブメントケア 4. 死亡時の看護（死後の処置）				グループワーク	
10 回	終末期患者と のコミュニケ ーション	1. 終末期患者とのコミュニケーションのありかた 2. 事例を分析（プロセスレコード）					
11・12 回	終末期患者へ の身体的ケア	日常生活援助技術の実践（ロールプレイ）と振り返り					
13 回	宗教から見た 生と死	宗教的立場から見た「生と死」				外部講師	
14 回	緩和ケアチー ムの活動	緩和ケアチームの活動の実際					
15 回						外部講師	
学習 課題							
評価 方法	筆記試験						
テキスト	・新体系看護学全書 経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア （メヂカルフレンド社） ・絵で見るターミナルケア 人生の最期を生き抜く人へのかぎりない援助（学研）						

科目	成人看護学方法論Ⅴ 看護過程	履修 学年	2 年次 後 期	単位数	1	時間	15
				講師名	加藤 夏生		
目標	1. 成人期の発達段階を捉え、健康レベル（周手術期・回復期）に応じた看護過程を展開することができる。 2. 成人期にある対象の健康上の問題について理解することができる。						
回数	単 元 名	授 業 内 容			授業形式		
1～8	周手術期・回復期にある対象の看護過程の展開	胃がん患者の事例を用い、周手術期・回復期の看護過程を展開する			講義・演習・グループワークを含む 個人演習とグループワーク		
学習課題	成人看護学方法論Ⅰ授業内容を含め看護展開を行う。また、夏休みの課題とした胃がんの解剖生理・病態生理・検査・治療・看護を事前学習として十分に活用し看護展開を行う。						
評価方法	紙上患者の看護展開内容評価（90%）、振り返りカードの提出（10%）						
テキスト	新体系 看護学全書 成人看護学① 成人看護学概論／成人保健 メヂカルフレンド社 系統看護学 別巻 臨床外科看護学総論 臨床外科看護学各論（医学書院） 成人看護実習ガイドⅠ（照林社）						

老 年 看 護 学

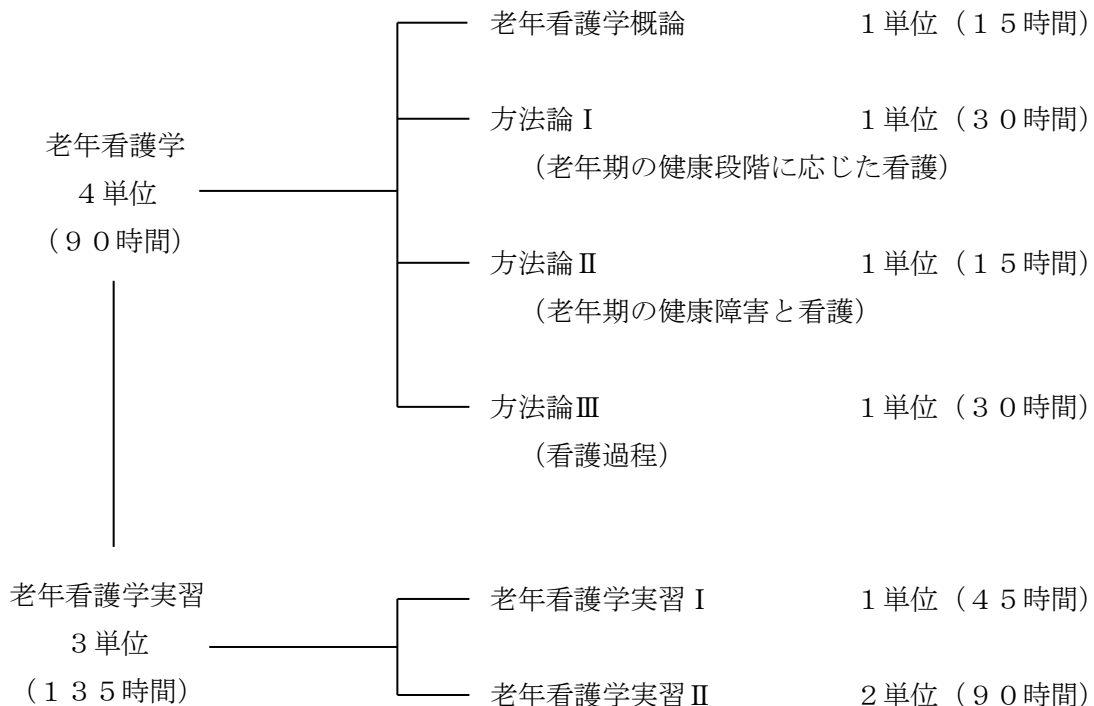
目 的

老年期にある対象を総合的に理解し、健康レベルや状況下に応じた看護が実践できる。

目 標

- 1 老年看護の役割と機能を理解できる。
- 2 老年期にある対象の身体的、精神的、社会的変化、発達課題をふまえ、高齢者を総合的に理解できる。
- 3 社会構造の変化や高齢者の保健医療福祉の場における課題を理解し、高齢者の生活を支える社会システムが理解できる。
- 4 老年期にある対象の加齢に伴う変化や機能障害を理解し、日常生活援助に必要な基本的知識と技術を習得する。
- 5 老年期に特有な疾患を理解し、健康障害をもつ高齢者とその家族、高齢者を支える人々への看護の基礎的知識・技術・態度を習得する。
- 6 老年期にある対象を尊重する態度を身につけ、自己の老年観を養うことができる。

老年看護学の構成



科目	老年看護学概論	履修 学年	1 年次 後 期	単位数	1	時間	15
				講師名	鍋谷 久美子		
目 標	1. 老年期にある対象の特徴と多様性が理解できる。 2. 高齢者の生活を支える社会システムおよび社会構造の変化や保健医療福祉の課題を理解できる。 3. 老年期の対象理解を深め、老年看護の役割について理解できる。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	老年期とは	1. ライフサイクルにおける老年期 2) 老年期の定義 3) 老年期の発達課題				講義・演習・ グループワー クを含む	
2	老いを生きるこ との意味	2. 老いとは 1) 老いの意味 2) 老年期における理論					
3	高齢者の特徴	3. 加齢と健康					
4	高齢者疑似体験	4. 老性変化と病的変化 1) 加齢に伴う身体的変化 2) 加齢に伴う精神的・社会的側面 3) 発達課題と多様性 4) 身体的機能変化の特徴と日常生活への影響 (1) フレイル (2) サルコペニア (3) ロコモティブシンドローム					
5.	高齢者の健康と 暮らし	5. 高齢者の健康状態と受療状況					
6.	高齢者と社会①	6. 高齢者を取り巻く社会（社会システム） (1) 就労・雇用、経済性 (2) 家庭での役割変化 (3) 生きがい、生活の満足度					
7.	高齢者と社会②	7. 高齢者の権利擁護 (1) スティグマ (2) エイジズム (3) 権利擁護 (4) 高齢者虐待 (5) 権利擁護のための制度、自立支援事業 (5) 高齢社会における保健医療福祉の動向					
8.	老年看護の役割	8. 老年看護の目標と原則 9. 老年看護と倫理的課題					
学習 課題	グループワーク（高齢者疑似体験）、高齢者との交流（レポート提出）						
評価 方法	筆記試験・レポート評価						
テキスト	老年看護学概論（南江堂）						

科目 目	老年看護学方法論Ⅰ 【老年期の健康の段階に応じた看護】	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	1	時間	30
				講師名	鍋谷 久美子 五十嵐 元子		
目 標	加齢に伴う変化や健康課題をふまえ、高齢者の QOL を理解し、高齢者の生活機能の保持増進への援助、必要な日常生活援助について理解できる。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1.	老年看護に活用 できる理論・概 念	1. 老年看護における健康の概念 1) セルフケア 2) ウェルネスアプローチ 3) コンフォート				講義	
		2. ライフストーリーの意義				講義	
		3. レジリエンス 4. ストレングス 5. エンパワメント					
2.	老年看護の対象 理解 ①	高齢者の理解とアセスメントの視点				講義	
		1. 対象の特徴					
		2. 加齢変化とフィジカルアセスメント				講義	
		3. 高齢者の機能評価と指標					
3.	老年看護の対象 理解 ②	高齢者の各健康段階に応じた看護				講義	
		外来看護、急性期～慢性期（終末期）					
						講義・演習	
4.	高齢者に特徴的 な症状と看護	高齢者の生活機能障害（老年症候群を含む）と看護					
5.							
6.		1) 活動（起立・歩行）障害					
7.		2) 転倒、骨折					
8.		3) 感覚器障害とコミュニケーション能力排泄障害					
9.		4) 摂食・嚥下障害					
10.		5) 脱水・栄養障害					
11.		6) 皮膚掻痒感				7) 講義・グル	
12.		7) 褥瘡・スキンテア				ープ演習	
13.		8) 排泄障害（尿失禁、便秘 等）					
14.		9) 睡眠障害（不眠）、うつ・せん妄					
15.		10) 廃用症候群（生活不活発病）					
学習 課題	加齢変化に伴う健康障害に対して、高齢者が健やかに生きるために必要な支援を理解できるように事前学習、課題学習を行いましょう。						
評価 方法	終講試験・レポート評価						
テキスト	老年看護学概論（南江堂）						
参考書等	老年看護学技術（南江堂）						

科目	老年看護学 方法論Ⅱ	履修	2 年次	単位数	1	時間	15
	【老年期の健康障害と看護】	学年	前 期	講師名	渡邊 正樹 船越 広大		
目標	1. 高齢者に特有な疾患や特徴的な健康障害をもつ高齢者とその家族の看護を理解できる。 2. 治療を受ける高齢者の看護を理解する。 3. 高齢者のリスクマネジメントが理解できる						
回数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1. 2. 3. 4. 5. 6.	高齢者に特有な疾患と看護	1. 主な疾患と看護 1. 心不全 高齢者の心不全と病態・症状・成り行きとその看護 2. 大腿骨近位部骨折 大腿骨近位部骨折の病態・症状 保存療法と手術を受ける高齢者の看護 3. 脳卒中 4. 認知症 認知症の症状と生活機能評価 認知症高齢者の看護 5. パーキンソン病 パーキンソン病の病態・症状 治療と日常生活への影響とその看護 6. 前立腺肥大症 前立腺肥大症の病態及び症状 治療時の看護 7. 感染症 高齢者の感染症の背景と特徴とアセスメント 感染症ケア					講義・演習・グループワークを含む CT, MRI、腰椎穿刺時の看護 尿検査、生検時の看護含む
7.	薬物療法と看護	1. 薬物療法を受ける高齢者の看護 1) 加齢に伴う薬物動態の変化 2) 服薬管理とリスクマネジメント 3) 薬物療法時の看護の要点					
8.	リスクマネジメント	1. 高齢者のリスクマネジメント					
学習課題	事前学習（各疾患の学習に必要な解剖生理・看護等）						
評価方法	筆記試験						
テキスト 参考書等	老年看護学技術（南江堂）						

科目	老年看護学方法論Ⅲ【看護過程】		履修 学年	2 年次 後 期	単位数	1	時間	30
					講師名	渡邊 正樹		
目 標	1. 高齢者の事例を通して、健康障害を持った対象の健康上の問題や達成可能な課題を抽出し、問題解決・課題達成に向けた看護が実践できるための看護計画立案することができる 2. 生活機能や生きがいや強みに着目した看護を理科できる							
回 数	単 元 名	授 業 内 容						授業形式
1 2 3 4 5 ～ 13 14・15	老年看護における看護過程の展開	1. 老年看護における看護過程展開の視点 1) 高齢者の包括的アセスメントとアセスメント指標の活用 2) 発達段階の特徴、強み因子の活用 3) 疾患の特徴と治療経過や予後、看護の理解 4) 発達理論、セルフケア理論、障害受容の活用 5) 情報収集の視点 6) 問題解決型思考と目標思考型思考 7) 関連図の作成・検討 8) QOL を高める看護や活動意欲を高める老年期の看護展開 9) 家族支援とソーシャルサポート 2. 紙上事例に対して看護過程を立案する 1) ヘンダーソンのアセスメントツールに基づき、加齢変化や概念を活用し、情報収集、情報の分析を行う 2) 1b でのアセスメント内容を活かし、事例の全体像を把握 3) 看護問題や目指す課題の抽出と表記、優先順位の根拠 4) 実現可能な目標に対する具体的な看護計画の立案と評価基準 3. 事例展開の検討（グループワーク） 1) 事例の看護計画と実践場面を計画し発表する。 2) 発表、質疑・応答により、より看護を具体的なものとする。						*事前課題： ヘンダーソンの項目の加齢変化や概念を学習しておく） 講義 個人ワーク グループワーク グループワーク 個々の看護過程資料を持ち寄る 発表資料作成 ロールプレイ
学習 課題	既習学習を活用し、老年看護学実習Ⅱの実習記録用紙を用いて、必要な看護実践ができるように主体的に学習しましょう。							
評価 方法	終講試験、看護過程評価およびグループワーク評価							
テキスト 参考書等	老年看護学概論（南江堂） 老年看護学技術（南江堂） *個人PC 使用							

小 児 看 護 学

目 的

子どもは次代を担い、そして常に成長・発達し続け、取り巻く社会環境によって育まれる存在である。そのためより良い環境を整え、健やかな成長発達を支援するために、現代の社会状況や家族が抱える課題を理解し、あらゆる健康レベルにおける子どもとその家族への支援ができる基礎的能力（知識・技術・態度）を養う。

目 標

1. 子どもの健康問題や子どもを取り巻く地域・社会・医療の現状を理解し、小児看護の課題を理解する。
2. 子どもの権利を擁護する小児看護の在り方について学ぶ。
3. 子どもの健康な成長・発達を理解し、その成長発達を促す看護支援を習得する。
4. 小児期に特有な疾患とその症状、検査・治療、健康問題とその看護について理解する。
5. 小児看護の対象を理解し、成長・発達、健康レベルに応じた看護ができる基礎的能力を養う。

小児看護学の構成



科目	小児看護学概論	履修 学年	1 年次 後 期	単位数	1	時間	15
				講師名	小玉 美佳		
目標	1. 小児看護の理念、歴史と意義、子どもの権利を擁護する小児看護の在り方について学ぶ。 2. 子どもと家族を取り巻く地域・社会・医療の現状を理解する。 3. 小児看護で用いられる理論、法制度や子どもの成長発達について学ぶ。 4. 小児看護の目標と役割を理解できる。						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	小児看護の特徴	1. 小児看護の特徴 小児看護の対象とその特徴 小児医療・看護の変遷と課題 小児看護の目標と役割				講義	
2	小児看護の理念	2. 子どもの権利 小児医療・看護における倫理的配慮				講義	
3～6	子どもの成長・発達	3. 子どもの成長・発達の特徴 (新生児・乳児・幼児・学童・思春期) 発達課題と発達理論 子どもの遊び、学習、栄養 形態的成長と機能的発達の評価方法				講義	
7	子どもと家族への看護	4. 子どもと家族 家族の役割と家族アセスメント 地域の子育て支援環境の特徴と課題 (グループワーク)				講義 グループワーク	
8	子どもを守る法律と制度	5. 子どもと家族を取り巻く法律と施策 児童福祉、母子保健、医療費の支援、予防接種、学校保健 特別支援教育、児童虐待の防止、臓器移植法				講義	
学習課題	講義出席前にテキストの該当頁を予習して講義に臨む。						
評価方法	筆記試験（100 点）にて評価する。						
テキスト参考書	ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学①（メディカ出版）						

科目	小児看護学方法論Ⅰ	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	1	時間	30
	【小児期における健康障害の理解】			講師名	石川 孝成	近野 勇樹	
目標	1. 小児期に多い疾患および小児各期特有の病態、診断、治療、予後について理解する。 2. 健康障害が子どもの生活に及ぼす影響について理解し、健康増進、健康回復のための看護について考案できる。						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1～8	免疫・アレルギー・ リウマチ性疾患 呼吸器疾患 消化器疾患 血液・造血器疾患 悪性新生物 腎・泌尿器および 生殖器疾患 運動器、神経疾患 皮膚、眼、耳鼻咽喉 疾患 精神、事故・外傷、 子どもの虐待	1. 免疫疾患 ・ アレルギー性疾患 ・ リウマチ性疾患 2. 呼吸器疾患 3. 消化器疾患 4. 血液・造血器疾患 5. 悪性新生物 6. 腎・泌尿器および生殖器疾患 7. 運動器、神経疾患 8. 皮膚、眼、耳鼻咽喉疾患 9. 精神疾患、事故・外傷、子どもの虐待				石川考成 担 当	
9～15	先天異常 新生児 代謝性疾患 内分泌疾患 感染症 循環器疾患	10. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 11. 新生児に多い疾患・健康障害 12. 代謝性疾患 13. 内分泌疾患 14. 主なウイルス感染症・細菌感染症 15. 先天性心疾患・後天性心疾患				近野勇樹 担 当	
学習課題							
評価 方法	筆記試験（100 点）						
テキスト 参考書等	系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論（医学書院）						

科目	小児看護学方法論Ⅱ	履修	2 年次	単位数	1	時間	30
		学年	前 期	講師名	小玉 美佳 八代 美千子		
目標	1. 小児期に多い疾患および小児各期特有の病態、診断、治療、予後について理解できる。 2. 病気・障害が子どもと家族にとってどのような体験なのか理解できる。 3. 健康レベルに応じた子どもと家族の健康問題について理解し、援助方法が理解できる。						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	子どもが病気になること	1. 子どもが病気になること（大人との違い） ・健康問題が子どもと家族に及ぼす影響 ・子どもの入院が家族に及ぼす影響 ・小児各期に応じた子どもと家族の関わり方				講義	
2～8	状況別看護	2. 状況に特徴づけられる子どもと家族への看護					
		・外来における子どもと家族への看護				講義	
		・急性期（子どもの事故、救急救命、トリアージ、誤飲、熱傷、集中治療を受ける子どもと家族への看護を含む）				講義	
		・慢性期				講義	
		・終末期（痛みのある子どもと家族への看護含む） ・災害を受けた子どもと家族への看護				講義	
		・検査・処置、手術を受ける子どもと家族への看護 （プレパレーション）				講義 演習 2 回	
9～11	症状のある子どもと家族の看護	3. 症状のある子どもと家族の看護 発疹、発熱、嘔吐、下痢、脱水、呼吸困難、けいれんのアセスメント				講義	
12	障害のある子どもと家族の看護	4. 障害をもった子どもと家族の看護 ・障害のある子どもの療養環境と生活支援 ・先天的障害、後天的障害のある子どもと家族の看護				講義 八代先生	
13～15	疾患別看護	5. 小児期に特有の疾患の子どもと家族の看護 ・肥厚性幽門狭窄症・川崎病・気管支喘息・腸重積 ・ネフローゼ症候群・先天性心疾患・熱性けいれん ・1 型糖尿病・白血病				講義	
学習課題	講義出席前にテキストの該当頁を予習して講義に臨む。						
評価方法	筆記試験（100 点）						
テキスト参考書等	ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学①（メディカ出版） 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論（医学書院） パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護（照林社）						

科目	小児看護学方法論Ⅲ 【小児看護技術と看護過程】	履修 学年	2 年次 後 期	単位数	1	時間	30
				講師名	小玉 美佳		
目 標	1. 小児看護の対象に必要な基礎的看護技術を習得できる。 2. 小児各期の特徴と看護技術の根拠を基盤に小児とその家族にあった援助方法を考えることができる。 3. 病態生理、発達をとらえた看護過程の展開ができる。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1～4	小児特有の診療に伴う技術と看護	1. アセスメントに必要な技術 1) コミュニケーション技術 2) バイタルサインの測定 3) 身体測定 2. 与薬方法と介助法 1) 注射法（点滴の滴下計算含む） 2) 直腸内与薬 3) 経口与薬 4) 吸入 3. 食事の援助 1) 経管栄養法				講義 2 回 演習 2 回	
5～7		4. 治療における意志決定の支援 （検査・処置時の看護含む） 1) 採尿 2) 採血 3) 骨髄穿刺 4) 腰椎穿刺 5) CT 検査 6) 吸入 7) バイタルサインの測定 8) 点滴				講義 1 回 演習 2 回	
8～12	看護過程	5. 事例を用いた看護過程の展開				講義	
13～15	小児特有の療養生活の看護	6. 状況に応じた療養生活の援助 1) 環境整備 2) 清潔の援助 3) 持続的点滴静脈内注射を受けている小児の寝衣交換 7. 入院中に起こりやすい事故 1) 入院中の事故防止の検討				講義 1 回 演習 2 回	
学習課題	適宜提示する。						
評価方法	グループワーク・プレゼンテーション（10 点） 看護過程（40 点） 筆記試験（50 点）						
テキスト 参考書等	ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学①（メディカ出版） 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論（医学書院） パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護（照林社）						

母 性 看 護 学

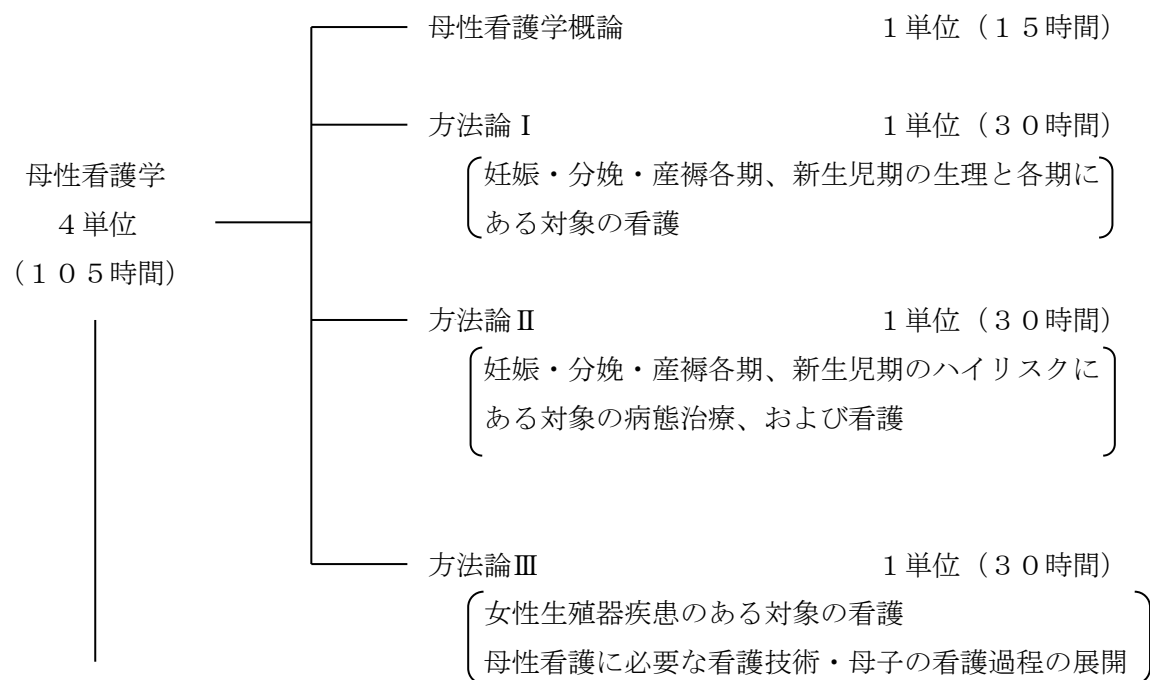
目 的

人間の性を理解し、健康な母性・父性機能を維持・向上するための看護ができる能力を養う。

目 標

- 1 人間の性の意義および母性看護の役割を理解できる。
- 2 母性・父性の発達課題を把握し、健全な母性・父性機能を果たすための援助が理解できる。
- 3 妊娠・分娩・産褥期における母性および新生児の健康問題を解決するための援助が理解できる。
- 4 母子保健の動向と母子保健医療チームにおける看護師の役割を理解できる。

母性看護学の構成



母性看護学実習

2単位 (90時間) ————— 妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護

科目	母性看護学概論	履修 学年	1 年次 後 期	単位数	1	時間	15
				講師名	小林 かおり		
目標	1. 人間の種族保存の働き・意義および母性看護の役割を理解する。 2. 母性・父性の発達課題を理解する。 3. 母子保健の動向と母子保健医療チームにおける看護師の役割を理解する。						
回数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1	母性看護を学ぶ視点	1. 母性の概念 2. 母性看護の目的・対象 3. 母性看護のあゆみ 4. 母性看護の役割					講 義 ・ 演 習 ・ グループワークを含む
2	人間にとっての性の概念	1. セクシュアリティとは 2. 女性の健康とセクシュアリティ 3. リプロダクティブヘルス/ライツとは 4. 女性の健康とリプロダクティブヘルス/ライツ 5. 性の多様性（性同一性障害、性分化疾患、LGBT）					
3 4	母性の健康と社会	1. 母子保健の現状 出生に関する統計、死亡に関する統計 2. わが国の主な母子保健施策 3. 母性と就労 4. 母性看護に関する法律					講義・課題 グループワーク 発表
5 6 7	女性のライフサイクルと健康	1. 思春期・成熟期・更年期・老年期の特徴と健康課題 1) 身体的特徴 2) 社会・心理的特徴 3) セクシュアリティの発達 2. 家族の発達課題					
8	母性看護における健康問題と看護、倫理	1. 生殖医療の現状での諸問題 2. 女性の健康問題に関する問題提起 3. 看護師の責任と倫理					
学習 課題	生命倫理に関するレポート提出						
評価 方法	筆記試験・レポート提出・出席状況						
テキスト 参考書等	系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論（医学書院） 国民衛生の動向（厚生統計協会）						

科目 目	母性看護学方法論Ⅰ 【妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護】	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	1	時間	30	
				講師名	小林 かおり			
目 標	1. 妊娠・分娩の経過を理解し、対象の看護について理解できる。 2. 産褥の経過、新生児の経過と対象の看護について理解できる。							
回 数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式		
1 2 3 4	妊婦の理解と 看護	1. 妊娠の生理と特徴 2. 妊婦の身体的・心理的・社会的特徴 3. 妊婦の健康診査 4. 妊婦の健康管理と保健指導				講義・演習・グループワーク を含む 妊婦体験課題		
5 6 7	産婦の看護	1. 分娩の生理と特徴 2. 産婦の身体的・心理的・社会的特徴 3. 産婦の健康診査 4. 分娩の経過と看護						
8 9 10 11 12	褥婦の看護	1. 産褥の生理と特徴 2. 褥婦の身体的・心理的・社会的特徴 3. 褥婦の健康診査 4. 復古現象の観察と促進 5. 乳房の観察と乳汁分泌促進・直接授乳の援助 6. 子宮復古不全、産褥熱、産後うつ病						
13 14 15	新生児の看護	1. 新生児の生理と特徴 2. 出生直後の新生児の看護 3. 新生児の日常の観察と援助 4. 低出生体重児の看護 5. 高ビリルビン血症児の看護						
学習 課題								
評価 方法		筆記試験						
テキスト 参考書等		系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論（医学書院） ナーシンググラフィカ 31 母性看護技術（メディカ出版） 病気がみえる vol.10 産科（メディックメディア）						

科目	母性看護学 方法論Ⅱ 【周産期の異常・女性生殖器疾患】		履修	2 年次	単位数	1	時間	30
			学年	前 期	講師名	椿 洋光		
目標	1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の病態・診断・治療、看護について理解できる。 2. 女性生殖器疾患の病態・診断・治療、患者の看護について理解できる。							
回数	単 元 名	授 業 内 容						授業形式
1		1. 女性生殖器の解剖						講義・演習を含む
2		2. 子宮腫瘍・卵巣腫瘍・子宮筋腫など						
3		1. 子宮・卵管の炎症						
4		1. 月経異常						
5		2. 更年期障害・骨盤臓器脱 など						
6		1. 不妊症						
7		2. 避妊・性行為感染症						
8		1. 正常妊娠 2. 妊娠悪阻						
9		3. 流産 4. 子宮外妊娠						
10		1. 早産 2. 過期産 3. 多胎妊娠						
11		1. 正常分娩 2. 産道の異常						
12		1. 娩出力の異常 2. 胎児の位置異常						
13		1. 妊娠後期の出血 前置胎盤・常位胎盤早期剥離						
14		1. 分娩時の出血 子宮破裂・頸管裂傷・弛緩出血						
15		1. 胎児モニタリング 2. 胎児の異常						
		1. 産科処置と産科手術（急速遂娩）						
		1. 産褥期の生理的変化						
		2. 産褥期の異常 子宮復古不全・乳房の異常・産褥熱・産後の精神障害・産褥血栓症						
		1. 新生児の特徴						
		2. 新生児の異常 新生児仮死・低出生体重児・分娩損傷・ 高ビリルビン血症						
		1. 母子感染（ウィルス、その他）						
		2. 合併症妊娠（糖尿病・心疾患・貧血・甲状腺機能亢進症）						
学習課題								
評価方法	筆記試験							
テキスト 参考書等	系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論（医学書院） 新体系看護学全書 成人看護学⑩ 女性生殖器（メヂカルフレンド社） ナーシンググラフィカ 31 母性看護技術（メディカ出版） 病気がみえる vol.10 産科（メディックメディア）							

科目 目	母性看護学方法論Ⅲ 【女性生殖器疾患の看護・母性看護技術】		履修 学年	2 年次 後 期	単位数	1	時間	30
					講師名	小林 かおり 近藤 美喜		
目 標	1. 母性看護に必要な看護技術を習得できる。 2. 方法論Ⅰ・Ⅱで学習した対象の理解や看護に関する知識を統合し、看護過程の展開ができる。							
回 数	単 元 名	授 業 内 容						授業形式
1	女性生殖器疾患患者の看護	女性生殖器疾患患者の看護 子宮癌 骨盤臓器脱 婦人科の主要な症状のある患者の看護						講 義 ・ 演 習 ・ グル ープワークを 含む 外部講師
2	妊娠の異常と 看護	妊娠の異常と看護 流早産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病 常位胎盤早期剥離、前置胎盤 分娩時異常出血、前期破水						
3								
4		分娩の異常と看護 胎児機能不全 帝王切開術を受ける産婦の看護（術前～術中～術後） 予定帝王切開と緊急帝王切開						
5	看護							
6・7・8 9・10	事例展開	褥婦・（新生児）の看護過程立案 課題を読んで、母性看護の事例展開をする。						学内教員 グループワ ークと個人 ワーク
11	母性看護技術	演習：妊婦体験・妊婦の健康診査 新生児のバイタルサイン測定 （演習：妊婦体操・産痛の緩和・補助動作・呼吸法）						グループ 評価
12	1							
13	母性看護技術	演習：沐浴・おむつ交換・抱き方・寝かせ方・全身の観察						
14	2							
15	保健指導・ パンフレット	保健指導立案ロールプレイ 発表 1) 沐浴指導 2) 育児指導 3) 授乳指導 4) 褥婦の生活指導						
学習 課題								
評価 方法	看護過程・保健指導ロールプレイ 30 点 演習レポート 10 点 筆記試験 60 点							
テキスト 参考書等	系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論（医学書院） 新体系看護学全書 成人看護学⑩ 女性生殖器（メヂカルフレンド社） ナーシンググラフィカ 31 母性看護技術（メディカ出版） 参考：看護実践のための根拠がわかる母性看護技術（メヂカルフレンド社） 病気がみえる vol.10 産科（メディックメディア）							

精神看護学

目的

人間の精神の健康を成長・発達、社会適応の面からとらえ、精神の健康の保持・増進、精神の障がいの予防および精神に障がいのある人への看護を統合的に学ぶ。

目標

- 1 精神の構造と機能、人間の成長発達、人間を取りまく環境要因が精神の健康に及ぼす影響を学び、人間にとって精神の持つ意味を理解できる。
- 2 看護全般における精神看護の果たす役割を理解できる。
- 3 精神看護の展開される場の特長と援助の方法を学び、精神保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解できる。
- 4 精神に障がいのある人を理解し、治療的な関わりが経験できる。
- 5 精神保健医療福祉体制の現状を学び、地域ケアにおける社会資源の活用方法を理解できる。

精神看護学の構成



科目 目	精神看護学概論	履修 学年	1 年次 後 期	単位数	1	時間	15
	【精神看護の対象・目的・役割と機能】			講師名	柴田 守		
目 標	1. 精神看護の対象、精神看護の機能と役割について理解する。 2. 精神保健と心の健康に関連する要因、維持増進について理解する。 3. ライフサイクルと精神保健及び危機について理解する。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	精神の健康と 精神看護学	1. 精神の健康と精神看護の理解 1) 社会の変化とストレス 2) 精神看護と看護師の役割 3) 精神障がい者の第一次予防、第二次予防、第三次予防				講義・演習・ グループワ ークを含む	
2	精神保健と 心の健康	2. 精神保健と心の健康 1) 精神保健の定義と領域 2) 心の構造と働き 3) 心の健康と環境				講義	
3	危機状況と心 の働き	3. 危機状況と心の働き 1) ストレス・心の危機とは 2) 危機理論とリスクマネジメント 3) 災害時の精神保健				講義	
4	ライフサイク ルと精神保健	4. ライフサイクルと精神保健 1) ライフサイクル各期の特徴 2) ライフサイクル各期における危機				講義	
5						GW・発表	
6	家族と精神保 健	5. 家族の精神保健 1) 家族システム 2) 家族療法と家族モデル 3) 家族の機能評価と援助				講義	
7	精神保健医療 福祉と看護の 歴史	6. 精神保健医療福祉と看護の歴史の変遷 1) 欧米の精神保健医療福祉と看護の歴史 2) 日本の精神保健医療福祉と看護の歴史 3) 精神医療の現状と課題				講義	
8	精神保健医療 福祉に関わる 法律	7. 精神障がい者に関わる法律 1) 精神保健福祉法 2) 障害者総合支援法 3) 心身喪失者等医療観察法―他				講義	
学習 課題							
評価 方法	筆記試験						
テキスト 参考書等	新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健（メヂカルフレンド社）						

科目	精神看護学方法論Ⅰ 【精神障がい理解】	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	1	時間	30		
				講師名	郡司 啓文 柴田 守				
目標	精神障がいの診断と治療、疾患及び症状についての基礎的理解ができる。								
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式			
1	精神（こころ） の病とは	1. 精神（こころ）の病とは				講義・演習を 含む			
2		2. 精神障がいと差別・スティグマ							
3		3. ストレングスモデルとリカバリ							
4	精神障がいと 差別・共生社会	4. 精神障がい者差別の解消と共生社会に向けて							
5		1) 障害者差別解消法							
6		2) こころのバリアフリー宣言							
7	3) 精神障がいと共に生きる								
8	精神障がいの診 断と検査	5. 精神疾患の診断・分類							
		1) 精神科の診察と検査							
		2) 精神疾患の分類							
	①アメリカ精神医学会（DSM）								
	②国際疾病分類（ICD）								
9	主な精神疾患	6. 主な精神疾患							
10		1) 統合失調症							
11		2) 気分障害（抑うつ障害・双極性障害）							
12	3) 嗜癖性障害（アルコール依存と薬物依存）								
13	4) 心的外傷およびストレス障害								
14	5) 摂食障害								
	6) 解離性障害								
	7) 強迫性障害								
	8) 神経認知障害（認知症）								
	9) 神経発達障害								
	（自閉スペクトラム症・注意欠如多動症・限局性学習症）								
15	精神疾患の主な 治療法	7. 精神疾患の主な治療法							
		1) 薬物療法							
		2) 精神療法							
		3) 電気けいれん療法（m-ECT）							
		4) 精神科リハビリテーション							
学習 課題									
評価 方法	筆記試験								
テキスト 参考書等	新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護（メヂカルフレンド社）								

科目	精神看護学方法論Ⅱ 【精神障がいのある患者の看護】	履修 学年	2 年次 前 期	単位数	1	時間	30
				講師名	柴田 守 内藤 建介 館岡 賢太		
目標	1. 精神の障がいと精神看護について理解できる。 2. 精神に障がいを持つ対象に応じた援助方法が理解できる。						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1 2	精神保健福祉法 と看護	1. 精神保健福祉法における患者処遇と看護 1) 治療の場としての精神科病棟 2) 精神保健福祉法における入院 3) 隔離・拘束時の看護 4) 行動制限と人権擁護（アドボカシー）				講義・演習・ グループワー クを含む 講義	
3 4	精神に障がいを 持つ人への看護 の基本	2. 精神障がいと看護の基本 1) 治療的コミュニケーション技術 2) プロセスレコードと自己洞察 3) 人間関係論と看護				講義	
5 6 7 8 9 10 11	主な精神症状と 看護	3. 主な精神症状のアセスメントと看護 1) 幻覚・妄想状態のある患者の看護 2) 躁状態、うつ状態にある患者の看護 3) 不安の強い患者の看護 4) 衝動興奮のある患者の看護 5) 希死念慮、自傷行為のある患者の看護 6) 拒食・拒薬のある患者の看護、他				講義 DVD レポート	
12	主な精神疾患と 看護	4. 主な疾患と看護 1) 統合失調症患者への看護 2) 気分障害患者への看護、他				講義	
13 14	治療・検査に伴 う看護	5. 主な治療・検査と看護 1) 薬物療法と副作用 2) 電気けいれん療法（m-ECT）と看護 6. リエゾン精神看護				講義	
15	社会資源の活用 とケアマネジメ ント	7. 社会資源の活用とケアマネジメント 1) ソーシャルサポート 2) 生きる力と強さへの援助 (ストレングス、リカバリ、エンパワメント)				講義	
学習 課題							
評価 方法	筆記試験						
テキスト 参考書等	新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護（メヂカルフレンド社） パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 第2版（照林社）						

科目 目	精神看護学方法論Ⅲ 【精神看護技術】	履修	2 年次	単位数	1	時間	30
		学年	後 期	講師名	柴田 守		
目 標	1. 精神看護に必要な技術・技法を理解できる。 2. 精神看護援助技術としての各療法への理解を深め実践できる。 3. 精神障がい者の精神保健福祉施策及び社会参加支援の在り方が理解できる。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	治療的コミュニケーション技術 の理解と実践 看護場面における患者理解と自己理解 精神看護に必要な看護理論 レクリエーション療法の理解と実践 看護に活かすリラクゼーション技法 精神障がい者の治療・療養環境への理解 人の心を癒す医療・看護 精神保健福祉施策と地域における精神障がい者の社会参加支援	1. 治療的コミュニケーション技術 2. 治療的コミュニケーションを使った看護場面のロールプレイング 3. 解決志向型アプローチ（SFA）と key ワード探しの演習 4. プロセスレコードの理解と看護場面の再構成 5. プロセスレコード検討会 6. プロセスレコードからの交流分析 7. オレムのセルフケア理論 8. オレム－アンダーウッド理論 9. 精神科におけるレクリエーション療法の目的・方法 10. レクリエーションの計画と実施 11. ホリスティックアプローチ 12. リラクゼーション技法の理解 13. 精神障がい者の治療・療養環境の理解 14. 隔離・拘束についてディベート 一人権への配慮・アドボカシーを考える 15. 人の心を癒す医療者・看護師のあり方 一人らの看護師像について考える 16. 精神保健福祉施策と社会参加支援 1) 精神障がいへの精神保健福祉施策 2) 精神障がい者の社会参加支援				講義・演習・グループワークを含む GW 演習 講義 GW 演習 レポート 講義 講義 GW 演習 講義 講義 演習 講義 GW 演習 レポート DVD レポート 講義	
学習 課題	講義・GW 演習に対し積極的態度で臨む 演習、見学、視聴に対し、自己の感性を磨き言語化・文章化できるよう意識する						
評価 方法	授業出席状況、GW（グループワーク）・発表、プロセスレコード、課題レポート						
テキスト 参考書等	パーフェクト臨床実習ガイド精神看護 第2版（照林社）						

看護の統合と実践

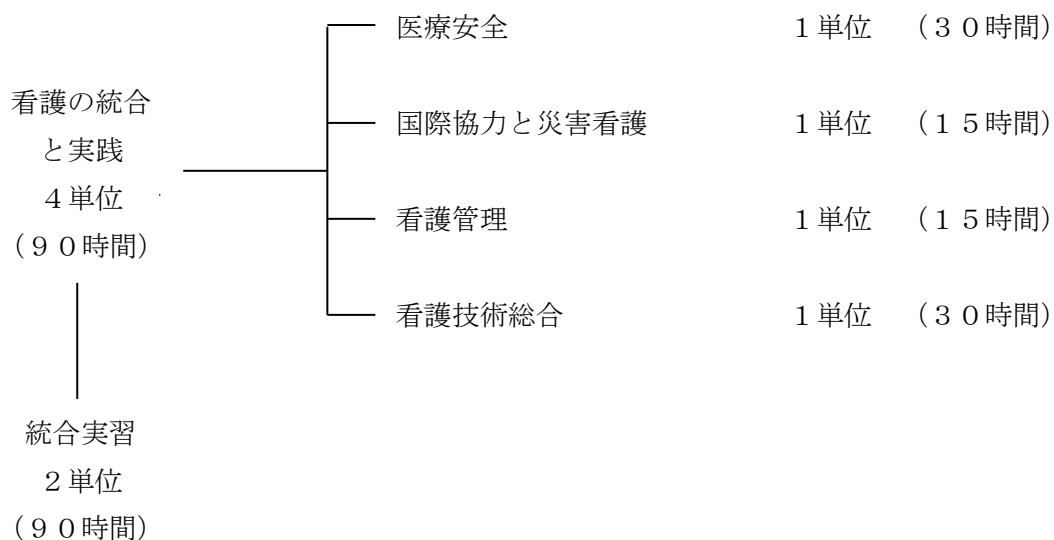
目 的

チーム医療の中での他職種との協働・連携におけるチームワークと、看護師のリーダーシップとメンバーシップという組織・管理の基礎的知識・技術の習得をする。さらに、時代の要請にこたえる国際的視野や災害に関する内容、医療安全の内容を盛り込み、畏敬の念を基に、多重課題の中で、組織の一員としての自覚を養い、安全と倫理の基本的な知識と姿勢をもって、あらゆる場面に適応する能力を育成することを目的とする。

目 標

- 1 医療従事者としての責任、看護倫理を基にルールを守り、リスクを予測した看護実践ができるための基本的知識、技術、態度を習得する。
- 2 国際協力、災害時の基本的知識・技術について理解する。
- 3 組織を理解し、チーム医療の連携・協働、臨床実践におけるマネジメントについて、基本的知識、技術、態度を習得する。
- 4 総合的な看護実践能力を評価し、判断・対応能力を習得する。

看護の統合と実践の構成



科目	医療安全と看護	履修	2 年次	単位数	2	時間	30
		学年	後 期	講師名	山平 良子・中嶋 麻衣子		
目標	1. 医療事故の現状と医療安全体制の動向を理解し、医療事故防止の考え方や必要性を理解する。 2. 医療事故のしくみや要因と潜む危険性に気づき、事故防止のための基本的な知識・技術を理解する。						
回数	単 元 名	授業内容				授業形式	
1・2	医療事故の現状と対策の動向	1. 医療安全を学ぶ意義と重要性および医療事故の現状 2. 医療安全に関する国や他国の取り組みと国際的な連携 3. 看護職および看護業務の法的規定				講義・演習を含む	
3・4	事故防止の考え方と医療安全	1. 事故発生のメカニズムと看護事故の構造 2. 看護事故防止の考え方、医療安全とコミュニケーション				講義	
5	看護学生の実習における安全	1. 実習における事故の法的責任と補償、実習中の事故予防 2. 事故発生時の対応、習得すべき看護技術のリスクと安全				講義・動画視聴	
6・7	看護業務に関連する事故と安全	1. 診療の補助の事故防止 2. 療養上の世話の事故防止				講義	
8	地域・在宅における事故と安全	1. 在宅看護における医療事故の防止と対応 2. 高齢者施設、介護施設等での安全対策				講義	
9	看護師の労働安全上のリスクと事故防止	1. 看護師の職業感染と対策、労働形態や作業に伴うリスク対策 2. 医薬品への暴露、医療機器・機材にかかわるリスクと対策 3. 医療施設や在宅看護における暴力				講義 担当：中嶋	
10	組織的な安全管理体制の取り組み	1. 組織としての医療安全対策と安全文化の醸成 2. 事故防止の具体策 3. 重大事故発生時の対応				講義 担当：中嶋	
11・12 13・14	事故分析	1. 危険予知トレーニング：療養上の世話と診療の補助業務 2. 看護学実習中ヒヤリ・ハット事例の共有・分析・具体策発表 3. 事例集の事例分析：診療の補助編、療養中のケア編				講義・動画 グループ・個人ワーク	
15	まとめ	1. 振り返りと知識の確認および小テスト				講義	
学習課題	成人・老年看護学実習Ⅰでのヒヤリ・ハットレポートを作成し、グループで事故分析を行うテキストの該当ページを予習・復習して授業にのぞみ、授業形式を問わず積極的に受講する						
評価方法	筆記試験、提出物・課題の提出状況と内容をもとに評価する 筆記試験 70 点 演習状況・提出物 30 点提出期間内に提出したものを評価対象とする						
テキスト参考書等	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全（メディカ出版） 系統看護学講座専門分野 看護の統合と実践 2 医療安全（医学書院） 実習前に必ず見よう！事例で学ぶヒヤリ・ハット、事例で学ぶ医療安全（VISUALEARN）						

科目	国際協力と災害看護【災害看護】	履修 学年	3 年次 前 期	単位数	1	時間	9／15
				講師名	山平 大介 齋藤 和樹		
目 標	1. 災害および災害看護に対する関心を持つことができる。 2. 災害および災害看護に関する基礎的な知識ならびに必要な技術を理解する。 3. 様々な時間と場における看護の役割を理解する。 4. 災害看護の必要性を認識し、災害発生時の自己の行動を考えることができる。						
回 数	単 元 名	授 業 内 容					授業形式
1	災害とは	1. 災害の歴史 1) 過去の災害例 2) 歴史からの救護活動 3) 災害と社会システム（法と情報） 2. 災害の種類と特徴 1) 災害の種類（自然災害・人為災害・複合災害・特殊災害） 2) 災害の特徴（人間と生活・生活様式・各災害特徴） 3. 災害の定義 4. 災害のもたらす健康問題 5. 法的根拠 1) 災害対策基本法 2) 災害救助法 3) 被災者生活再建基本法 4) 災害派遣医療チーム 5) 災害拠点病院 6. 災害と情報 1) 情報の種類（危険回避・被害・生活・復興） 2) 伝達手段とシステム 7. 災害サイクル（急性期・慢性期・復旧復興期・静穏期・訓練備蓄・予兆期）					講義・演習・を含む
2	災害看護とは	1. 災害看護の概念 1) 定義 2) 役割 2. 災害地域アセスメント 避難場所での看護（弱者・食料生活物資・病態への看護・安全性への配慮・感染対策・環境調整・居住スペース確保・共有スペース確保・多様症状出現への対応）					

回 数	単 元 名	授 業 内 容	授業形式
3	災害看護活動の 実際	3. 災害サイクルに対応した看護 1) 救急医療活動・救急救命（搬送・心肺蘇生・応急処置） 2) 精神看護 3) 感染症対策 4) 保健指導 5) 他職種との連携 4. トリアージ 1) トリアージの法的問題 2) トリアージプロトコール 3) トリアージタグ 5. 関連機関や職種・地域との連携、社会資源 1) 避難場所での看護（弱者・食料生活物資・病態への看護・安全性への配慮・感染対策・環境調整・居住スペース確保・共有スペース確保・多様症状出現への対応） 2) 自治会・民生委員・生活相談員・家族・収容施設・フォーマル・インフォーマル・保健士・精神保健福祉士・消防・警察・医師・心理療法士・ケアマネージャー 3) 地域福祉・生活保護 6. 災害とこころのケア 1) 災害時のこころのケアの必要性 災害のストレス反応（被災者のストレスと救援者のストレス）、MHPSS と PFA IASC とスフィアハンドブック 2) こころのケアの対象者 3) 災害時の心理的回復過程（英雄期・ハネムーン期・幻滅期・再建期） 4) こころのトリアージ PTSD と ASD と PTG 1. 防災活動 地域防災・救急訓練に参加する	講義・演習・を含む
4			
5			
学習 課題			
評価 方法	課題レポート 筆記試験		
テキスト 参考書等	テキスト：災害時のこころのケア ～日本赤十字社の心理社会的支援～（日本赤十字社）		

科目	看護管理	履修 学年	3 年次 前 期	単位数	1	時間	15
				講師名	京谷 直美 櫻井 史子		
目標	1. 看護にかかわる組織管理を理解できる。 2. 看護のマネジメントを理解できる。 3. 看護理論について学習を深め、看護を探究することができる。						
回数	単 元 名	授業内容					授業形式
1	I 看護管理 とは	1. 看護管理の定義 2. 看護におけるマネジメント 1) 組織論 2) 理論 3) マネジメントの変遷					
2	II 看護ケア のマネジメン ト	1. 看護ケアのマネジメント 1) プロセス 2) 看護職の機能 2. 患者の権利の尊重 3. チーム医療 1) チーム医療とは 2) 必要な機能 3) 看護職の責任と役割 4) 多職種の連携と協働 4. 看護業務の実践 1) 看護業務 2) 看護基準と手順 3) クリテイカルパス 4) 情報の活用 5) 日常業務のマネジメント 6) EBN/EBM/EBP・研究成果の活用					
3		5. 安全管理 1) 安全管理の仕組み 2) 医療事故対策 3) 院内感染対策 4) 災害の予防と対応					
4	III 看護職の キャリアマネ ジメント	6. キャリアとキャリア形成 1) 看護職のキャリア形成 2) タイムマネジメント 3) ストレスマネジメント					
5・6	IV 看護サー ビスのマネジ メント	7. 看護サービスのマネジメント 1) サービスとは 2) マネジメントの対象と範囲 8. 組織目的達成のマネジメント 9. 看護サービス提供のマネジメント 10. 人材のマネジメント 1) キャリアデベロップメント 2) 人材フロー 3) 労働時間					

回 数	単 元 名	授 業 内 容	授 業 形 式
7	V マネジメ ントに必要な 知識と技術	11. 環境のマネジメント 12. 物品のマネジメント 13. 情報のマネジメント 1) 情報の種類 2) 情報の管理 3) 守秘義務 4) プライバシーの保護 5) 情報開示への対応 14. 組織におけるリスクマネジメント 15. サービスの評価 1. 組織とマネジメント 2. 理論 3. 組織の調整 4. 看護を取り巻く制度	
8	試験		
学習 課題			
評価 方法	筆記試験		
テキスト 参考書等	系統看護学講座統合分野 看護の統合と実践① 看護管理（医学書院）		

科目	看護技術総合	履修 学年	3 年次 後 期	単位数	1	時間	30
				講師名	山平 良子		
目標	1. 各領域実習における学びを複合し、模擬患者の状態に応じた看護実践ができる。 2. 複数の課題をもつ模擬患者の状態に合わせ、科学的根拠に基づく看護計画の立案と看護実践ができる。 3. 看護実践能力・看護技術の到達度を確認し、自己の課題を明確にできる。						
回数	単 元 名	授 業 内 容				授業形式	
1	領域別事例の看護実践	1. 技術総合の学習方法と授業課題の説明 1) 授業の具体的な進行方法 2) 領域別事例(7 領域)および課題の提示と担当の決定				講義・個人ワーク	
2		2. 領域別事例の看護過程展開 1) 病態・状態のアセスメント 2) 看護計画立案 3) グループワーク学習内容の提出①				グループワーク (以下 GW とする)	
3		3. 領域別演習のシナリオ作成 1) 初回シナリオの提出②				GW	
4		4. 領域別演習に向けたグループワーク 1) 初回シナリオに基づいた看護実践 2) シナリオの追加・修正				GW	
5		5. 領域別演習に向けたグループワーク 1) 追加・修正後シナリオに基づいた看護実践 2) 最終シナリオの提出③				GW	
6		6. 領域別演習に向けた準備				GW	
7		7. 7 領域別事例の看護実践と振り返り・評価				演習・GW	
8		1) 領域別事例の看護場面をグループ毎に発表					
9		2) グループ終了ごとに意見交換 (フィードバック)					
10		3) 実施・見学グループごとに評価記録用紙を記入し提出④					
11	多重課題事例の看護実践	8. 多重課題事例演習ガイダンス 1) 事例紹介および課題の提示 2) 演習方法の説明				講義・GW	
12		9. 多重課題事例の看護実践と振り返り・評価				演習・GW	
13		1) 演習方法は、領域別演習に準じる					
14		2) 実施・見学グループごとに評価記録用紙を記入し提出⑤					
15		3) 演習のすべてが終了した後に筆記試験を行う					
学習 課題	授業の進行状況に応じて、提出物を含め、適宜指示する 授業形式を問わず、既習内容・文献検索を行ない積極的に受講する						
評価 方法	記録物 (提出物①～⑤) の内容・提出状況および演習の実施状況 70 点 筆記試験 30 点						
テキスト 参考書等	指定はしないが、既習の授業および実習 (特には専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ・統合分野) で使用したテキストや授業資料、実習に関連した資料など、修得した看護技術は最低限必要である。						